

300  
2

象牙彫刻法乾終



蜻蛉



白蝶



蟬



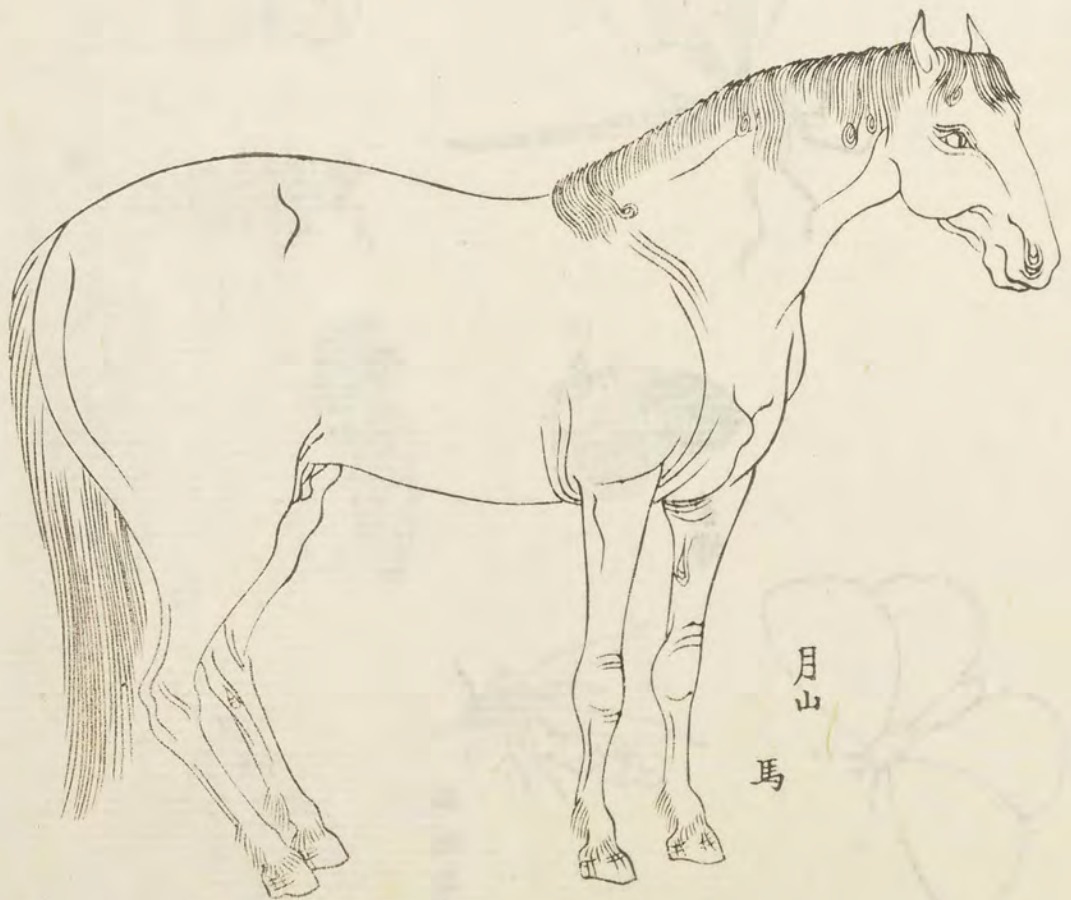
茶蝶



蛾蝶  
銀裝



蜂蚋ヨリ茶蝶ニ至ル迄  
 ノ間ノ諸圖ハ彫刻物ニ  
 アラスシテ唯名家ノ画  
 又ハ寫生ノ画ヲ示シテ  
 彫刻上ノ参考ニ供セ  
 シモノナリ



月山  
 馬

公美  
飾籃



鸚鵡

猫



田公喜  
菊

参考





端  
蟻

裏  
底  
巾  
一  
寸  
三  
分



蚋



底巾一寸一分五厘



孫叔敖母，曰  
 有陰德者，天  
 報以福。

九  
 衲蜂逃生

九先 高四寸五分 底一寸四分 上市如圖  
 明治三十年四月二日作

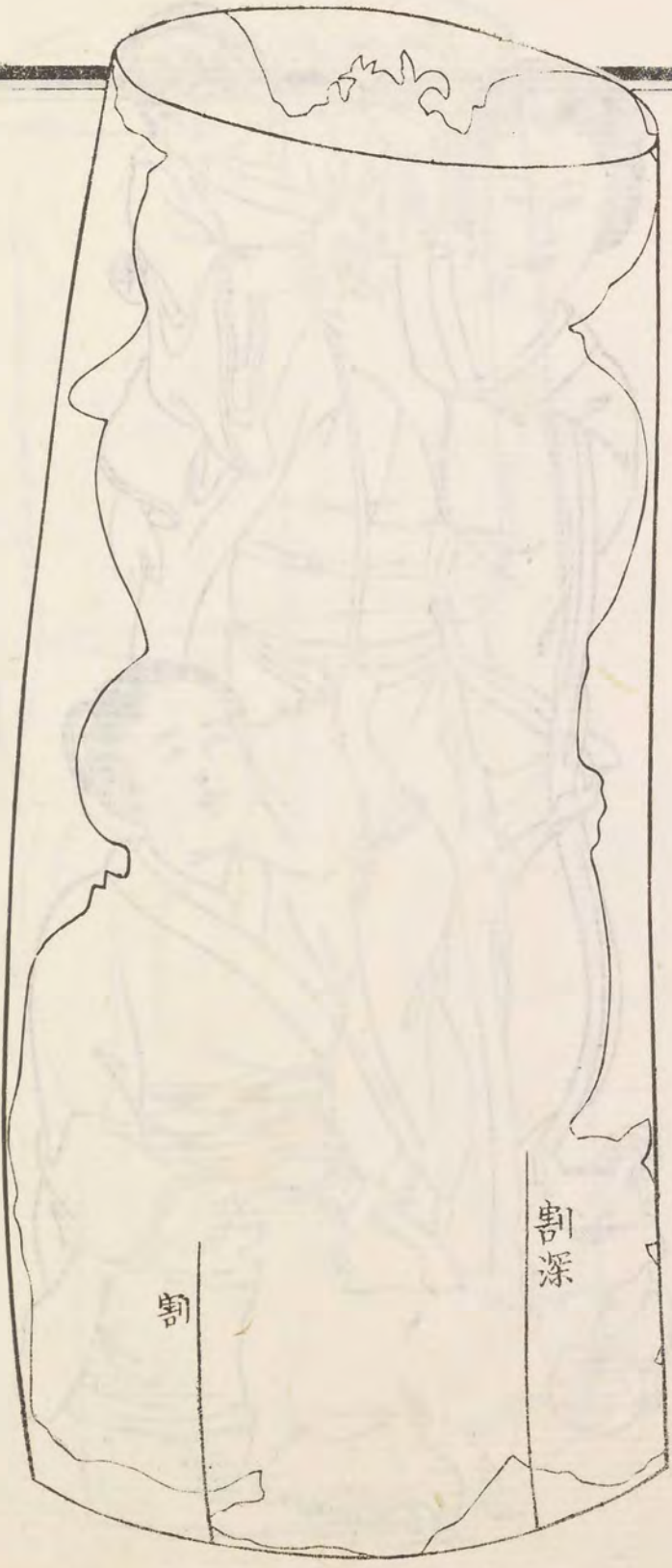
蜂







材料ニ割アル片ハツノ左右ニ繋ぎヲ使ハス只割ノ一方ヲ穿  
 ツテ後図ヲ繋スレハ落成シテ材料ノ小縮ヲ見サルヘシ



割

割深



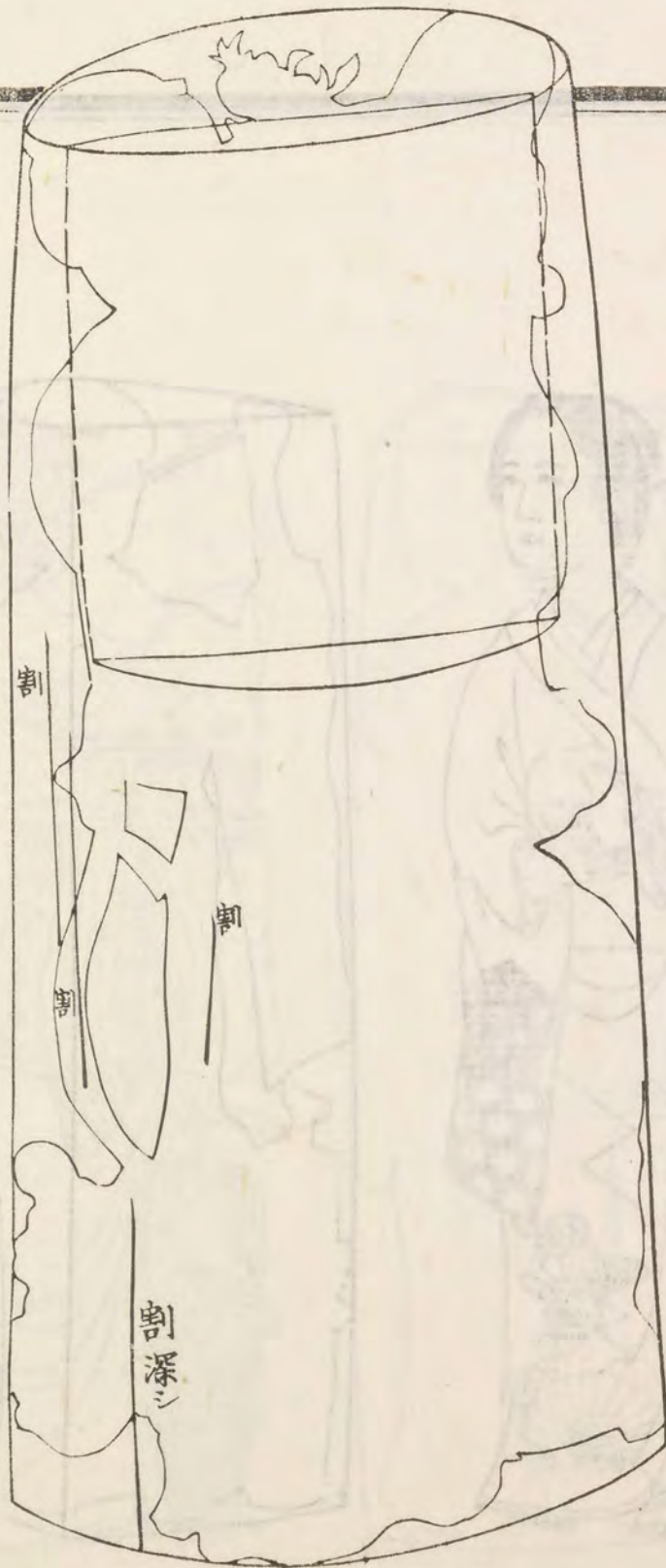
Vertical text on the right side of the page, likely a title or description, rendered in a stylized font.

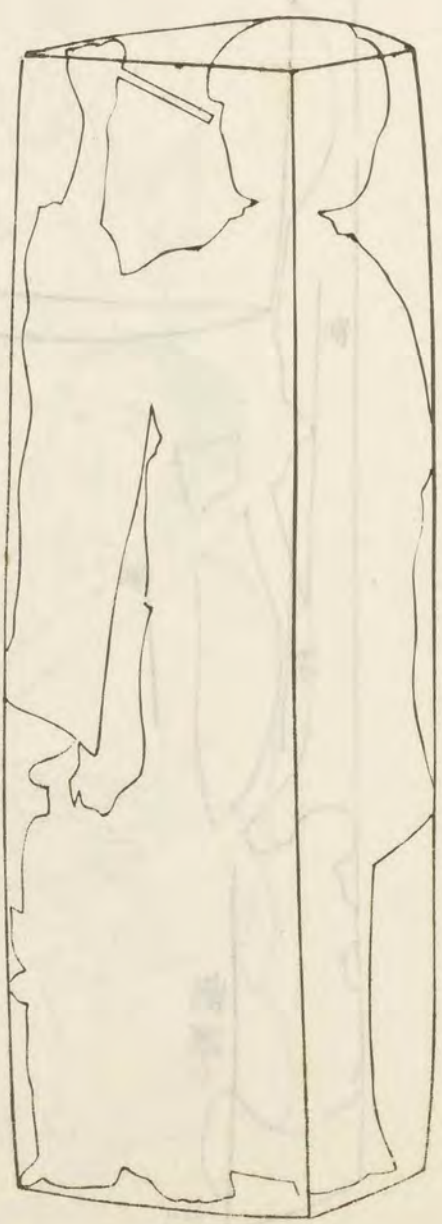
木八乾

孟子曰老吾  
 老以及人之  
 幼以及人之  
 幼及入之幼

八 新婦愛兒

大玉截 高六寸七分 巾三寸 奧巾凡三寸五分 割深  
 明治三十年二月廿六日作





井上

詩云鴉鳩在  
桑其子七分  
淑人君子其  
儀一兮其儀  
兮一分心如結

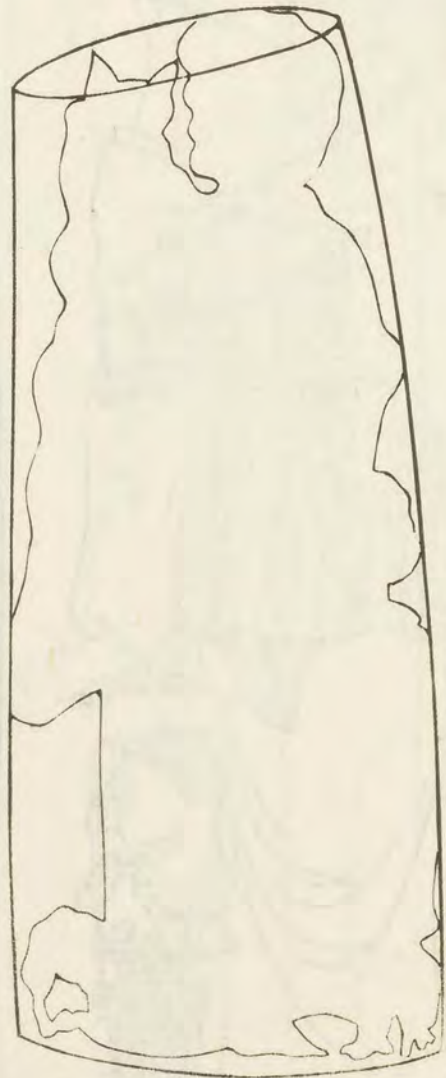
七 婦容可愛

撥落三角木地高五寸二分巾一寸九分上下同

明治十九年十月廿三日作



初心ノ克ク用エル材料ナリ



烏夜啼  
 慈鳥失其母  
 啞々吐哀音  
 晝夜不飛去  
 經年守故林  
 夜々夜半啼  
 聞者為沾襟  
 聲中如告訴  
 未及反哺心  
 百鳥豈無母  
 爾獨哀怨深  
 應是母慈重  
 使爾悲不任  
 昔有吳起去  
 母歿喪不臨  
 哀哉若此輩  
 其心不如禽  
 慈鳥復尋鳥  
 鳥中之曾參  
 白樂天

六 猫兒失母

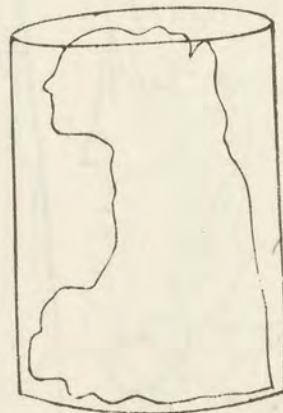
午房木地 玉截卜去 高四寸六分 底中一寸八分 上中一寸四分

明治十九年八月廿九日作





此ノ本地ハ水彫小刀ヲ用ユヘシ  
 黄石公張良共ニ模様ヲ附セス

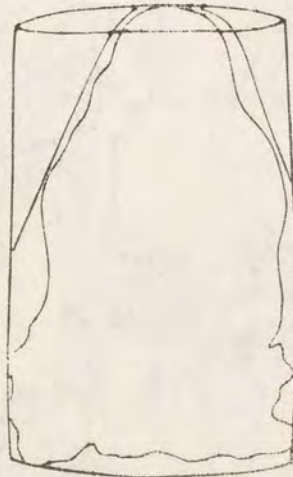


孟子曰、為長者折枝、語人曰、我不能、是不為也、非不能也。

五 勿侮長者

樟腦木地俗人造象牙卜云黃石公高二寸巾一寸三分

張良高一寸六分巾一寸一分五釐 明治十九年八月十日作





材料ノ如何ニノ

ニ拘泥シテ彫刻

セハ活潑ナル等

カヲ加フル能ハ

スシテ後遺物自

ラ妙趣ヲ失フ故

ニ冗木地ノ出ル

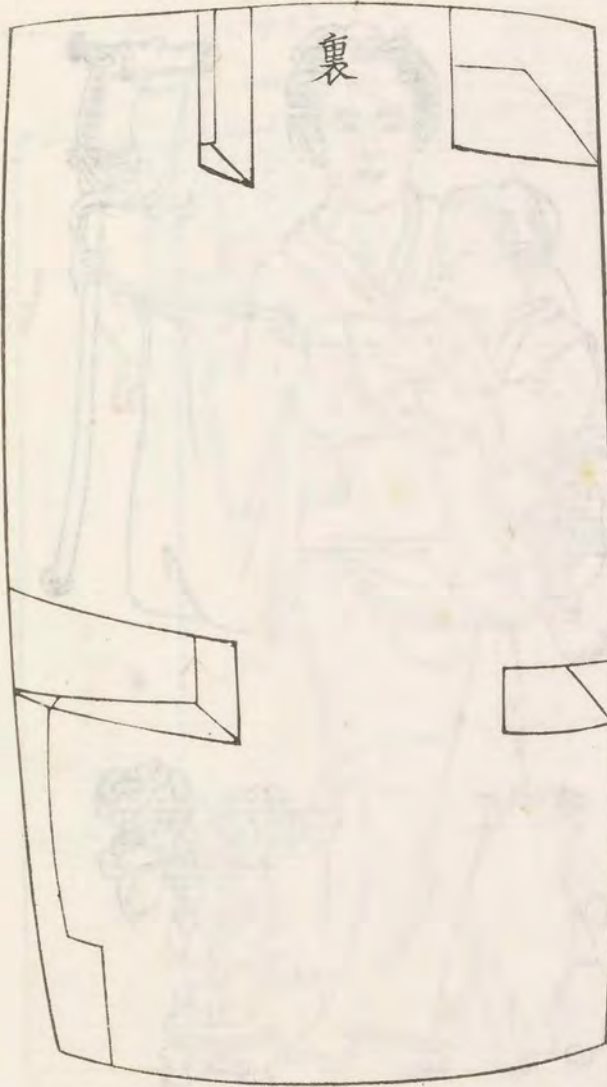
ヲ惜マス切斷ス

ヘキハ切斷シ然

レモ其彫刻物ノ

小縮セサルヲ注

意スヘシ

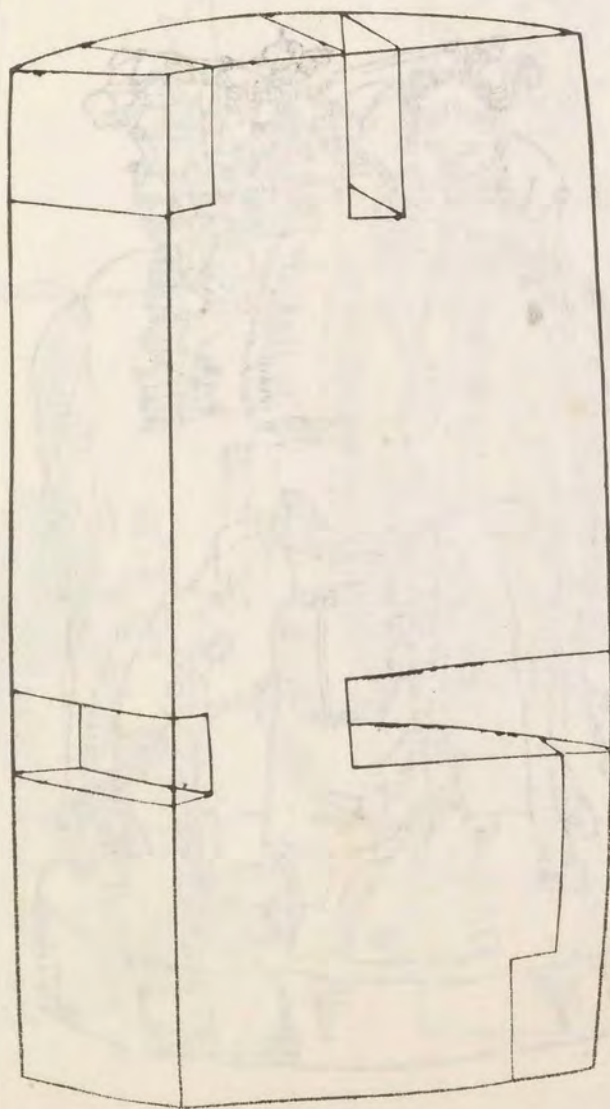
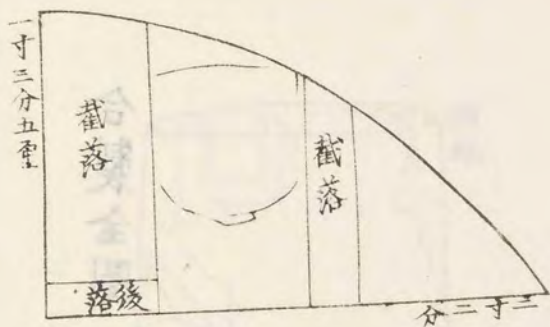




子曰、姓相近也、習相遠也、淮南子曰、楊子見遠路而哭之、為其可以南、可以北、黑子見練絲而泣之、為其可以黃、可以黑、高誘曰、憫其本同而未異、

四 育兒嬉戲

撥落、三角木也、高四寸六分、前巾二寸二分、與巾一寸三分五厘、明治十九年八月一日



合製全圖



林三



鋸跡



細牛房

高二寸三分中一寸四分上奥一寸二分底稍濶

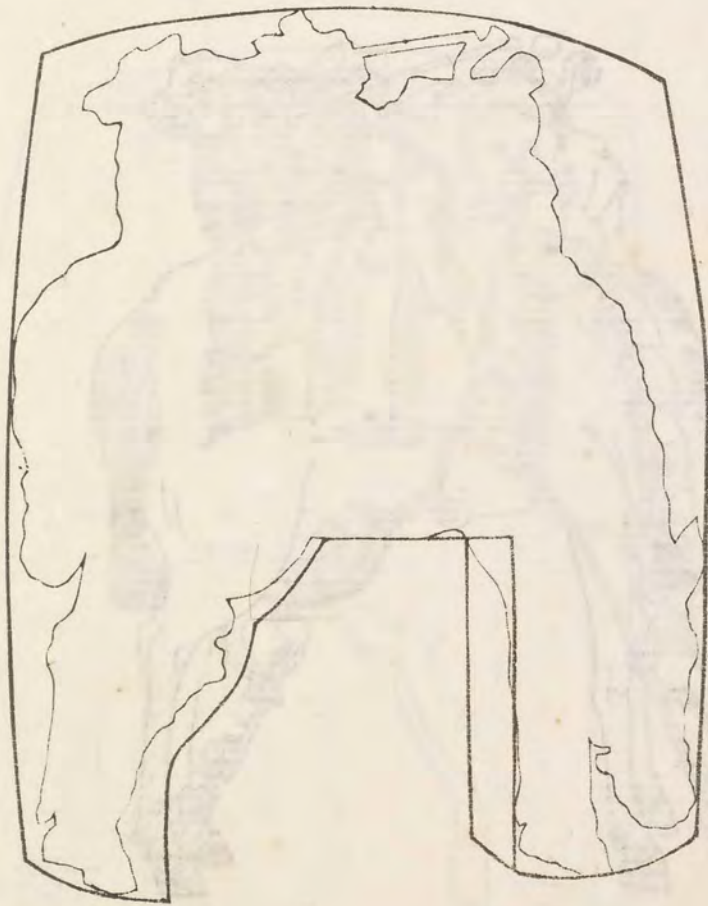


木跡











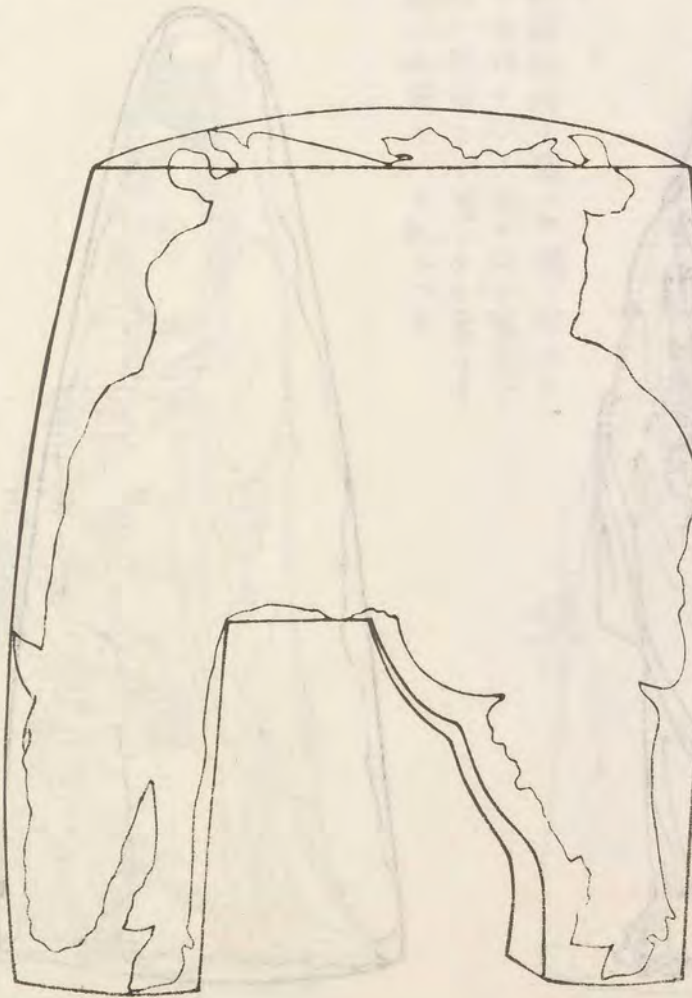
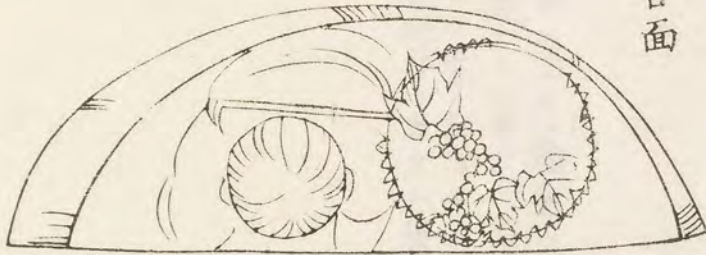
燕外山將遍  
 人間日易斜  
 不知茶換世  
 柯爛未還家  
 李俊民

三牧童思婦

割木地

高三寸五分  
 上巾一寸六分  
 中巾稍廣  
 下巾二寸九分  
 奧巾一寸  
 明治十九年六月廿五日

截口面

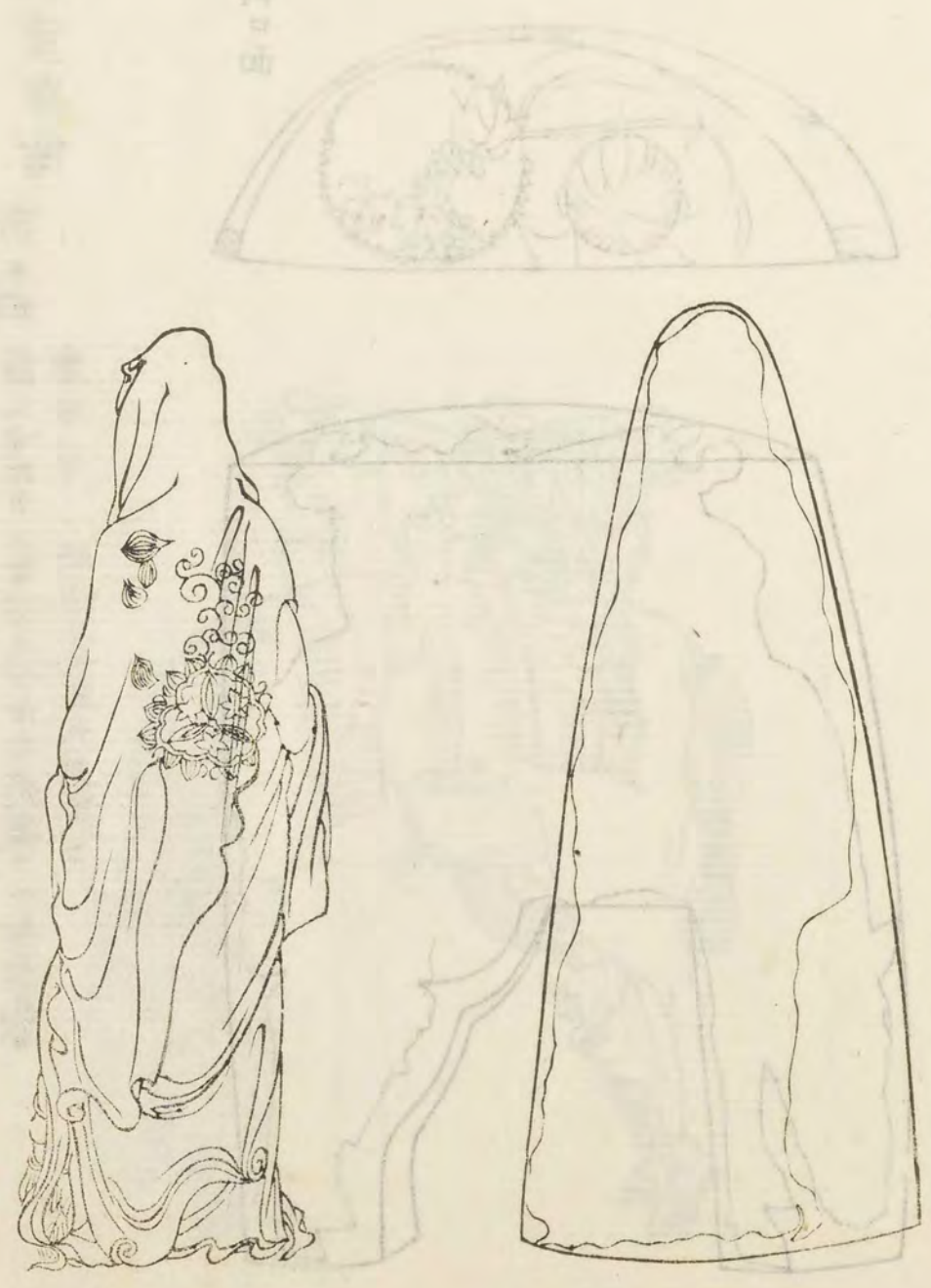


三牧童思婦

三才圖會  
卷之四  
衣冠  
第...  
...

角口面

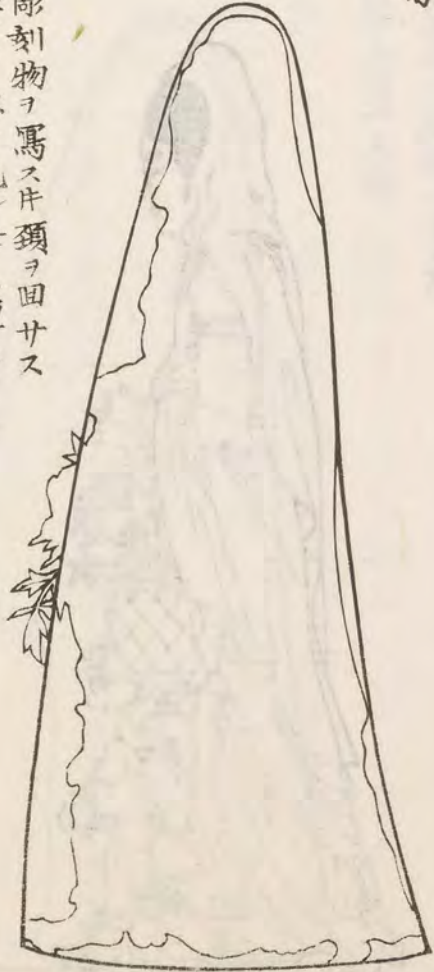
底淵前部同



十一  
乾

底溜一寸七分

木地外ニ出タル輪廓ハ該彫刻物ヲ寫ス片頸ヲ回サス  
躰ヲ振サス凡右目ヲ閉テ左目ヲ以テ見ル処ヲ寫者ナ  
レハ少ク裏ノ部分ヲ前面ニ浮伸シテ寫シタル者ナリ  
凡テ木地外ニ出タル筆痕ハ如斯モノト知ルヘシ



底濶一寸五分

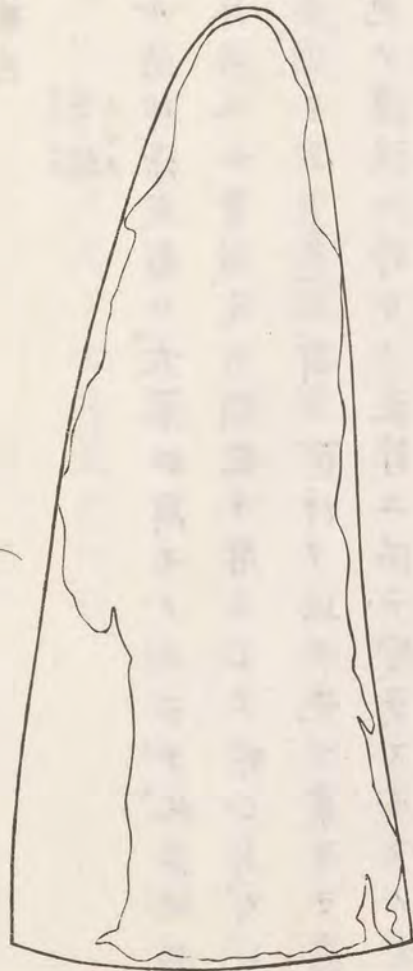
此像高四尺五寸五分  
其像之體態與  
此像之體態與  
此像之體態與  
此像之體態與



莊子曰：腐之  
 人，夜半生其  
 子，遠取火而  
 視之，汲然  
 唯恐其似已  
 註曰：惡人，生  
 子，恐其似已  
 是，自知其惡  
 也，彼且自知  
 而世之惑者  
 皆不自知，則  
 不如厲人矣  
 以前面大惑  
 終身不解，大  
 愚終身不靈

二 主美奔魄

丸先 高四寸底洞一寸三分  
 明治十九年五月一日作





着色心得

○古代色

一 矢車ヤシキ

矢砂ヤサ氏云當時矢車越幾斯ナ  
ルモノ製出シテ尤モ便ナリ

渋木シベキ

桃皮モモ氏云是モノ又渋木  
越幾斯ナルモノアリ

○紫竹色

一 矢車

茜根セイコン  
或茶粉

録ロク磬ハ

○施色

一 丹柄タンカダ

丹皮タンヒ

矢車

茶汁

倍ニ晩茶ト云時々加ヘテ年  
中消渴セサルヲ用ユヘシ

○補裨色

一 柘セキ

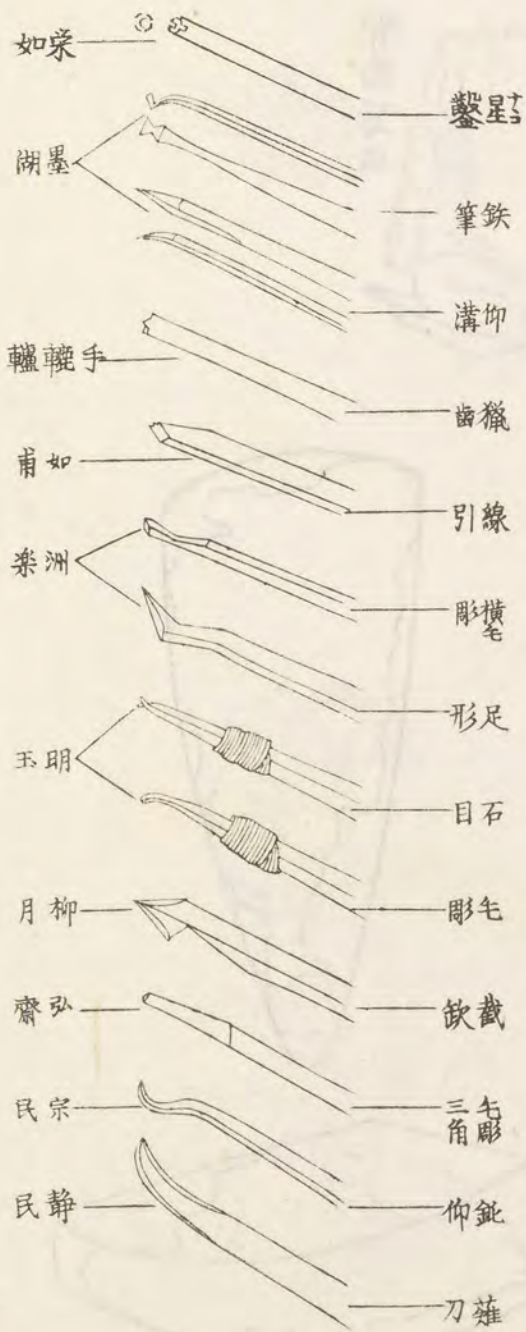
蘇木スオウ

黃柏オウバク  
キワタ

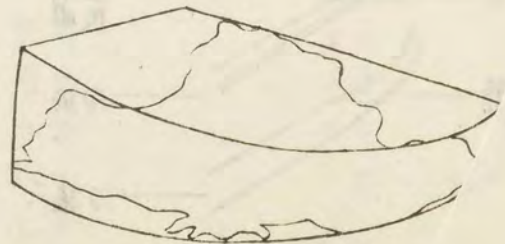
象牙彫刻品ニ用ユル漆艸漆皮類ハ、大畧如斯モノニシテ、此漆材料ヲ煮  
ルニハ、尤モ鉄釜ヲ忌ムヘシ、青銅又ハ銅鍋ヲ用ユルヲ好シトスレ氏土  
鍋ニ過キタル者ナシ、而シテ着色以前ニ酢汁ヲ以テ先ツ象牙ヲ煮和ラ  
クルヲアリ、備亦着色ノ濃淡ハ時々ノ流行ニ沿テ變更スルモノナレハ、  
斯ニソノ法ノ一定ヲ示ス難シ、故ニ當ソノ心得ヲ記シテ参考ニ拱スル  
ノミ、以下二十二設題延ノ製作物ニ施色シタルハ皆之ニ倣ヘリ、

變形小刀

前ニ掲ケタル小刀ヲ以テ、一般ノ彫刻ヲナシ得ルト雖、更ニ又左ニ載セタル諸形ノ小刀ヲ用ユレハ大ニ便利ヲ感スヘシ、是皆實業者カ毛彫リノ模様彫リ等ノ仕上ノ場合ニ臨ミ、適宜ニ改良シタルモノニシテ、其鋒ト柄ノ長短ハ各自ノ便宜ニ造レルモノナリ、總テ是等ヲ研ク片ニ尤モ砥石ヲ撰ハサルヘカラス、蓋シ截味ハ元ヨリ下鋼ニアリト雖、砥石ニ因テ利鈍ノ變更ヲ未タスモノナレハ、能ク之ヲ心得置クヘシ、



背面寫生



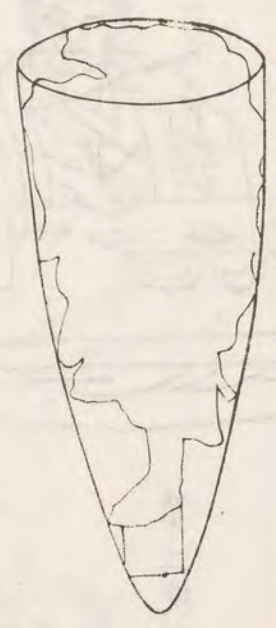
在山泉水清  
 出山泉水濁  
 社子美  
 避世嫌山淺  
 逢入說姓稀  
 廟崔塗

一 避俗愛鈍

象牙丸先陸落<sup>ロクオトス</sup>合木地 高二寸七分 蝦蟇之廣三寸 狹一寸分  
 明治十九年三月廿六日作



蝶



近環顧其中  
未見可師者  
雖嘗好言論  
為文章甚不  
自是也不意  
吾子自京師  
未嘗夷間乃  
幸見取僕自  
卜固無取假  
令有取亦不  
敢為人師為  
衆人師且不  
敢況敢為吾  
子師乎孟子  
稱人之患在  
好為入師由  
魏晉氏以下  
人益不事師  
今之世子聞  
有師有轉譯  
笑之以為狂  
人獨韓愈奮  
不顧流俗犯  
笑侮收台後  
學作師說因  
批頽而為師  
世果羣怪聚  
罵指目牽引  
而增與為言  
詞愈以是得  
狂名居長安  
炊不暇熟又  
挈之而東如  
是者數矣

場

第五仕上着色  
或寫形

以上連列シタル使用方法ヲ  
學ヒ、又此圖ノ全体ノ次第ヲ  
見テ、師匠ヲ煩ハサス、先ツ獨  
其業ノ道ヲ悟リ、勤メテ餘力  
アラハ、尚文ヲ習フヘシ、朱子  
所謂切以刀鋸、以鑄錫、皆治  
骨角之事、無用之言、而辨之、不  
急之、務而察之、非惟無益、反害  
於心、故當棄而不理、ト如斯職  
業者、ニ向テ、深ク學問ヲ責ル  
ニアラサレ、凡製作物ノ風彩  
ハ、學問ノ力、間接ニ推布スル  
ト大也、而シテ之レヲ學フヤ  
如何、只業精於勤、荒於嬉、行成  
於思、毀於隨、



第三使小刀

此圖  
師匠  
之  
寫  
形

韓退之曰聖  
醫樂師百工  
之人不耻相  
師王大夫之  
族曰師曰弟  
子云者則羣  
聚而笑之問  
之則曰彼與  
彼年相若也  
道相若也位  
卑則足羞官  
盛則足誇嗚  
呼師道之不  
復可知矣巫  
醫樂師百工  
之人君子不  
齒今其智乃  
反不能及其  
可怪也歟聖  
人無常師孔  
子師襄老聃  
弘師襄老聃  
鄭子之徒其  
賢不及孔子  
子曰三人行  
則必有我師  
是故弟子不  
必不如師師  
不必賢於弟  
子聞道有先  
後術業有專  
攻如是而已  
柳子厚答韋  
中立曰僕道  
不篤業甚淺

工

第四磨



第一用鋸

第二使鑿

俊明克用

台樂人 察考之如

逐フ而已トハ、皆意外ニ出テ、其意ヲ形容シ得テ尤モ妙ナルヘシ、凡テ問  
題上ニ向テ意味ヲ論スル中ハ、直接間接アリ、厩戸皇子、菅原道真ノ肖像ト  
云ヘハ、即チ直接ニシテ、深意ノ在アルニ非ラス、一路清廉之図、一品當朝之  
図杯トハ、意味間接ニシテ、之レヲ隱題ト称ヘ、則チ音相通スルヲ以テ、描ク  
ト多シ、一路ノ路ハ、鷺ト音相通シテ、水邊葦葭ニ鷺ヲ描クヲ以テ、其意ヲ表  
ハス、亦濱邊ノ浪ノ擣ヅタル処ニ、鶴ノ居ル畫ヲ描クヲ、之レヲ一品當朝之  
圖ト題スルナリ、是昔文一品ノ官位ノ服ノ衣袴ハ、仙鶴ノ補子ナリ、故ニ一  
品ハ、一濱ニ音相通シ當朝ハ、當潮ニ音相通シタル故ニ、文一品官ノ朝廷ニ  
當スルト、云意ヲ祝シテ、一ノ濱邊ニ、鶴ノ居ル畫ヲ掛ケテ、文官ノ人ヲ請フ  
ニ、用ユルナリト、堂上白頭、福祿壽、玉堂富貴、一笑、桃柳四燕、九皋鳴鶴、雜群鶴  
立ノ類ハ、皆間接ノ隱題ナリ、亦山水ノ画題ハ、多ク直接ノ命題ナリト、魚、文  
意ニ牽束セラレテ、文句ノ儘ノミニ、許リ描キテハ、繪画ノ趣向、甚タ薄ク、且  
ツ氣韻風致ニ乏シ、故ニ、四趣四季トテ、一ハ遠近、二ハ道路、三ハ水湖、四ハ堂  
宇是等ノ、位置經營ヲ心得テ、後文句ハ、規矩ニ据置キ、文意ノ外ノ餘情、入深  
クアラレトヲ描キ、且ツ彫刻スルハ、美術家ノ本色トセサルヲ得ンヤ

子曰射有似  
乎君子失諸  
正鵠反求諸  
其身

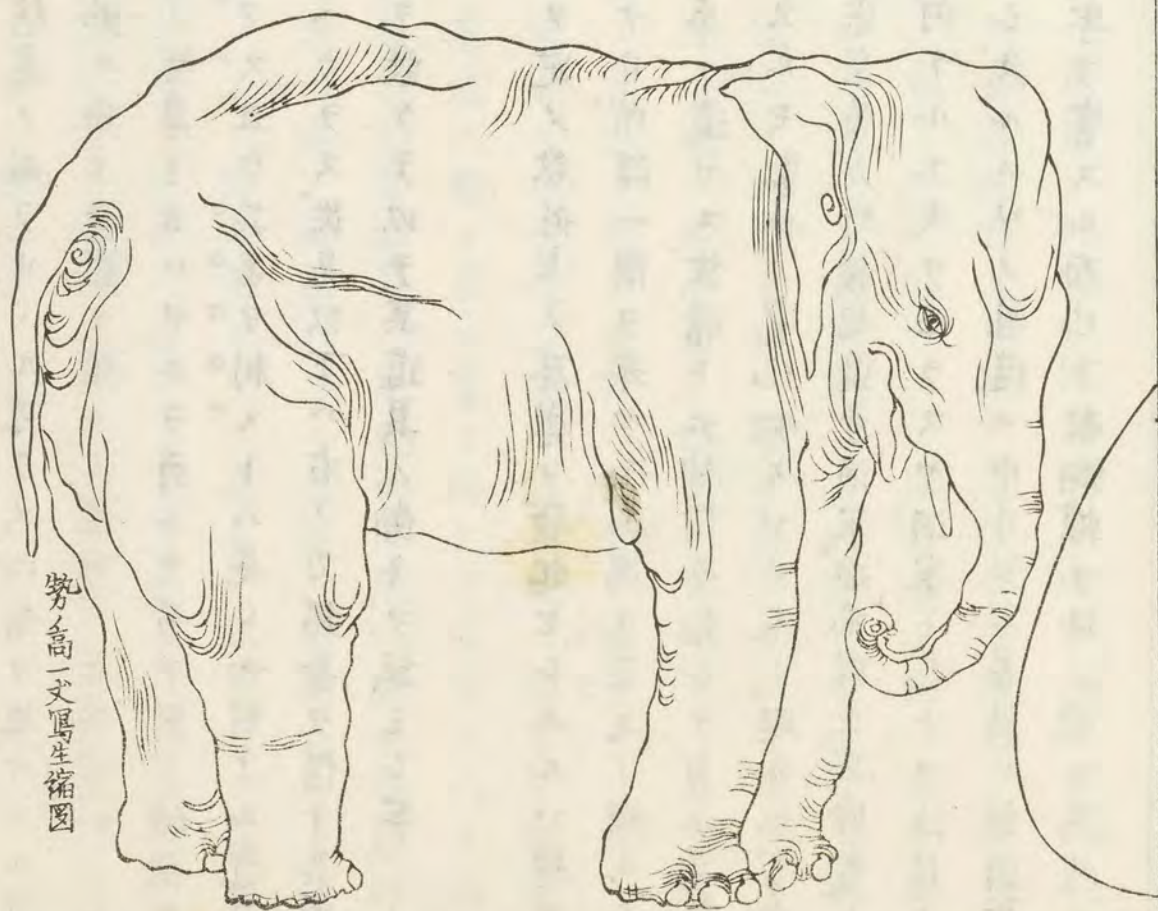
ル哉殊ニ彫刻家之レヲ得テ稍慮ヲ廻ラサ、ル可ラス心智ヲ施サ、ル可  
ラス一個ノ片塊モ其人ノ智能ニ由テ奇觀ヲ顯ハス無用ノ牙塊變シテ有  
用ノ物体トナル豈ニ技術家ノ智惠ト云ハサルヲ得ンヤ弓ヲ張テ鴻鵠ヲ  
得ント欲セハ先ツ其心ヲ正フス且ツ其器ヲ利ストハ是レ如何ナル意ヲ  
指シナルヤ深ク推察セサルヘカラス從是以下ハ右ノ刀鋸等ヲ借テ其順  
序ニ基キ実物實體ニ當リ題ヲ設ケテ以テ其道具ノ働キヲ試ミシ矣

### 題意

千百人目的ヲ同フシテ進路ヲ定メ無形上ノ思慮ヲ發起セシムルハ題ヲ  
以テ引誘セサルヲ得サル者ナリ所謂一隅ヲ舉ケテ三隅ヲ反スノ理ニシ  
テ各意匪ニ依リ小心ト云一事ヲ遺サス放膽ト云神情活動シテ自ラ是等  
ニ分別生シ偶其目的ヲ同クスルモ製体ノ變化必スソノ人ニ起ルヘシ今  
吾假リニ政和ノ世ニ生レ徽宗皇帝カ竹鎖橋邊賣酒家踏花歸去馬蹄香ト  
此ノ二題ヲ命セラルレハ如何ナル工夫ヲ回ラスヤ酒家ト花トニ注目ス  
ルトハ吾人等ノ通例タルヘシ然ルニソノ魁選ニ中リタル善画ハ橋頭竹  
外ニ於テ一酒帘ヲ掛ケテ酒字ヲ書スル而已ト教蝴蝶ヲ掃テ飛テ馬後ヲ

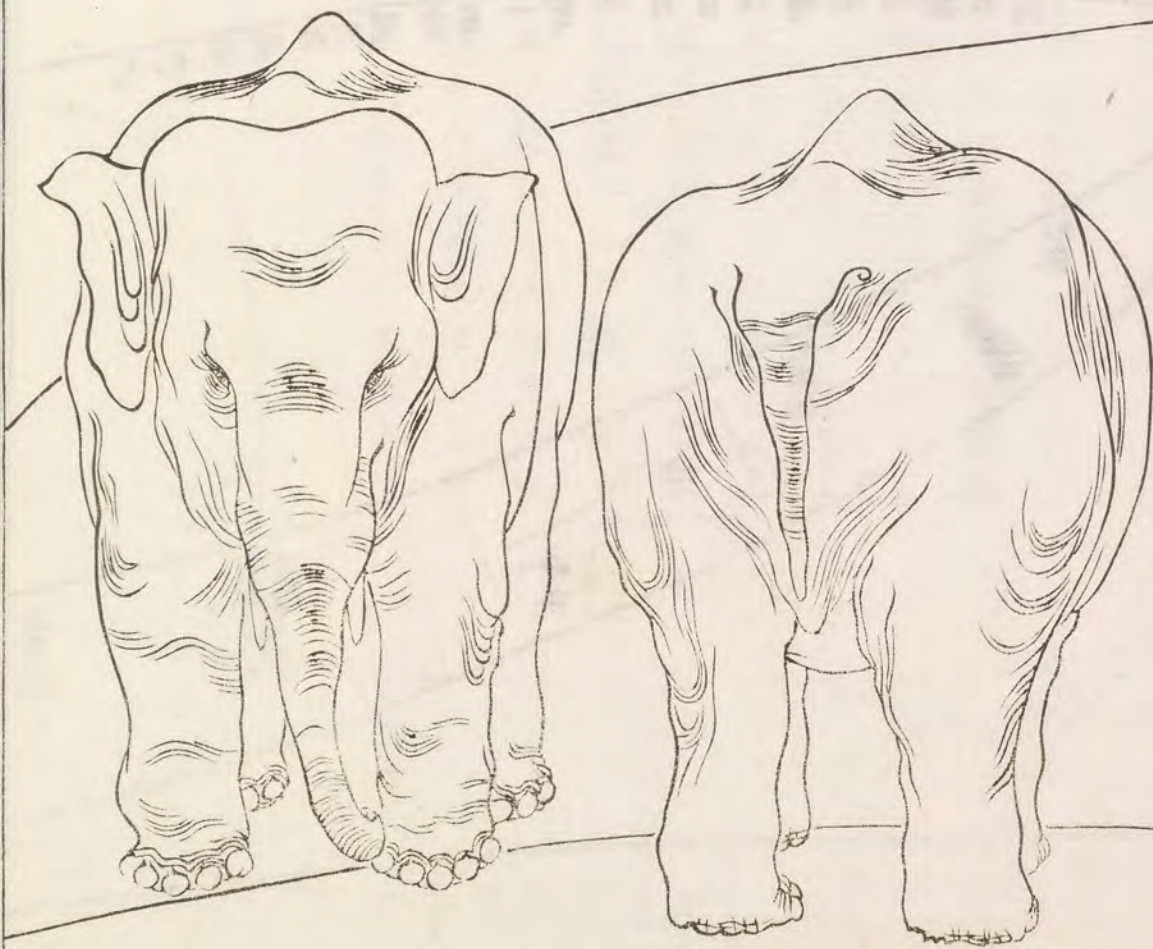


ナシ一軀ノ力皆鼻ニア  
 リ將ニ行ントスル片先  
 鼻ヲ地ニ柱シ以テ足ヲ  
 移シ殊ニ鼻孔深ク開關  
 以テ物ヲ取ル水ヲ飲ム  
 ニモ鼻ヲ以テ吸テ之ヲ  
 捲ク足柱ノ如ク指ナク  
 只爪甲アリ前ハ五個後  
 ハ四個形粟ノ如シ幾歲  
 ニシテ一度牙ヲ換ルヤ  
 脱スル片深ク之レヲ藏  
 ス故ニ削木ヲ以テ之レ  
 ニ代フル片ハ漸ニシテ  
 得ヘシト象牙ノ得難キ  
 ハ金玉ト均スルモ宜ナ



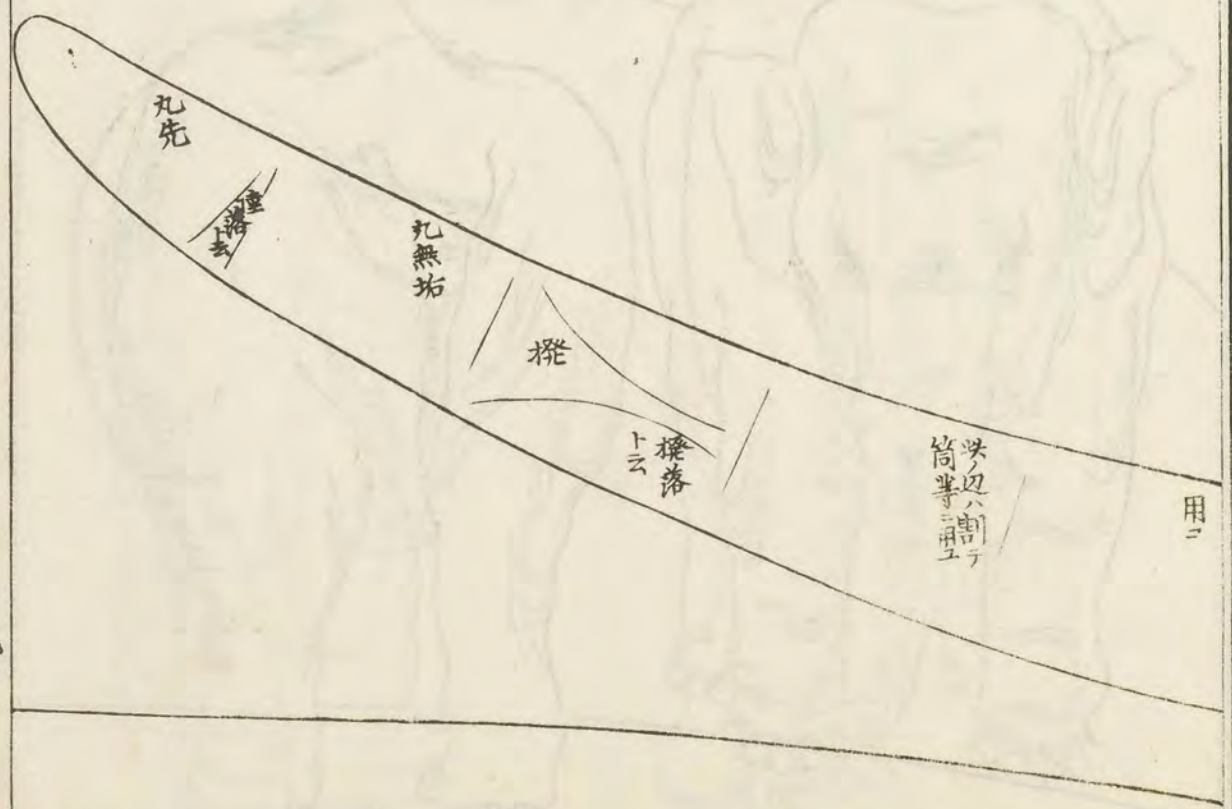
勢高一丈寫生縮圖

ルアリ、而シテ堅質ノ象  
 牙ハ、掠葉ヲ要スレ、凡木  
 賊ヲ用サルヲ好シトス  
 古ヨリ象牙ヲ貴重スル  
 ハ深ク其意ヲ傳ヘサレ  
 凡其象タルヤ千斤ノ重  
 キヲ載セテ重シトセス  
 馴レテ變スヘキ、凡ノ一  
 大獸自ラ他ノ走獸ト異  
 ナリ、克ク語音ヲ弁ス、壽  
 亦長シテ命數ヲ知ル人  
 稀ナリ、兩長牙アリ、頭俯  
 シ可ラス、頸回シ可ラス  
 口頤ヲ隱ス地ヲ去ル  
 遠シ、運動鼻ヲ以テ用ヲ



為メニ聊其仕方ヲ述ヘ  
 其磨クヘキ物品ハ水  
 賊棕葉磨砂角粉或ハ新  
 藁トス皆之レヲ水ニ浸  
 シテ其潤タル後幾偏ト  
 ナク他ヲ觀ニス腕ノ勞  
 疲ヲ恐レス一心ニ磨擦  
 セサレハ光澤ヲ生セシ  
 ムルヲ能ハス尚又精密  
 ナル彫刻物ノ間隙ヲ磨  
 ク片棕葉ヲ使フヲ自由  
 ナラス故ニ楊枝ニ精粹  
 ナル砂或ハ角粉ヲ付着  
 シ以テ磨擦セハ刀痕ヲ  
 失ハスシテ光澤ノ生ス

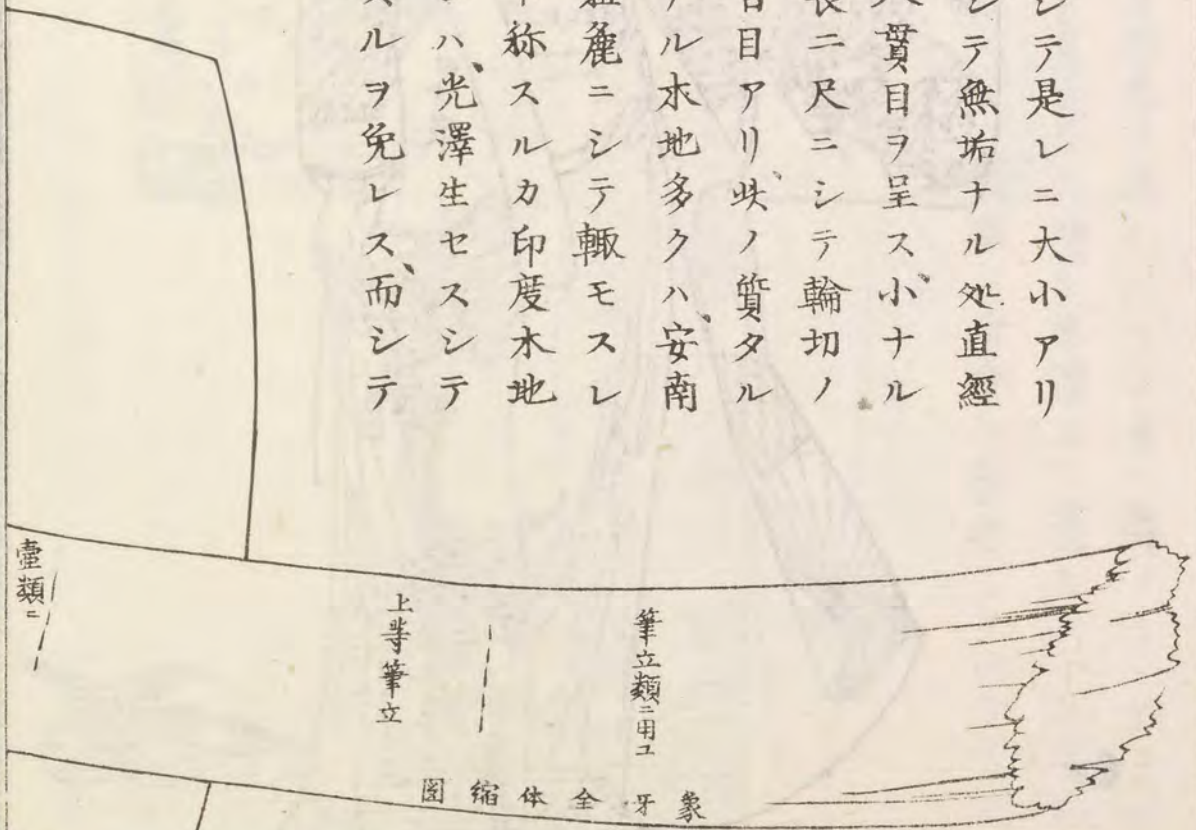
大丸先現如品圖重一貫二百目代價凡拾四圓



上乾

象牙

象牙ノ全躰ハ、図ノ如キ者ニシテ是レニ大小アリ  
 其大ナル者ハ長九尺輪切ニシテ無垢ナル処直經  
 七寸餘アリ其重量ハ凡ソ十八貫目ヲ呈ス小ナル  
 者ハ、呖レヲ牛房水地ト称ヘ長二尺ニシテ輪切ノ  
 直經一寸八分重量凡ソ五六百目アリ、呖ノ質タル  
 ヤ水色ヲ含テ点目細密ニ味アル水地多クハ安南  
 水地ト称ヘテ其價貴ク、点目粗麗ニシテ輒モスレ  
 ハ割レノ生スルヲ印度本地ト称スルカ印度水地  
 ハ磨ク時モ稍勞力ヲ加ヘサレハ光澤生セスシテ  
 着色ノ時ニ當テハ班点ノ生スルヲ免レス、而シテ  
 亦此ノ一般磨クヘキ事  
 實ハ、実業者ノ克ク知ル  
 処ニシテ、別ケテ述ル  
 ヲ欲セサレ、氏、只素人ノ



象牙全縮體圖

筆立類ニ用ユ

上等筆立

壺類ニ



身章撮要云  
衣服身之章  
也古者衣有  
絲麻而不免  
衣鳥獸之羽  
皮爰自義黃  
而降衣裳之  
制與聖人創  
物取義乾坤  
莫不有制皮  
寓乎其間袍  
者或只謂公  
抱成玉宴居  
故施袍

熟ヲ防クフ能ハス木葉ヲ綴リ羽毛ヲ縮シテツノ身ニ纏フフハ則チ衣服  
ノ始メニシテ漸ク年ヲ歷月ヲ重ヌルニ隨ヒ思情日ニ濃カニシテ寒熱ノ  
加減ヲ慮リ禮式通常ノ裝飾及ヒソノ模様ノ分別ヲ創造シテ以テ衣服ヲ  
着クルニ至ル

而シ

テソ



制タルヤ古今

殊ナリト亟先

ツ岐ノ図ハ當

世通常服ヲ身

ニ纏フノ容貌

ヲ示シテ襯ノ

生スル形ヲ得

聊衣紋ノ心得

縫模様或下着模様

畧服



獸皮



衣服

人躰ノ割方ハ前圖ノ解釋ヲ以テ畧知ルヲ得ルモ之レニ如何ナルモノ  
ヲ着ケテ裝ヒヲナスヤ果シテ衣服ヲ以テ肉体ヲ翳スル吾人ノ常ニ知ル  
處ナリ然ルニ僅カク衣服ノ為メニ人体ノ外貌ニ變革ノ生スルヲ尤モ  
多ク就中繪画彫刻ニハ襖ヲ名ケテ衣紋ト云四季アリ模様ヲ殊ニス都鄙  
アリ貴賤アリ皆以テ形容ヲ分ツ衣服ノ功用亦大ナリ人物ヲ描クヲ學  
テ日々已レカ心ヲ修メ已レカ手ヲ磨キ致ス撓マサレハ自然ツノ手ニ光  
輝ヲ發スルヲ自己ノ甚タ近キヨリスル處ナリ然ルヲ吾人共ニ之レヲ棄  
テ、只々人ノ製圖或ハ筆痕ニ依頼シテ自治ノ力ニ乏ク古今大家カ名筆  
良刻ヲ見テ是レニ迷フヲ多シ自己カ技藝ノ光輝ハ修業ノ餘ニアルヲ知  
ラスシテ克ク人ノ筆痕ヲ模範トスルヲノミ之レ務ムルヲ勿レ噫終身師  
ニ學テ師ニ如カサルハ是レ則チ古人ノ遺言ナリ然レモ尚筆痕ヲノミ模  
擬スルノ道ニ趣キテ人情ノ通弊ナレハ克ク自ラ考ヘテ以テ千遍万  
習ノ餘ハ雛形漸ク進ンテ画トナリ彫刻トナルノ意ヲ慮ルヘシ借上古未  
タ人間タルノ名ヲ知ラサル以前ハ果シテ人ハ諸動物ノ間ニ混交シテ裸



ヲ悟ル其掌ノ大ハ半面ヲ掩  
 フヘク足ノ長ハ手ノ半分ヲ  
 過ク身ノ長短ハ面ヲ以テ準  
 トナシ立像ハ七坐像ハ三半  
 ヲ則トス亦面法ニ由申甲田

同王

圓目

用風

之レ

ヲ十

字面

法ト

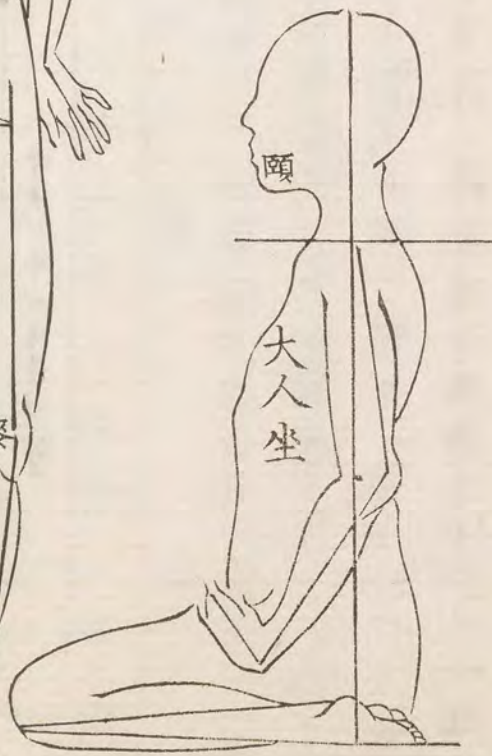
謂フ

學者此ノ道ヲ知テ繪画彫刻ヲ學ヘ  
 ハ千變万化須クソノ自在ヲ得ヘシ



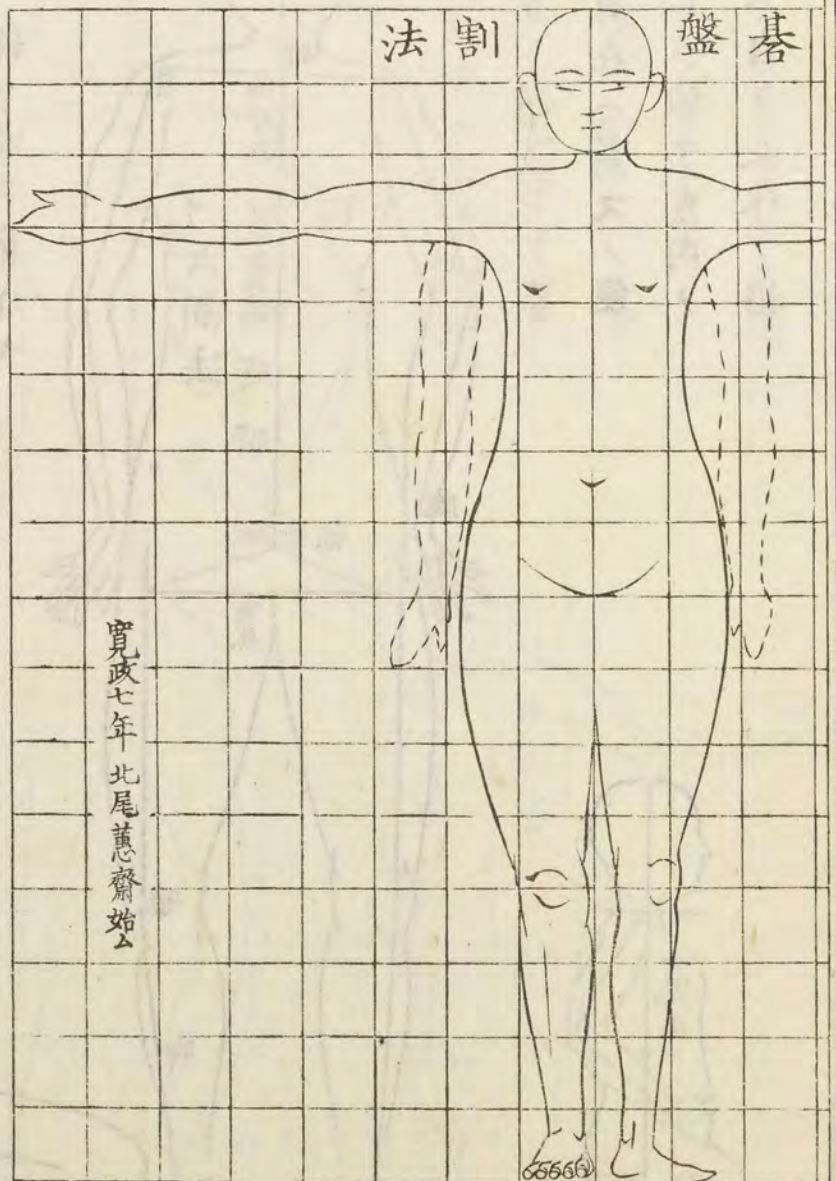
右割合ハ今田東傳ヘシ

顔頸トスヘシ肩巾ハ顔頸ヨリ  
 少ク縮ムノミ其餘ノ割方皆大  
 人ノ六割法ト同シケレハ、圖ヲ  
 看テ悟ルヘシ、四ニハ二節割ト  
 テ、六割法ノ一部ヲ唯ニ節トセ  
 シ者



一ナ  
 差違  
 体ニ  
 ハ全  
 ナレ  
 シ者  
 ク皆前ノ割方ト同フシテ姿  
 貌ノ偏曲ヲ自在ニ寫スノ便  
 アリ、克ク是レニ依テ皮肉ノ  
 輪廓ヲ画ケハ自ラ人体ノ格

画ク片ハ  
耻骨ノ下  
端ニ二分  
計ノ優餘  
ヲ置クヘ  
シ是レ所  
謂坐点ト  
モ名クヘ  
キ哉下部  
ハ即チ耻  
骨ヨリ足



迄ヲ切半シタル一寸五分ノ処ヲ膝トセハ割合甚タ全フスヘシ三ニハ五  
割法トテ兒童ノ割方ナリ凡テ小兒ハ徒然見ル片頭部甚タ大ナリ是レ身  
体ノ生育ハ支体ニ長スル者矣小兒ヲ罵ス片此ノ割方ニ基ケハソノ連合  
ヲ失ハス諸ソノ割方ハ頭ノ頂上ヨリ足ノ指底迄ヲ五分シテソノ一部ヲ

人躰ノ割合

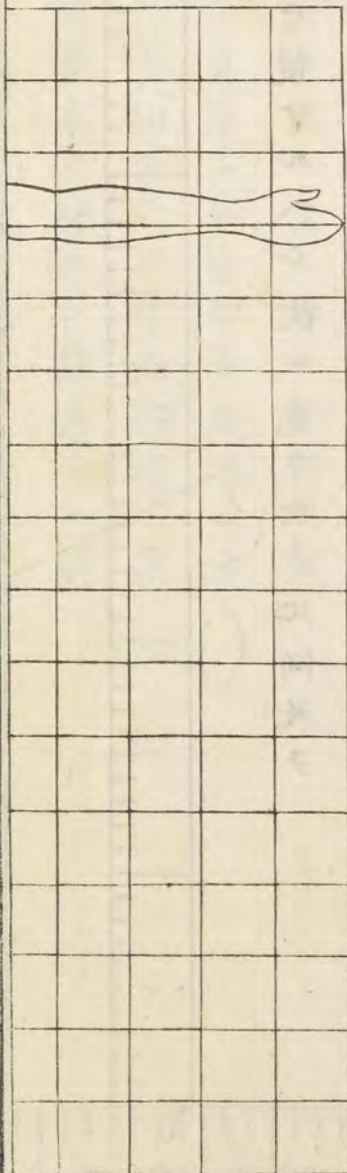
人躰ノ割方ニ四種アリ、何レモ其物ニ依テ應用セシ者ナレ、ハ皆左ノ圖ヲ見テ悟ルヘシ。一ハ碁盤割トテ十六卦四面ノ圖ヲ製シ、以テソノ中央ニ人躰ノ形ヲ画ク、凡ハ骨格ノ割合宜キヲ得ルナリ。二ニハ六割法トテ頭ノ頂上ヨリ足ノ指底迄ノ寸法ヲ六寸ト見積ル、凡ハ之レヲ切半シテ三寸ノ処ハ即チ耻骨部ト定メ、是ヨリ上部ヲ三分ノ一部即チ一寸ヲ顔及頸トス、餘ノ二部ナルニ寸ヲ胸腹ニ充テヘシ、肩ノ廣サハ顔頸ヲ以テ準トセハ、則チ一寸ニシテ中心ヨリ左右ニ五分宛ヲ出テスヘシ、臂ト腕トハ一寸毎ニ屈接シテ五分ハ又テ手トナル、而シテ之レヲ左右ニ伸張スル、凡ハ両手ノ指先ヨリ六寸トナル、是レ亦碁盤割ト同シ、理屈ニシテ只卦ヲ

引クノ勞

ヲ省クノ

ミ、但皮肉

ノ輪廓ヲ

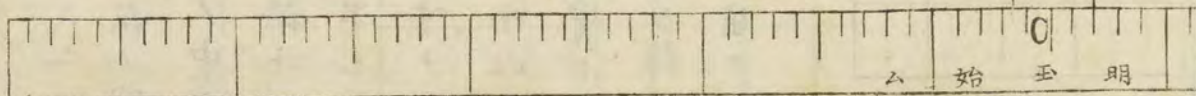
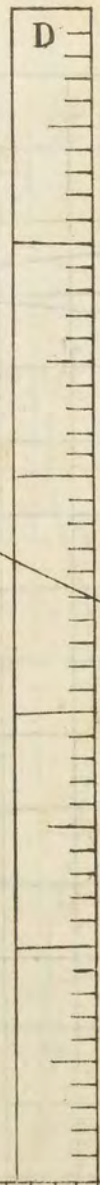


ノ比例

線ト同

クツノ

用ヲ達スルニ便ナルヘシ故ニ克ク此ノ比例尺ヲ  
 精密ニ制作シテE Dニ本ノ支尺ヲ左右ニ動カス  
 一ヲ得セシメハ材料ノ大小長短ニ拘ラス自在ニ  
 用ヲ達セシムヘシ亦新ニ二寸ノ材料ヲ變シテ四  
 寸ノ亀ノ甲ヲ八寸ノ大ヒサニ作ラントスルニ當  
 ツテモ同シ理屈ニテC点ニ接スル尺ヲソノ八寸  
 ノ処ニ近シB点ニ接スル尺ヲ四寸ノ処ニ進メハ  
 大小度ル所皆同クD点ニ向テ線ヲ張ルヘシ左  
 レハE B尺ノ部内ヲ經過スル即チ亀ノ甲ノ巾三  
 寸トスレハ其三寸ノ処ヲ見定メD C尺ノ部内ニ  
 三寸ヲ倍義シタル距離ヲ生スヘシ之レ即チ八寸  
 ニ對シテノ寸法タルヲ知ルヘキナリ

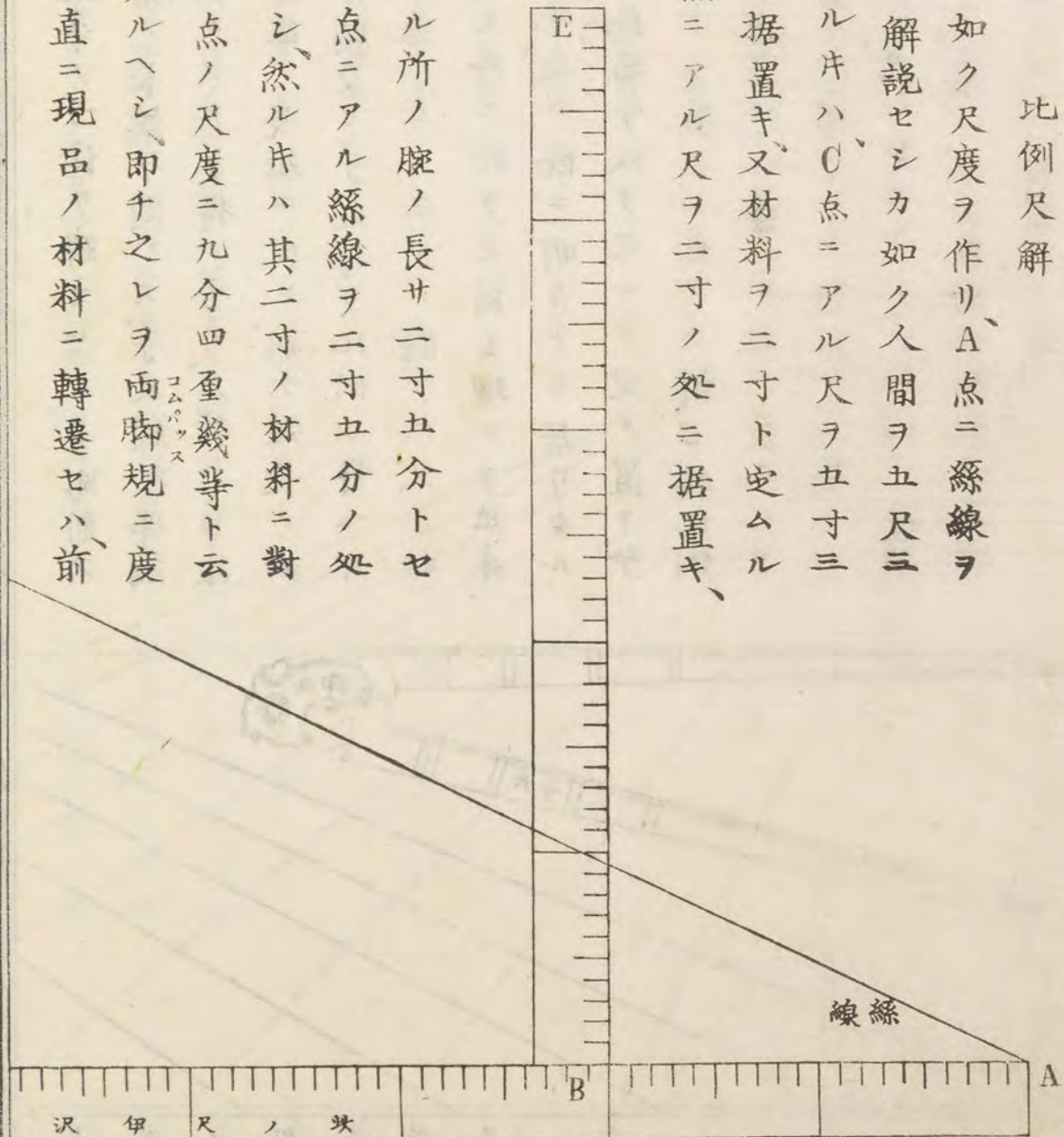


比例尺解

先ツ圖ノ如ク尺度ヲ作り、A点ニ線ヲ  
 付ス、既ニ解説セシカ如ク人間ヲ五尺三  
 寸ト定ムル片ハ、C点ニアル尺ヲ五寸三  
 分ノ處ニ据置キ、又材料ヲ二寸ト定ムル  
 片ハB点ニアル尺ヲ二寸ノ處ニ据置キ、

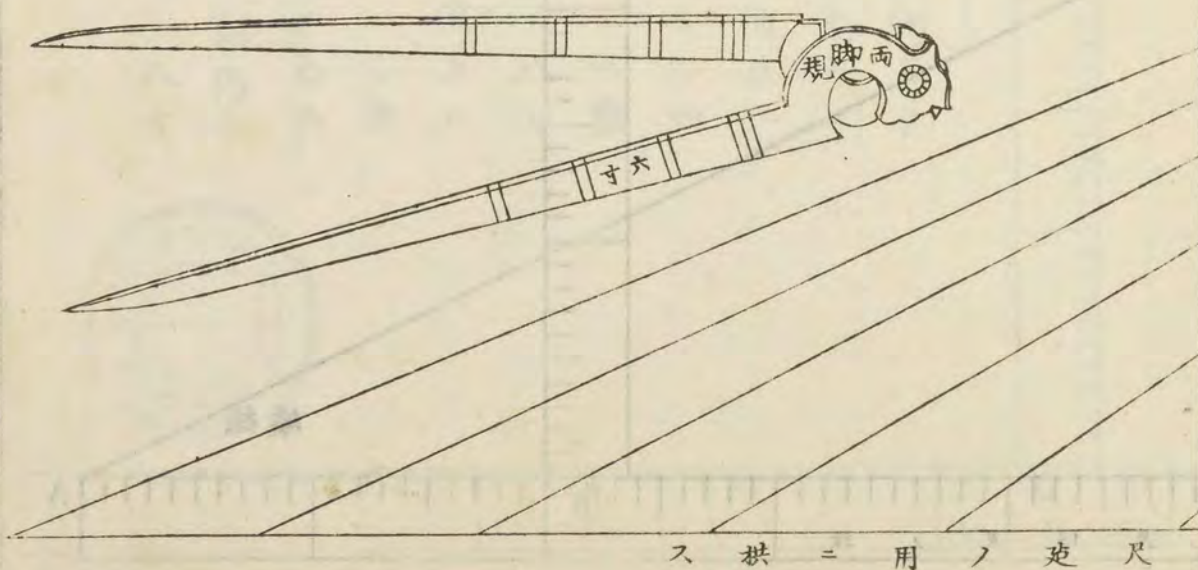
而シテ  
 此ノ人  
 躰ニ對

シテ求ムル所ノ腕ノ長サニ寸五分トセ  
 ハ、則チA点ニアル線ヲ二寸五分ノ處  
 ニ張ルヘシ、然ル片ハ其二寸ノ材料ニ對  
 シテハ、B点ノ尺度ニ九分四厘コムバックス幾等ト云  
 距離ヲ見ルヘシ、即チ之レヲ兩脚規ニ度  
 リ采ツテ直ニ現品ノ材料ニ轉遷セハ前

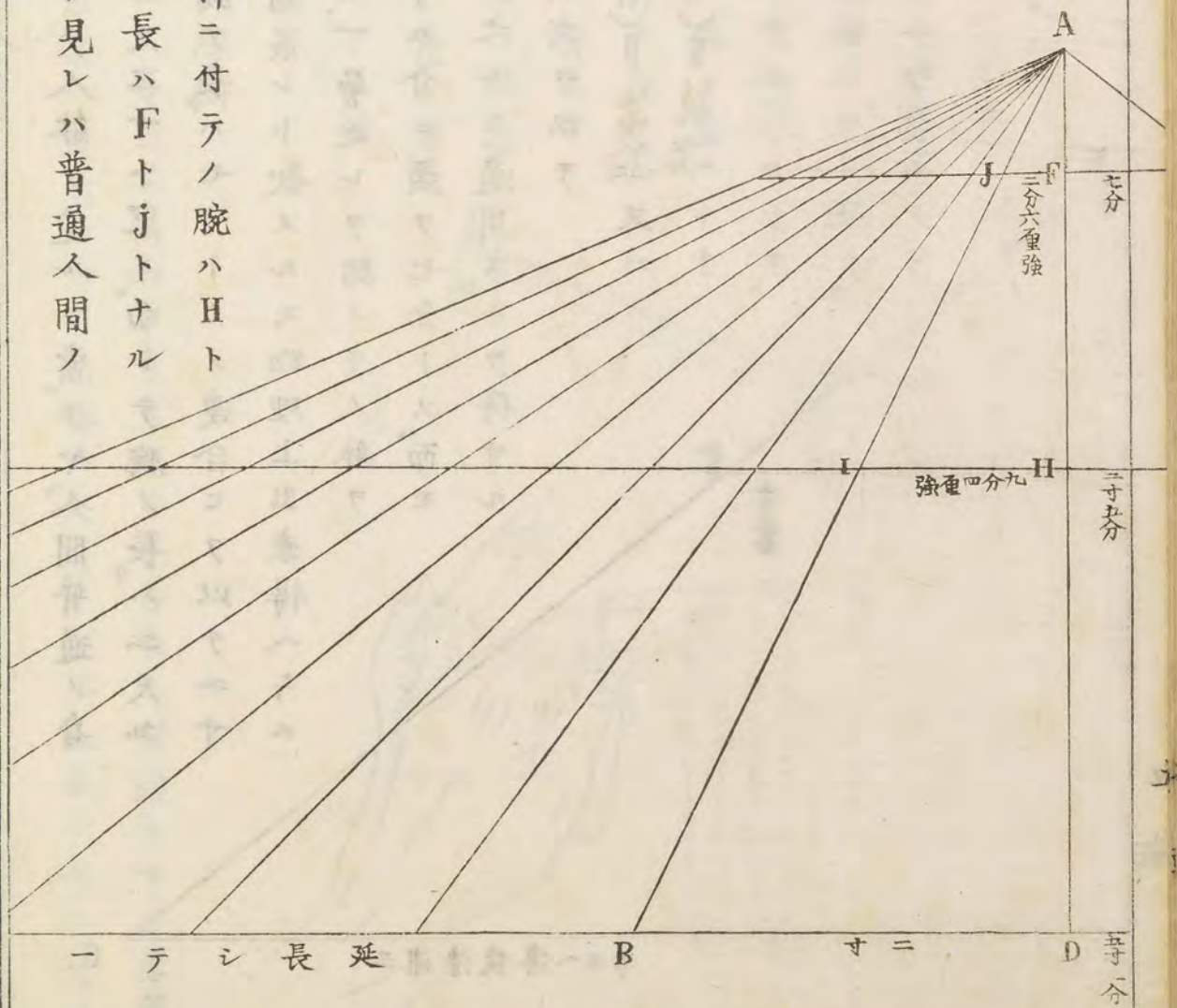


尺ノ寸

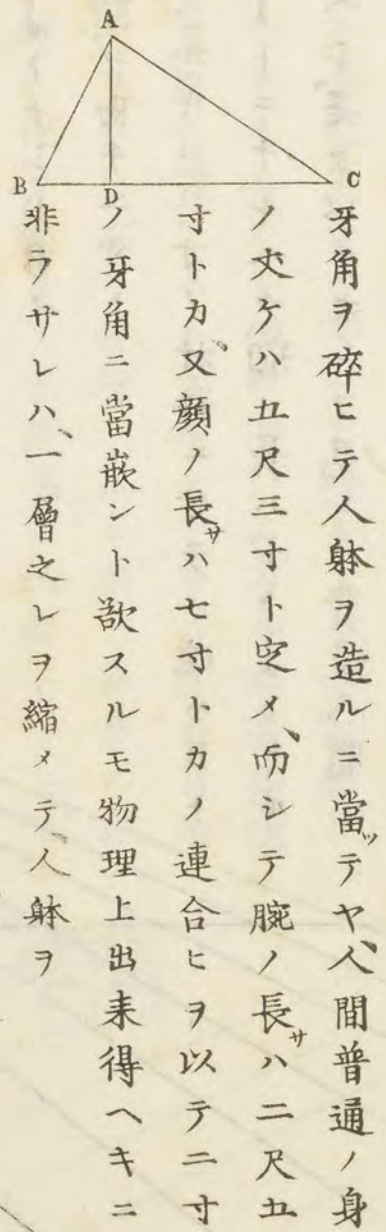
丈及手足等ノ寸法ヲ解スレハ其彫刻ス  
 ヘキ牙角ノ長短ヲ問ハス手足顔貌等調  
 度割合宜クスルヲ得ルナリ只其OD線  
 及ヒDB線ノ長短ニ從ヒ則チ延長ノ如  
 何ニ依テ顔及ヒ手足等ヲ比例シ得ヘキ  
 ナリ例ヲ擧クレハ三尺ノ鶴ヲ六尺ノ材  
 料ニ彫刻スルニ於テモ同シ理ニテ出来  
 シ得ヘキ也故ニ既ニ明カナリ居リタル  
 尺度ヲ兩脚規コムパスヲ以テ之レヲ定メ置キ今  
 新ニ求メント欲スル向キニ轉ジ其比例  
 ヲ以テ彫刻セハ技藝ノエ拙ハ其人ニア  
 リト虫躰ハ小格ニシテ頸太ク又顔小サ  
 ク腕肥太ニ或ハ足長クシテ躰格ノ瘦細  
 ナルカ如ク餘リ見苦敷繪画彫刻物ノ改  
 良ヲ裨補スルニ庶幾ラレ歟、



図ノ如クスヘシ  
 今DC線ノ間則  
 予五寸三分ナル  
 人躰ノ縮寸ナル  
 ヲ定メ置キ尚延  
 長シテB点ニ至  
 リA点ヨリB点  
 ニ邊線ヲ畫キ又  
 GH線及ヒEF  
 線ヲ延長シテI  
 JトナシDBノ  
 間ヲ即チ二寸ト  
 スルキハ二寸ノ材料ニ付テノ腕ハHト  
 Iトニナルヘク顔ノ長ハFトJトナル  
 ヘシ是ヲ以テ之レヲ見レハ普通人間ノ







牙角ヲ碎ヒテ人躰ヲ造ルニ當テヤ人間普通ノ身ノ丈ケハ五尺三寸ト定メ而シテ腕ノ長ハ二尺五寸トカ又顔ノ長ハ七寸トカノ連合ヒヲ以テ二寸ノ牙角ニ當嵌ント欲スルモ物理上出来得ヘキニ非ラサレハ一層之レヲ縮メテ人躰ヲ

五寸三分ニ腕ヲ二寸五分ニ顔ヲ七分トス而モ  
 尚未タ二寸ノ材料ニ之レヲ適用スルヲ得サル  
 カ為メ是ニ於テ比例式ヲ以テ  
 $(53 : 25) = (20 : 20) = 99 \frac{10}{33}$  又ハ  
 $(53 : 25) = (20 : 20) = 26 \frac{20}{33}$  トナ

シカ如キノ勞ヲ執ラサルヘカラス、  
 夫レ如斯事々物々彫刻スルニ從テ、  
 筆算ヲ弄スルニ於テハ煩雜究マリ  
 キ故ニ之レカ繁文ヲ  
 省畧セントスル片ハ、

E  
七分

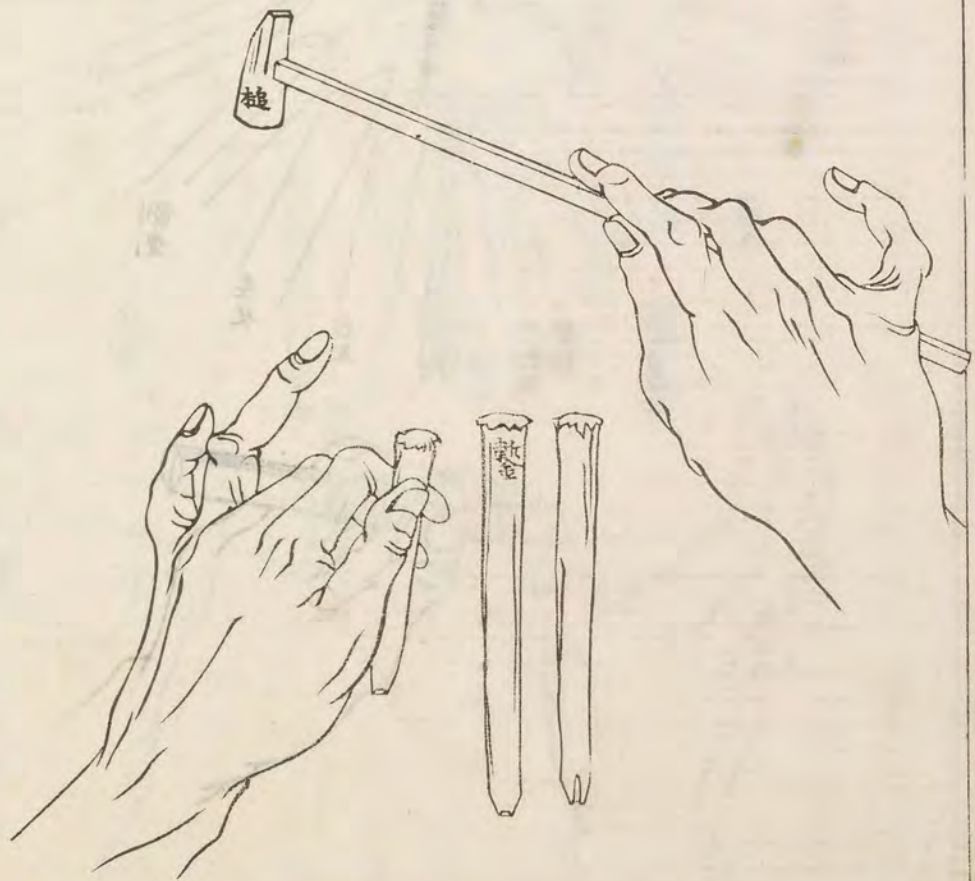
二寸五分

金屬刀併手付

金屬ヲ彫刻スルハ、他ノ木竹  
 牙角ヲ彫刻スルト、其仕方大  
 ニ異リテ、鑿ヲ使フ者ナレハ、  
 槌ヲ以テ叩カサレハ、刀痕ヲ  
 見セシムルヲ能ハス、故ニ圖  
 ノ如ク鑿ノ形ト手付ヲ見テ  
 其理ヲ考フヘシ、及ハ皆木竹  
 牙角ニ用エル所ノ及ニ、稍急  
 及ナルノミ、其種類ハ甚タ多  
 クシテ三十五六品モアリ、彼  
 是大小三百本餘ヲ用ユ、

比例線解

此ノ圖ハABCナル不等辺三角形ナリ、A点ヨリD点ニ垂線ヲ下シテC  
 D線ハ法ト名ケ、DB線ハ適用スヘキ物体ノ尺度トスル也、故ニ今二寸ノ



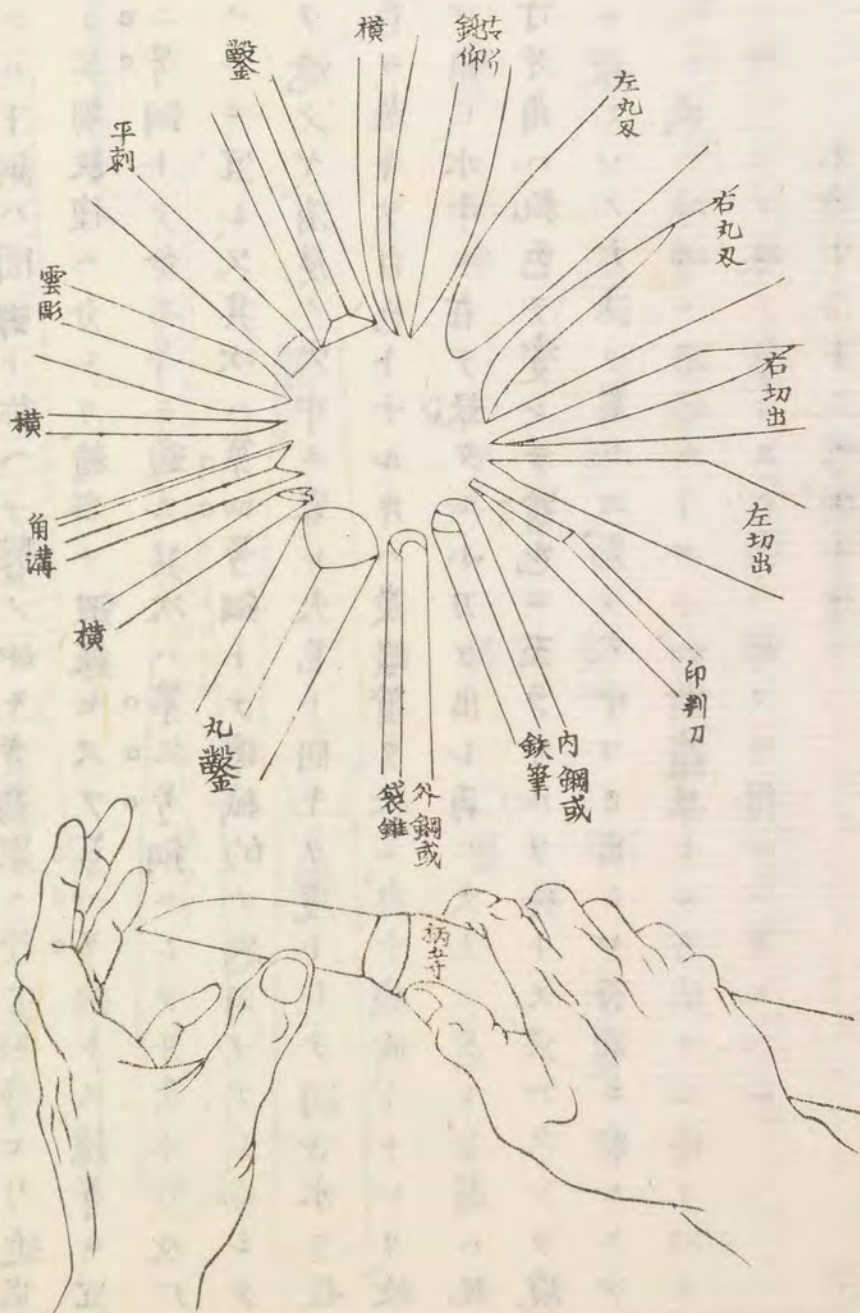
象牙刻ノ小刀ハ、其数多シト、虫刀形ハ、大抵図ノ如キノ形ニ基ケリ、然レモ、  
 礪ク片ニ當テヤ、其人々ノ手ニ馴僻アリテ、小刀ノ刃ニ自ラ變躰ヲ生セシ  
 ムル也、

而シテ  
 ソノ小  
 刀ニ凡  
 ソ一形  
 五六本  
 ヲ要ス  
 ル者ナ  
 レハ、都  
 合百四  
 五十本  
 ヲ備ヘ  
 サル可ラス、



拙ノ判ヲ下スニ皆刀痕ヲ以テ批評スル者ナレハ能ク小刀ヲ礪カサルヘ  
 ケンヤ尚十分彫刻物躰ニ就キテ精密ヲ尽サントスル片ハ小刀ノ大小ヲ  
 備フヘ

ク而シ  
 テ双ノ  
 付ケ容  
 ハ皆ソ  
 ノ使フ  
 所ノ場  
 合ニ於  
 テ自ラ  
 エ夫ヲ  
 回ラス  
 ヘシ、



象牙骨角小刀二十四形併手付

王襄曰夫賢者國家之器用也所任賢則趨舍省而功施普器用利則用力少而成就衆故工入之用鈍器也勞筋苦骨終日斲石及至巧治鑄干將之璞清水淬其鋒越砥歛其鏗水磨較龍陸刺犀草忽若記藝畫塗如此則使離專督繩公輸削墨錐崇臺五層延衰百丈而不涸者工用相得也

鹿柴氏曰諸畫而來神明則有法可無法亦可惟先埋草成塚硃鐵如泥十日一水而後嘉陵山水李思訓屢月始成

小刀ノ燒方

小刀ニ用ユル下鋼ハ間鋤ト称ヘテ鑿ノ如キ者商家ニ於テ販賣セリ近世  
 舶来鉄渡テ其類數種ニ分レリ精密ニ鍛鍊セスヲ第一号鋼トス鑢等ニ宜  
 ク次ハ第二号鋼トテ金石等ニ適ス其次ハ第三号鋼ニシテ牙角木竹及  
 木等ニ用ユルニ宜シ又其次ハ第四号鋼トテ機械的ノ應用ヲナシ而シテ  
 此ノ小刀ヲ燒クヤ消炭ノ火中ニ容レ火色ト同キヲ度トシテ調合水ニ投  
 ス若シ火色ヲ過キテ白色トナル片ハ炭酸質ヲ失ヒ忽チ脆性トナレリ故  
 ニ克ク心ヲ用ヒ水中ニ在テ緑タル小刀ヲ出シ再ヒ火上ニ置キ金屬ハ  
 色トス木竹牙角ハ靑色ヲ變シテ碧色ニ至ラサルヲ妙トス或ハ之レヲ燒  
 ク人ニ依テ種々ソノ方法ヲ異ニス先ツ火中ヨリ出シヤ否油ニ容ルハア  
 リ又湯ニ入レ或ハ味噌ニ指込ムトアリ如斯簡單ナル方法ヲ心得テ以テ  
 實際ニ試ム片ハソノ味ノ妙ナルハ自ラ擇フ得ルニ至ルヘシ

木竹小刀十三形併手付

木竹彫ノ小刀ハ尤モ能ク礪キ截味ヲ試ミ後本物ニ臨マサレハ形ヲ彫出  
 スト自由ナラス形ヲ彫出スト自由ナラサレハ刀痕自ラ鈍ク人ノ能ク工

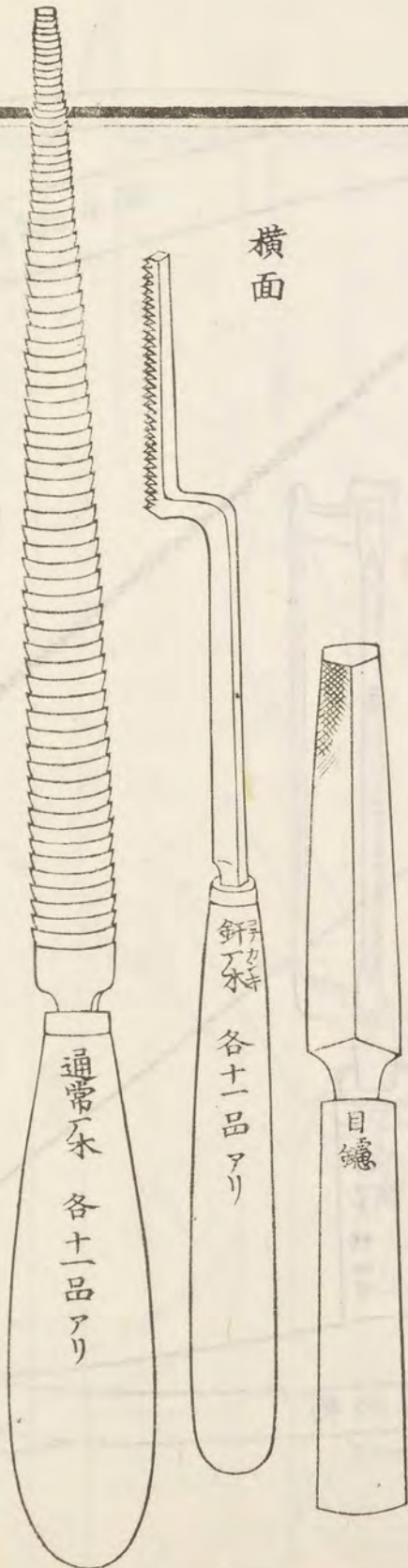
形十一 并 鑿 木 馮 木 鑿

刀木鑿ハ畧ソノ用ヲ同フシテ金屬物ニハ專ラ鑿ヲ用ユ牙角物  
 ニハ刀木ヲ專ラ用ユル者ナレ凡或ハ牙角ノ仕上等ニ鑿ヲ用ユ  
 ルコアリ菱形ノ鑿ハ唯鋸目ヲ截ルニ用ユルヲ以テ之レヲ目鑿  
 ト稱ヘ両様共ニ大小ハ適意ニ考フヘシ大抵以ノ十一形ヲ以テ  
 要用ヲ便セリ

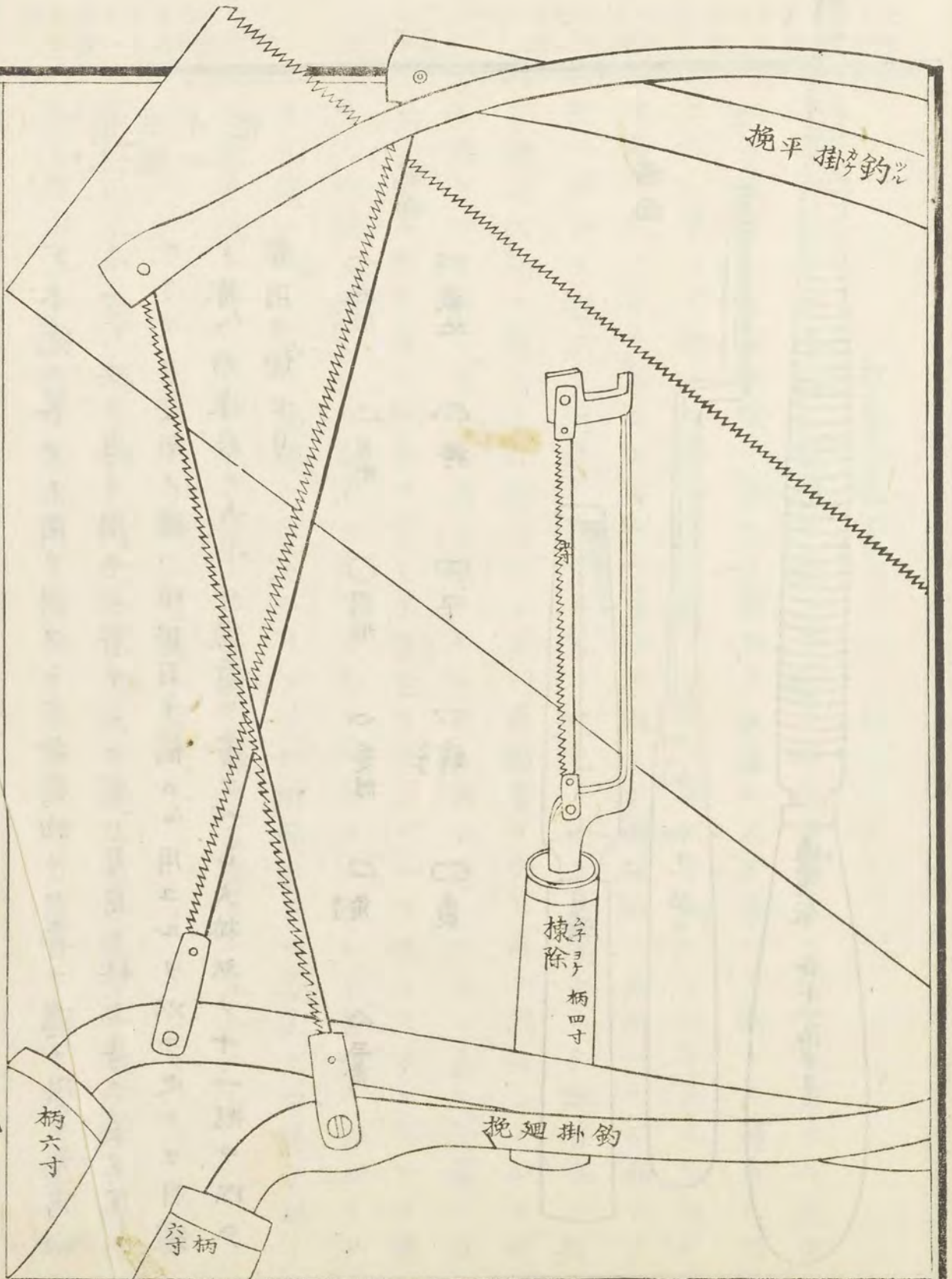
截面

- 桃形
- △ 月形
- 圓形
- ◇ 菱形
- 角スミ
- △ 三角
- ◁ 截込
- △ 袴
- 平
- ▽ 鱗ウロコ
- 棗

横面



釣掛平挽



アヲオトシ  
鹿落道具 鋸諸類

凡テ彫刻ノ鹿落シハ鋸又ハ鑿鉋等ヲ用ユル者ナリ、  
 諸其象牙挽ノ鋸ハソノ日ノ形三角ニシテ、即チ之ヲ劍目ト称ヘ、  
 總テノ堅貨物体ヲ挽割ルニ用ヒ、  
 倘シ一邊平ニシテ一邊斜ナル片ハ挽障リ鈍ク、  
 反テ切断スルヲ遲ス、  
 左ニ図シタル鋸ハ、  
 双形ノ両様ヲ示セル者ナレハ、  
 實際彫刻スヘキ物体ニ臨テ、  
 ソノ銳利遲鈍ヲ試ムヘシ、

丸鋸

廻挽

每三寸五分

鑿

四寸五分

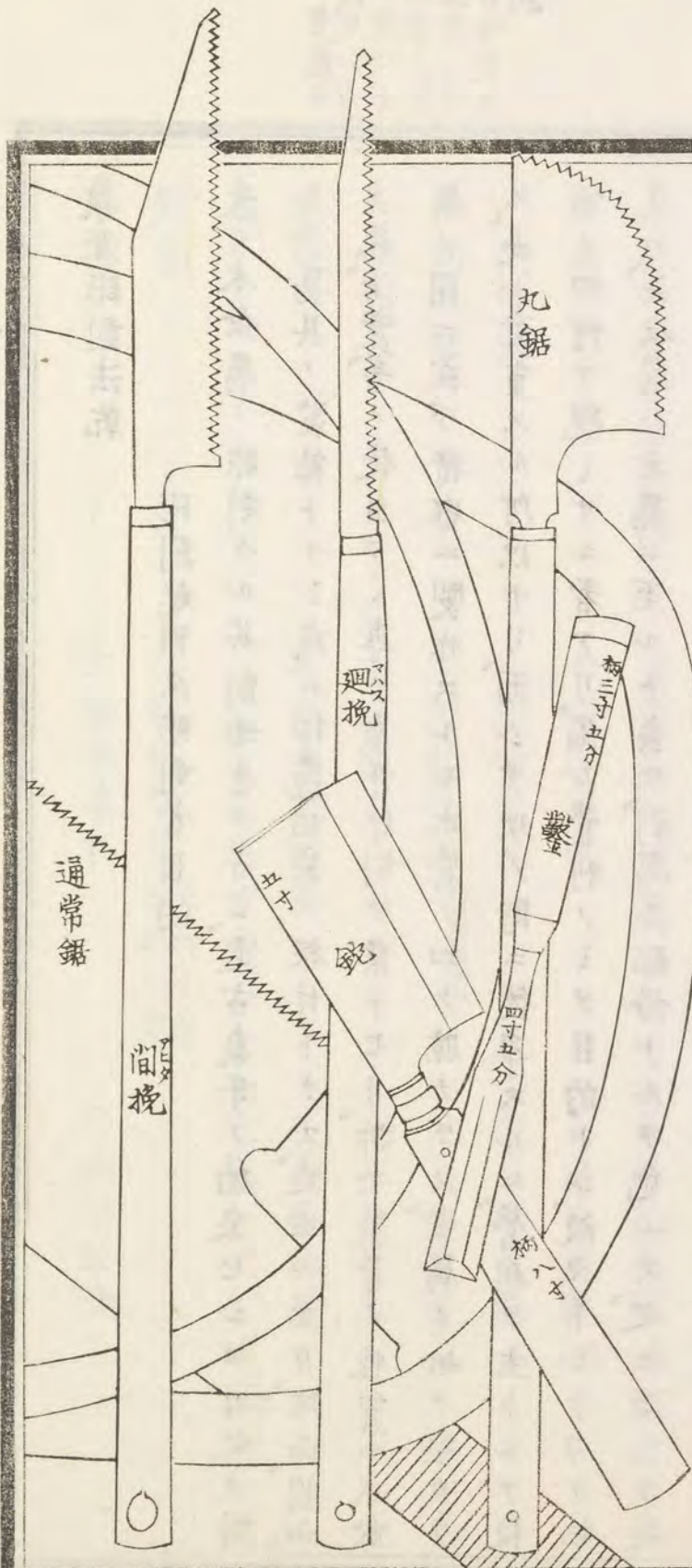
柄ノ長

五寸

鋸

間挽

通常鋸





象牙彫刻法乾

彫刻起因及彫刻者目的

夫レ木金屬ノ彫刻タル其創始甚々古シ、近古象牙ノ舶來セシヨリ之ヲ刻シテ器具ノ裝飾トナシ或ハ印籠烟袋ノ根付トナス、近世ニ至リ、彫山、周山、友親、法實等ノ徒出テ、專ラ象牙彫刻ヲ業トセリ、抑モ象牙ノ性質ハ木金屬ノ間ニ在テ精密ニ製作スルモ木質ノ如ク脆カラズ、金屬ノ如ク堅カラズ、是レ貴重スル所以ナリ、而シテ此ノ術ニ從事スルニ營利ヲ主トシテ伎倆ノ如何ヲ觀ミサル者アリ、倘シ營利ノミヲ目的トシ、汲々トシテ刀ヲ把ラハ、其技或ハ老熟ニ至ルト虫氏、到底其鄙俗ナルヲ免レス、之ニ反シテ技術ヲ精研シ、名譽ヲ墜サ、ラン、一ヲ務メハ、或ハ一時ノ利ヲ攫取スル能ハスト、虫氏他日必ス高妙ノ域ニ到ラサルヲ莫ルヘシ、白樂天ノ詩ニ云ク、人各有偏好、物能莫兩全、ト豈贏利ヲ愛セサランヤ、品位ヲ尚フノ樂キニ如カス、學者必ス目前ノ贏利ニ迷フヲナク、能ク其本末ヲ辨シテ意匠ヲ定メ、一鑿一カヲ施シテ苟モセスンハ、蝶蛾ノ窩ヲ脱スルカ如ク、粗樸ノ体ヲ變シテ、其觀ヲ美ニシ、其術隨テ進達スルヲ、蓋シ疑ヲ容レサルナリ、

彫山有盧圭  
夢國周山有  
列仙龍等  
國友親有孔  
聖觀歌三國  
法寶有梵哭  
怒國

○目錄乾

彫刻起因及目的

一避俗愛鈍 參考圖

三心忙兩避

麓落道具鋸諸類

二主美弃醜

五左右愛憐

雁木 併鑿十形

三牧童思婦

五舞踏演習

小刀燒方

四育兒嬉戲

五處女閑適

木竹小刀十三形

五勿侮長者

○真想形

象牙骨角刀廿四形

六猫兒失母

去戲花蛺蝶 真

金屬刀

七婦容可愛

芒威伏靈蟲 想

比例線解

八新婦愛兒

大慈悲善惡 形

比例尺解

九蚰蜂逃生 參考圖

九二女讀書

人体割合

○二編坤

二抱子剥果

衣服

應用推理佛像

世前題再試

象牙

顏面手足全体

世美人贈花 右說明

題意

十姊妹待賓 截碎十着  
面貌八圍

工場

土稚兒慕乳

○總目錄終

凡例

一 此書ハ、專ラ象牙彫刻上ニ関スル方法ヲ掲ク、故ニ象牙彫刻法ト名稱  
ヲ附シタル者也、書中一二ノ号ヲ附セル設題數ハ、二十二ニシテ、其變  
圖ハ、木地形ヲ除ヒテ、上底、前後、左右、都合八十一アリ、別ケテ乾坤ノ二  
編トス、三編四編ハ、他ノ實業者カ經驗シタル、圖画ヲ掲載スヘシ、  
一 設題ノ下ハ、元物ノ重量、寸法、製作ノ日月ヲ記載セリ、重量ハ、木地ノ時  
價ヲ計テ時々比較スルヲ得セシム、寸法ハ、初學ノ子弟ヲ教育セシム  
ルニ、假リニ、木材ヲ以テ象牙木地ノ形ヲ削表セシムルヲ務ム、製作ノ  
日月ハ、一題号ヨリニ、延ノ間ヲ推算シテ、一個凡ソ幾日ヲ費シテ製ス  
ルヤ、粗密ノ差アリト雖、尺、大畧ノ日限ヲ期センコトヲ慮リ、  
一 此書起稿ノ考按秩序ハ、日本美術協會、鑑畫會、東京彫工會、等ニ於テ、見  
聞ヲ擴メ、思想ヲ養ヒタル者也、然レ尺、短才疎能ニシテ、克ク各會意ノ  
アル所ニ進ムコト能ハス、且書中ノ文章、圖画、筆耕、共ニ各専門家ニ依頼  
セシメテ、余一己ノ手ニ編述シタレハ、誤字差意アルヲ免カレス、看者  
夫レ之レヲ恕セヨ焉、

ノ端ニ趣クヲ得タリ、亦ニ編ノ顔面、手足部ニ於テ、由申甲田等ノ十字面貌  
 及ビ手足ノ正斜仰伏等ノ形狀ヲ象リテ、全体ヲ作ルヲ學ブ、第十五處女  
 閑適ヲ彫刻スルニ當テ、大ビニ悟ル所アリ、茫然剝削ノ一技ニ老ユルモ、到  
 底妙想至感ノ体ヲ表ハシニ、標目ナク、是ニ於テ、畢生ノ腦力ヲ此學ニ浮べ、  
 全身ノ腕力ヲ此術ニ注ギ、萬有ノ彫刻物ニ向テ、眞想形ノ排列ヲ設ケ、自己  
 が行路ヲ定メ、修業ノ順序ニ惑ハザランヲ期ス、古人明カニ説ヲ爲サス  
 ト雖、氏不識ノ間ニ彫刻セシ物体ハ、自ラ眞想形、三体ノ影彩ヲ備フル者ニ  
 シテ、其證ヲ舉レハ、希臘古代ノ彫刻品ハ、多ク裸体ヲ以テ、眞ニ迫ラシメ、印  
 度ノ佛像ハ、不動尊、魔鬼等ノ如ク、想像ヨリ出テ、入ヲ感動セシム、我邦鴨  
 川人形、奈良人形、及ビ飛彈彫等ノ如キハ、形狀簡畧ニシテ、尤モ清觀ヲ表ハ  
 ス、尚其妙想ト云フベキ、一、体ハ、彼十二天ノ如キ者ヲ云フ、是レ眞想形ノ体  
 ヲ發見シタル所以ナリ、若夫是レヲ標木トシテ、旅行セハ、五里復五里ノ遠  
 キヲ知レ、氏岐路ニ躊躇スル憂ヒナシトスルニ、庶幾ラント、門生童蒙ノ爲  
 メニ、上梓シテ聊カ述ブルヲ云爾、

于時明治二十二年七月孟夏

陸相邦謹誌

自叙

去ル明治十五年、門生ヲ養ヒ、是レニ彫刻ノ道ヲ授ケント欲ス、種々方法ヲ求メテ、學ビ易カランコトヲ試ムト雖モ、其適切ナル方法ヲ得ル能ハス、畢竟學力資財ノ及ハザルガ爲メニ、良方法ヲ得ル能ハザル者也、同十九年、門生ヲ辭讓シテ、自ラ單身トナリ、專ラ彫刻上ノ方法手段ヲ明カニシテ、後日ノ便ヲ得ンコトヲ計リ、孜々惰ラス工業ノ傍ラ製作時間先後ニ必ス其形ヲ認メ、截リ碎方ノ未タ精密ナラザルモ、圖ヲ編シテ初學ノ階梯トナサント欲ス、而シテ其間ニ亦見聞ト諸書ニ雜出スル趣旨等ヲ得テ、之レニ圖画ト私見ヲ以テ稍修正ヲ加ヘ、彫刻上ニ適用センコトヲ以テセリ、故ニ解説ノ如キハ俗語アリ畧語アリ、皆錯雜シテ章句ヲ成サバ、ルベシ、看者之レヲ恕シテ、只其意ノアル所ヲ察セバ、余ガ幸福之レニ過キタルナシ、其編輯ノ次第ハ、先ツ起因目的及ヒ麓落道具ヨリ工場迄ヲ初メニ列シ、次キニハ、第一避俗愛鈍ヨリ、第九蚋蜂逃生ノ間、余ガ心中象形ノ思想ヲ起スヲ主眼トナシ、故ニ規矩繩墨ヲ以テ是非善惡ヲ責メス、只道具及ヒ小刀等ノ使用ヲ練熟セシコトヲ務メ、漸ク運刀ノ進歩ヲ看ルニ及ンデ、名画良刻ノ諸品ヲ鑑ミ、精粹

結  
し  
初  
く  
ま  
て

つ  
ら  
と

世  
乃  
あ  
る

は

成  
海





録不覺之禪師歌

題彫刻法

山

たよりの

山はくを

あしはらくともいふ  
あまのゆきもくともいふ  
あまのゆきもくともいふ  
あまのゆきもくともいふ  
あまのゆきもくともいふ  
あまのゆきもくともいふ  
あまのゆきもくともいふ  
あまのゆきもくともいふ  
あまのゆきもくともいふ  
あまのゆきもくともいふ

明治廿三年二月 文学博士黒川善徳



夏と北のけ 書とこころの  
北より南へ見るといふ  
ちやうに人のかゝるまよひ  
は鳥のまよひとていふ  
ちあはれあつたは  
まよひといふまよひ





喜其裨益于後進匪鮮  
也為并數言懇懇公世  
去

明洪二十二年十二月

東京彫工會頭渡邊洪基



書東京彫工會員相馬邦之介君  
當今之志和也常憂之頃叩  
其澁奧筆之于書以為授業  
之範名曰象牙彫刻法蓋欲  
益精其術以揚國華焉余

其進無有窮極此所以貴  
於練磨也本邦彫刻之術  
既長機巧又饒雅致其所  
製出中外珍之久矣但其術  
師弟相授口傳手受無有成

序



凡百藝術自脫草昧之域以上  
皆有典型而典型之立漸次  
長進積數百年之工夫而成  
後人更加意匠致精累巧





斯舉。愔。愔。上。梓。弁。一。言。於。卷。  
首。云。上。章。攝。提。格。如。月。文。學。  
博。士。川。田。剛。撰。并。書。



嘗讀爾雅。象謂之鵠。角謂之  
觥。骨謂之切。象謂之磋。蓋亦  
當時之彫刻法。然今攷工記  
殘闕。其詳不可得而知。近世  
良工能辨於手。不辨於筆。而  
君則手與筆兩辨之。使人一  
目瞭然。有所自得焉。故余嘉

物花卉鳥獸蟲魚之狀。蹄為  
良工。山陽遺稿象墜記。是以  
見其一斑矣。陸奧人相馬若  
仙齡。夙工此技。近著一書。自  
寫形着色。以迄刀鋸鉅鑿諸  
術。逐次論說。插以畚畫名。曰  
象牙彫刻法。就余七序文。余

以上腰帶及內命婦櫛。聽用象牙。見延喜彈正式。而今正倉院寶庫所藏。牙櫛。牙笛。及筆帽。法隆寺牙尺。及鍼筒。皆千餘年外物。則古人既已善治骨角。近世有一齋奉真正。直印齋周山形山等。巧刻人。

序



象箸見史記。象掃見毛詩。象尊象卮象路見周官。又徵之我國典。白牙尺。綠牙撥。鏤尺。紅牙撥。鏤尺。紅牙撥。鏤竿子。見東大寺獻物帳。五位以上用牙笏。見大寶衣服令。三位

大森惟中書



惟中書

惟中書

惟中書

惟中書

術者宜求法於有形。而得神於無形矣。仙齡乞序。因出與之。

明治己丑臘月。雪津漁叟題於  
靜觀居之南軒。



以便初學。牙刻之行於諸美術為  
最新。今其出先成木石五金繪畫  
蕭繡之書。將續之而出。仙翁此著。  
蓋為之先驅矣。若夫手精腕熟。  
縱然自在。遊于法之外。則所謂默識  
心會者。非文字之所能傳也。修美



象牙彫刻法序



我邦繪畫彫刻之術自古師授相承。具有正法。但未有筆之於書者。夫口傳而手受之。受者或遺之。傳者或不悉。固不如書之可據也。頃者相馬仙齡著象牙彫刻法。

親

鉅

高





右  
德

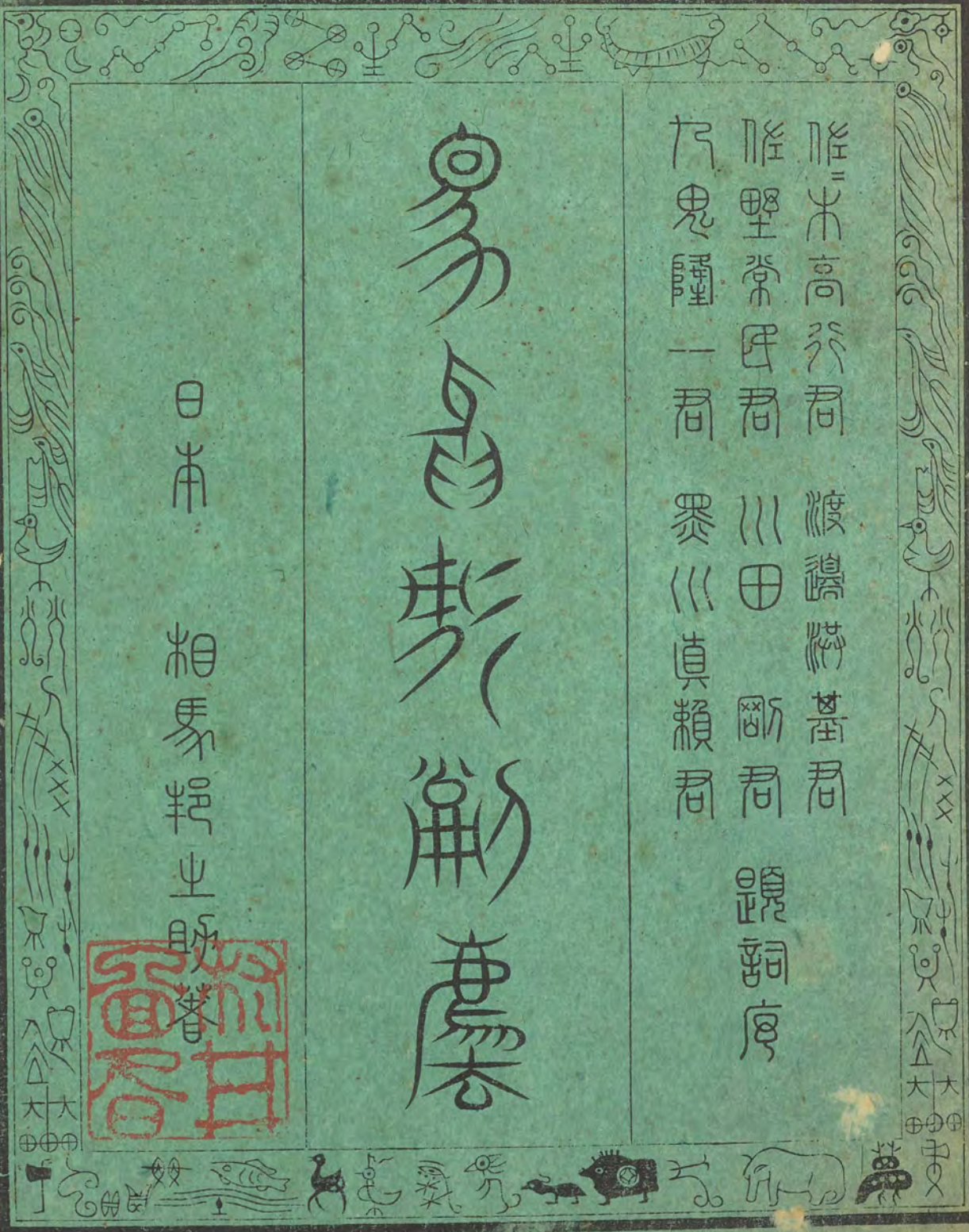
準  
方

惟木高君 渡邊基君  
 惟聖常君 川田剛君  
 九鬼隆一君 墨川真賴君  
 舘詞序

易  
 新  
 漸  
 鹿

日本

相馬邦正



Vol. 1

象牙鹿刻法

乾

## DAWSON'S BOOK SHOP

550 South Figueroa Street, Los Angeles, California 90017 : MADison 6-6729



ZOGE CHOKOKU HO (Technique of Ivory Carving and Sculpture). By Kuninosuke Soma. 2 vols, in cloth case. First edition was 1890 and this example is probably 1900. No date but a change of ownership in the copyright is mentioned as March 18, 1900. Published by Kinbei Yoshida, Tokyo.

Woodblock printing, with illustrations showing tools of ivory carving, perspective, and suggested designs for various sizes of ivory.

1890

明治二十三年三月廿二日版權所有  
明治三十三年三月十八日求 版

正價金壹圓五拾錢

著者 平民 相馬邦之助

東京市淺草區下平右門町  
十三番地

發行者 吉田金兵衛

東京市神田區末廣町  
九番地

發行兼  
印刷者

武田傳右衛門

東京市京橋區彌左衛門町  
十三番地

此人生以百  
 年為期然其  
 間有疾病老  
 幼之變不能  
 常也故君子  
 思其不可復  
 者而先施之  
 意也

サへ得ナラスニ身ヲ誤ルゾウタテケル、今此美人カ薔薇花ト牡丹花ヲ持  
 タル様ヲ彫刻セシハ、小野小町カ詠シタル色見エテウツロフモノハ世ノ  
 中ノ人ノコ、ロノ花ニゾアリケルト云フ、歌ニ因リ、余ガ大ニ感シタル意  
 ヲ表セシモノナリ、抑モ余ハ常ニ多ク婦人ノ像ヲ彫刻スレド唯ソノ態姿  
 ノ愛スベキヲ寫サントスルカ為メニシテ、心ハ常ニ大師ト小町ノ歌ヲ忘  
 レス、サレバ此書ヲ觀ン人モ、亦能クソノ意ヲ了察シテ、古人カ所謂賢ヲ賢  
 トシテ色ニ易ヘヨノ誠メニ負カサランコヲ深ク希望スル所ナリ、斯クア  
 リテコソ、肉躰ノ浮キタル色ヲ愛ツルニアラテ、美術ヲ愛ツル高尚ノ清玩  
 ト謂フベケレ、

象牙彫刻法 埤 結尾



早起  
元黃潛

漠々晴檐散  
薄雲獨搔短  
髮立清晨春  
風入樹無行  
迹曉月窺簾  
欲近入旋覺  
新吟隨夢寐  
不知沾露濕  
衣巾何人正  
踏長安陌想  
塵  
花間美人  
清李漁  
同病相憐不  
忍逢容未絕  
欲轉身飛天  
教衣縮薔薇  
刺留待入看  
不放歸

三 美人贈花

大玉截 重量四百八拾目、仕より百八拾目、左辺六寸一分、右辺六寸三分、  
底中三寸二分奥二寸九分、上巾二寸五分奥二寸二分、明治廿年七月廿二日作



右説明

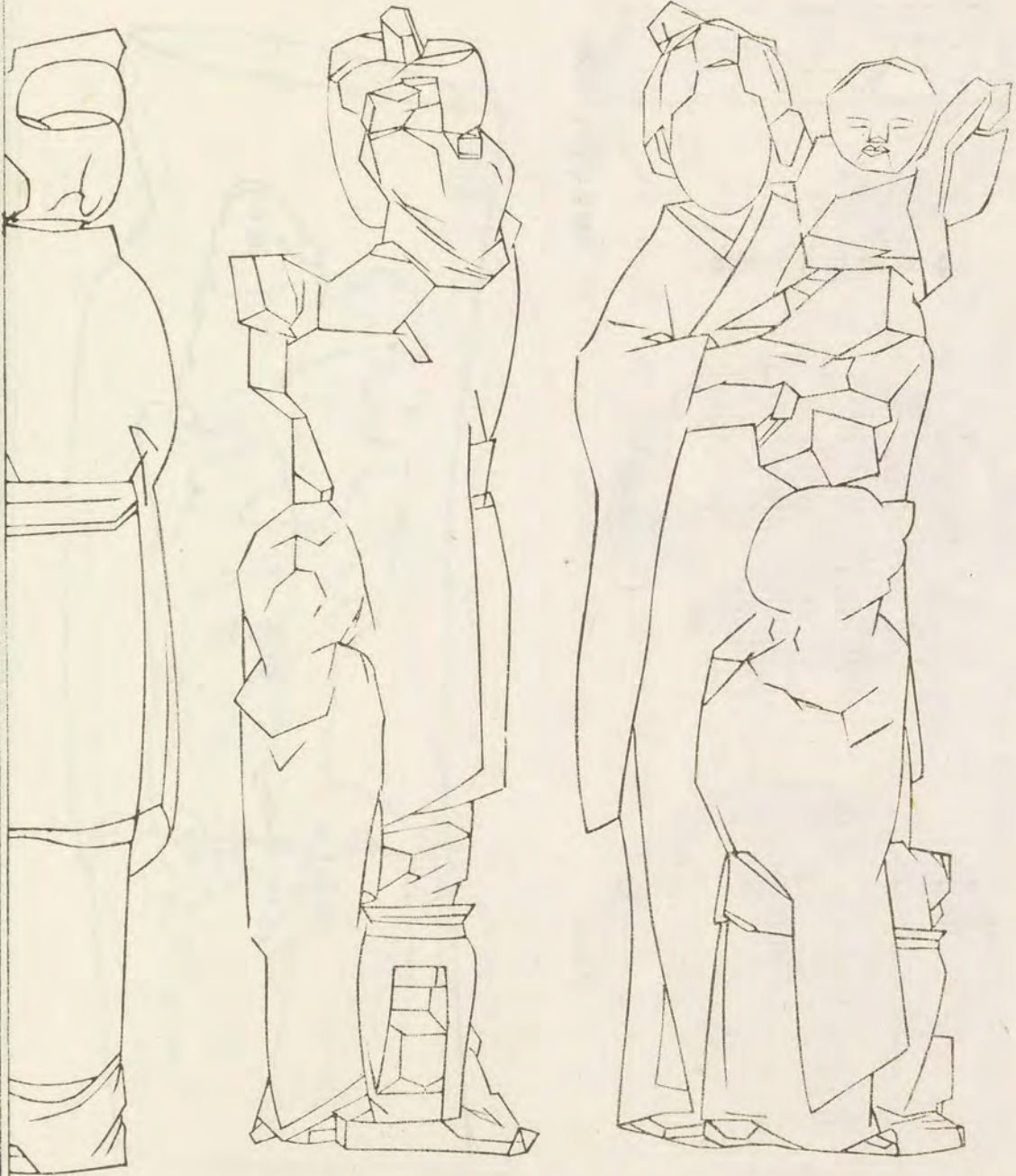
色ハ香ヘト散ヌルヲ吾カ世孰レソ常ナラムトハ其昔弘法大師カ詠セラ  
レタル歌ニシテ世俗ニ傳ハリ一般兒女ノ訓ヘトハナリニケリ、竊カニ歧  
意ヲ考フルニ吾人等ガ道ニ踏迷フハ皆色香ノ為メニシテ一生ヲ渡ル丁



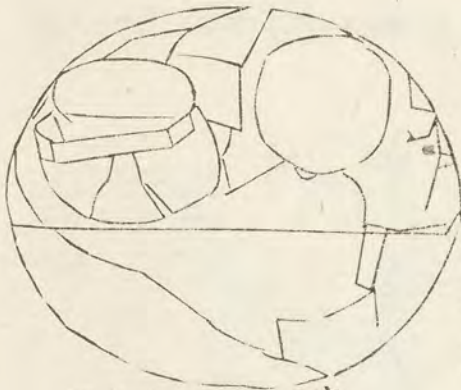
磨キテ模倣ヲ附シタル形



鑿木ヲ混用ルタニ形



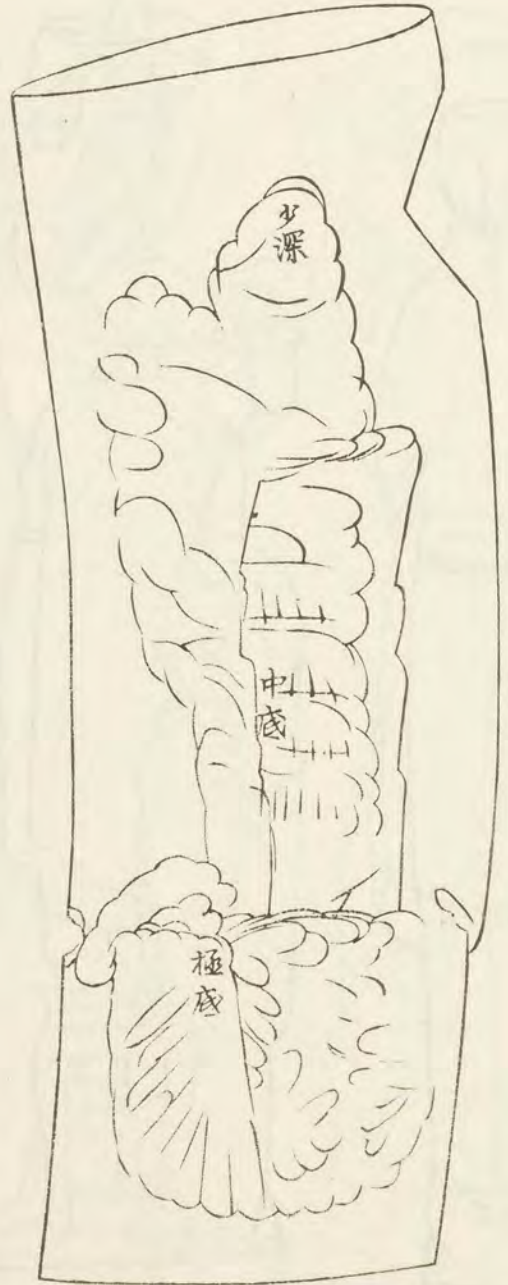
面上



重五分五寸一巾奥

横巾一寸九分五厘

形ルタシ用混ヲ鑿鋸



重四分五寸一

一寸九分

再三可試滋  
味與厚味

廿一 前題再試

玉截 重量百六拾目 高五寸四分五厘  
所阜五寸一分 明治廿年四月六日作

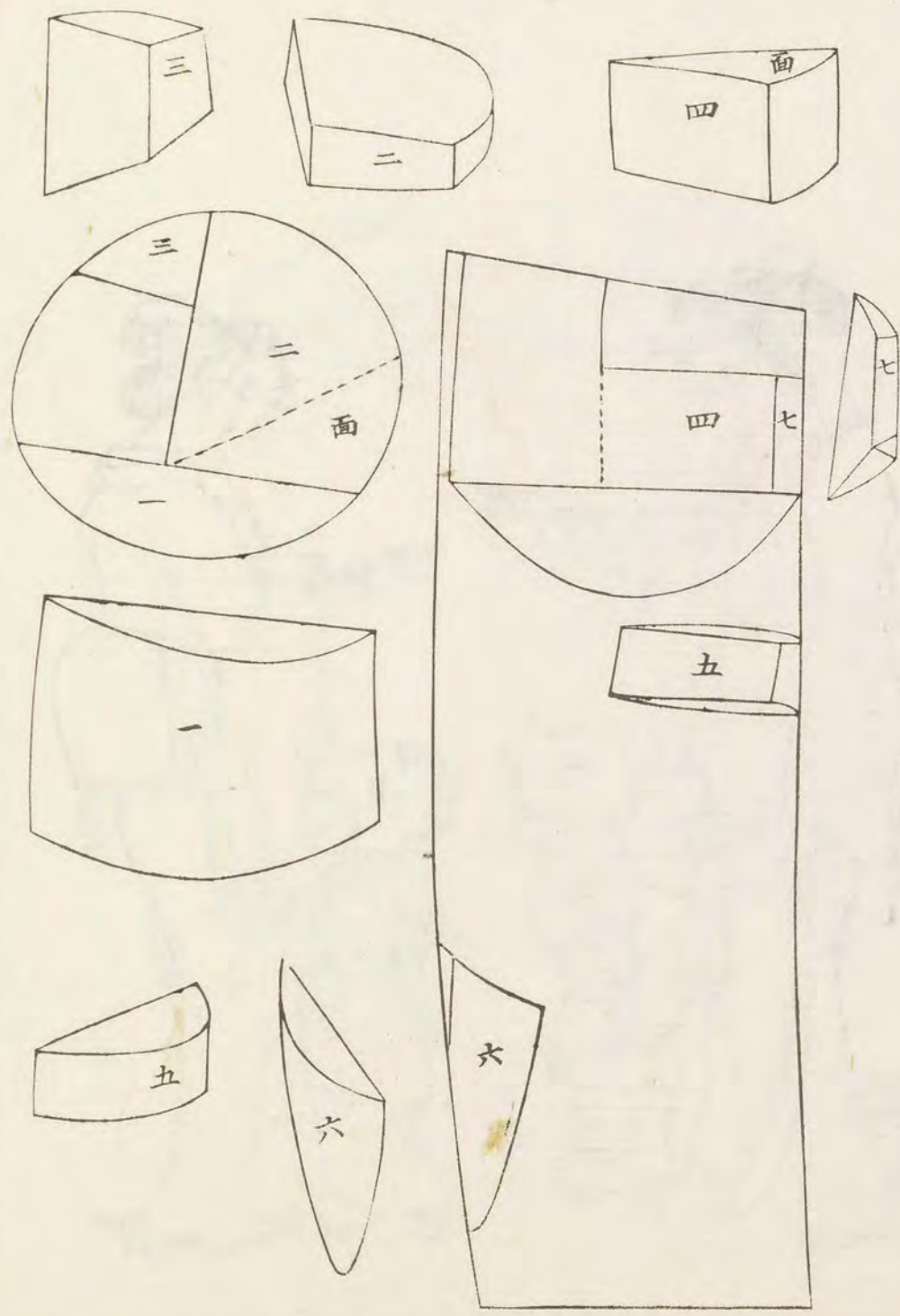




鹿心柿  
 林高品、啖羅  
 分明美密房  
 顏潛庵

二千 抱子剥果

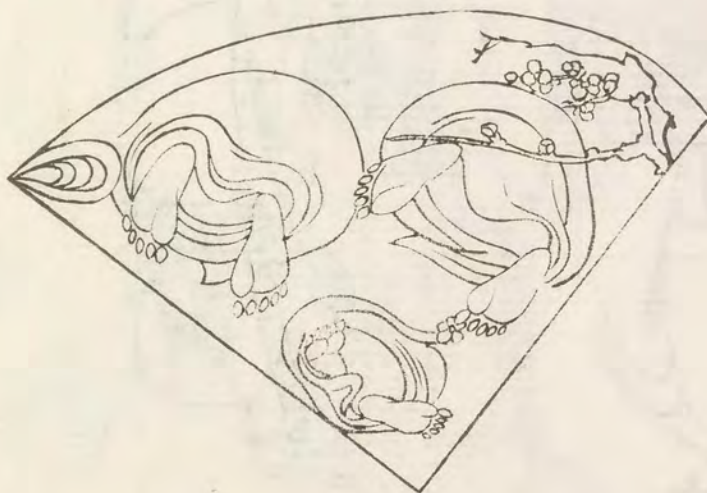
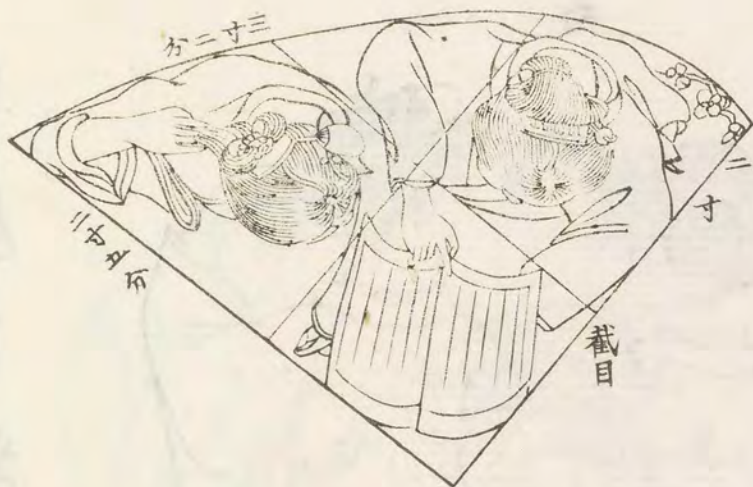
玉截 高五寸二分左邊四寸八分五厘 上巾一寸八分五厘  
 與巾一寸七分 底巾一寸六分與巾順之 明治廿年正月廿日作







林  
六  
坤



乙



丙

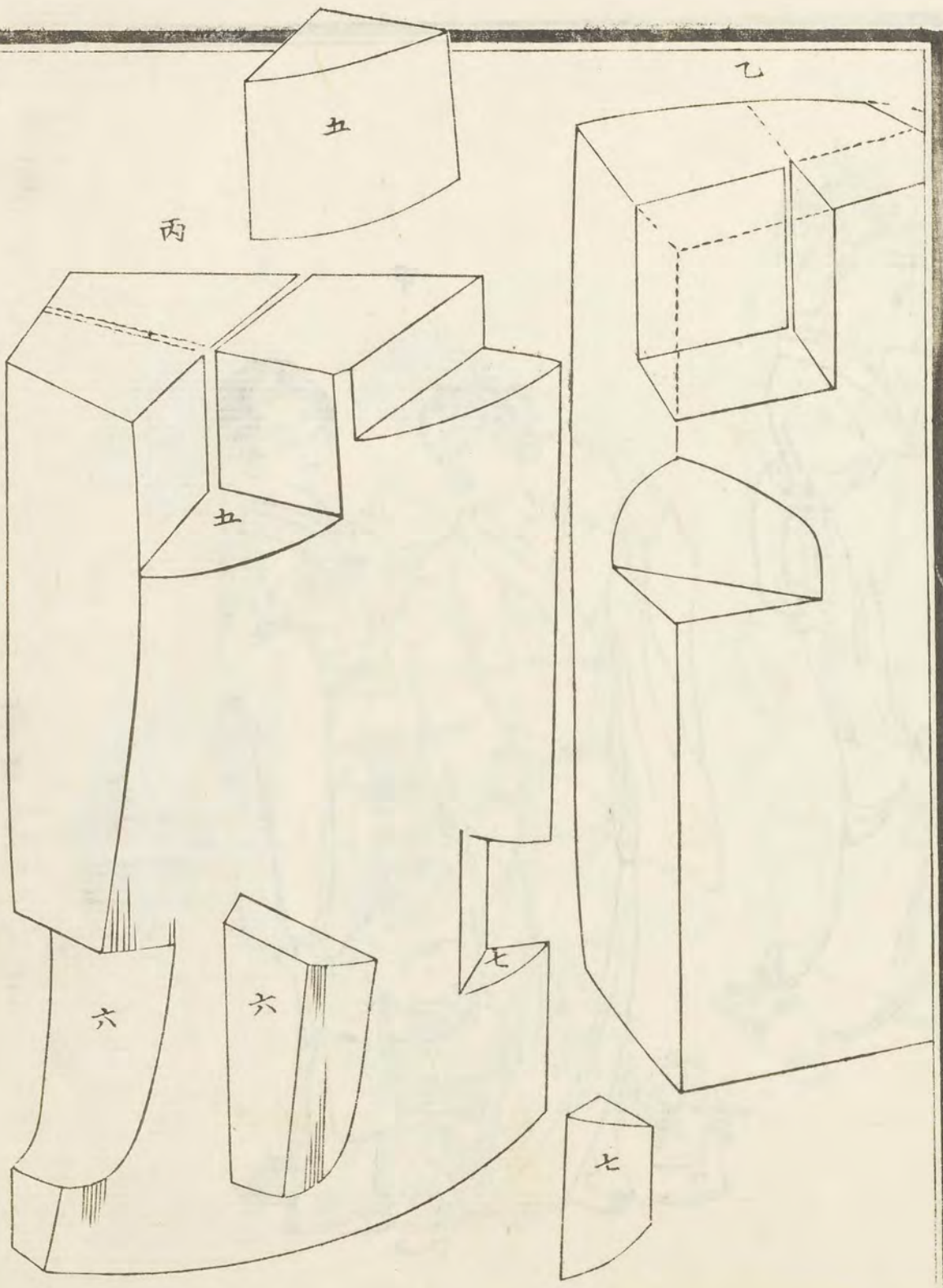


三立式

甲



斯ク罵スモ可ナリ

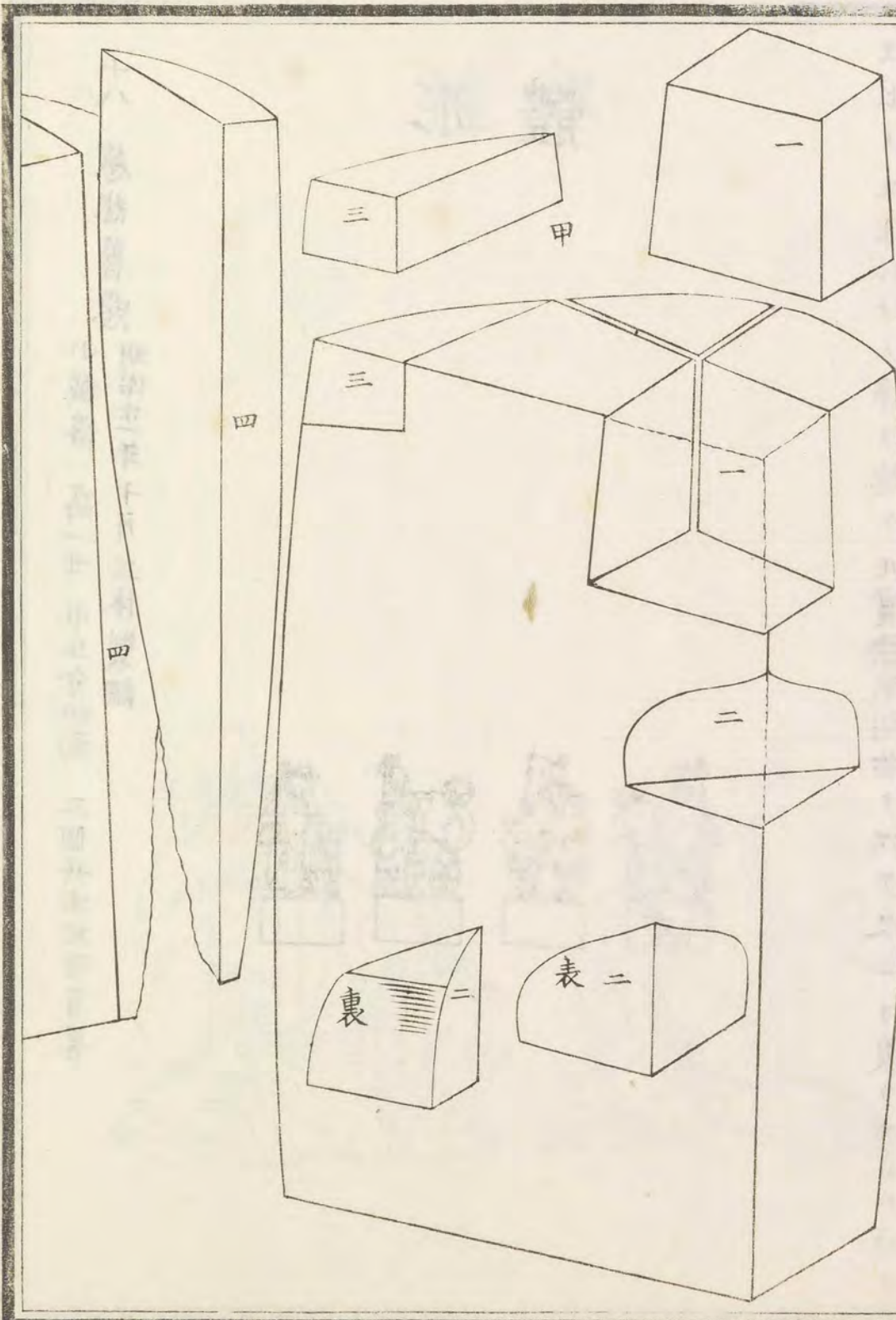


子曰好學進  
於智力行進  
於仁知耻進  
於勇知斯三  
者則知所以  
修身

十九 二女讀書

檜落 高四寸八分 左面二寸 右面二寸五分 裏面三寸二分

明治五年七月七日作



坐禪用心記  
 曰心本無三  
 相身更異相  
 像唯心與唯  
 身不說異兼  
 同心變成身  
 身露相分一  
 波總動方波  
 隨未心識才  
 起方法競未  
 又曰常住天  
 慈大悲坐禪  
 無量功德回  
 向一切衆生  
 莫生憍慢我  
 慢法慢此是  
 外道凡夫法  
 也念善斷煩  
 惱善證菩提  
 只管打坐一  
 切不為是參  
 禪要術也

十八 慈悲善惡

小截落 高一寸 巾五分四面 三個共木地形省畧  
 明治廿一年十月三体制調

體形

以上ノ三体ハソノ辞ヲ聽ケル實際彫刻物ヲ以テ之レヲ象ラサレハソノ  
 體ヲ悟ルヲ能ハス故ニ刻シテ初學ニ辨シタル者ナリ



范氏曰神龍  
或潛或飛或  
大能小其變  
化不測然得  
而畜之若天  
羊然有欲故  
也唯其可以  
畜之是以亦  
得醢而食之  
凡有欲之類  
莫不可制焉

# 體想

十七

威伏靈蟲

截落 高二寸二分五厘  
底巾二寸一分 奧巾漸一寸





蝴蝶行  
 蝴蝶飛渡河  
 來河北花已  
 落河南花正  
 閑盈采花  
 女撲蝶還家  
 去推身飛入  
 粉奩中芳艸  
 歸舊時路  
 宋孔平仲

真體

十六

戲花蛺蝶

玉截逆用 高五寸三分 上巾二寸 下巾一寸四分



眞想形

彫刻ハ稍、鋸ヲ使ヒ、木ヲ用ヒ、小刀ノ運ヒヲ悟リ、材料ニ向テ畧、形ヲ慮ル  
ヲ得ル場合ニ至リ、愈、識者ニ就キ、考案ヲ求メテ、課ヲ設ケ、程ヲ履キ、以テ  
運刀ノ正式ヲ學ハサルヘカラス、而シテ、運刀ノ正式トハ如何ナル者ヲ云  
フヤ、即チ眞想形ノ三体ニシテ、之レニ未來ノ妙想体ヲ併セテ、四体トス、然  
レ、此ノ妙想ノ一体ニハ、必ス期スヘキノ程度ナキヲ以テ、之ク識者ノ教  
示ヲ待ツヘシ故ニ、先ツソノ眞想形ノ三体ニ向テ、解釋ヲ述ヘシ、眞トハ骨  
格ニ基キ、寫生肖像等ノ如キ者ニシテ、共ニ眞ニ迫リ之レヲ推及シテ、數丈  
ノ巨大ナル物体ニ臨ムモ、疑團ナク、應用スルヲ主要トス、想トハ書傳ノ雅  
言、異域ノ傳聞、或ハ喜怒哀樂等ノ其意味ノミヲ悉ク著ハシテ、彫刻物体ノ  
働ヲ得セシムル者也、形トハ運刀簡畧ニシテ、只形狀ノミヲ示シテ、材料甚  
タ小体ナルアリ、又巨大ニ過キテ尋常ノ手段ヲ以テ為シ、鋸ハサルアリ、皆  
其支部ノ緻密ヲ省畧シテ、全ク刀痕ハ練熟ヲ見ルニ止レリ、而シテ、此ノ三  
体ヲ練熟シタル餘ハ、各其學者ノ意ニ任セ自由ニ運動ヲ與ヘ、即チ未來ノ  
妙想体ヲ顯ハサシムルヲ要ス、左ノ圖ヲ見テ、克ク其意ヲ了スヘシ

此処へ深ク小刀ヲ  
使フヲ好シトス





子附二口本與

小児ハ口ヲ放ツ

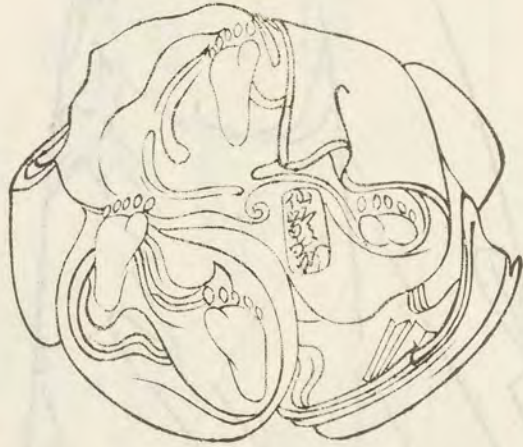


詩云、襟有極  
其實七分、求  
我庶士、迨其  
吉兮、

十五處女閑適

中丸先重量二百目余落成百拾五文目二減ス  
高七寸三分 底巾三寸三分 輿巾二寸五分五厘  
明治廿年五月廿五日作

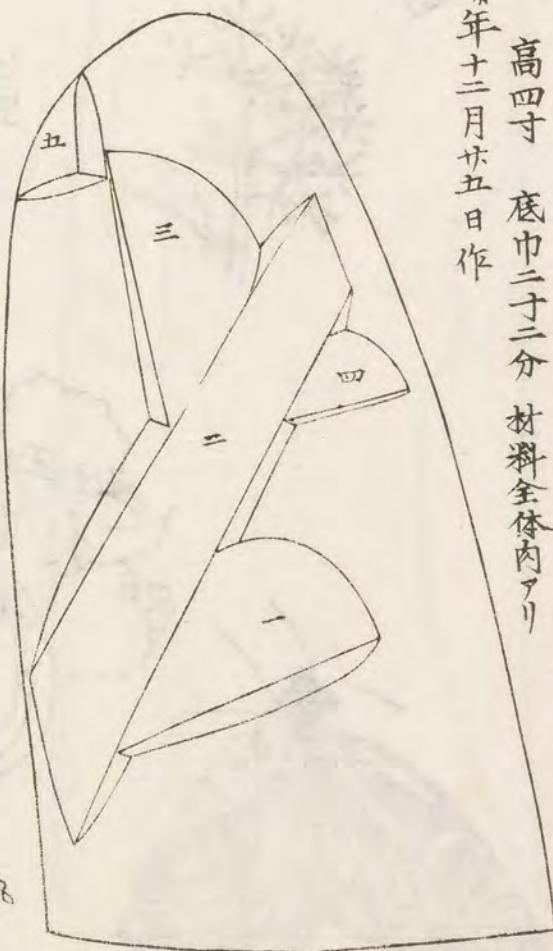




毛詩序曰情  
動於中而形  
於言言之不  
足故嗟歎之  
嗟歎之不足  
故詠歌之詠  
歌之不足不  
知手之舞之  
足之蹈之

十四 舞蹈演習

丸先 高四寸 底巾二寸二分 材料全体内アリ  
明治廿年十二月廿五日作





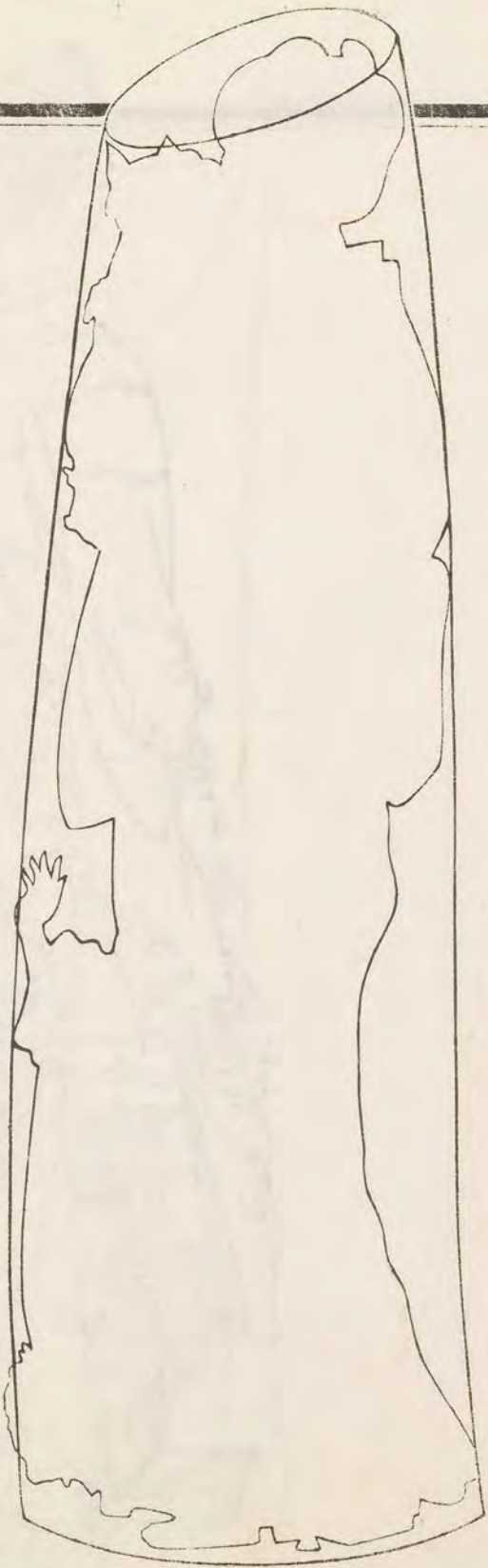
紫微蛺蝶共ニ  
参考ニ舉クヘシ

蛺蝶

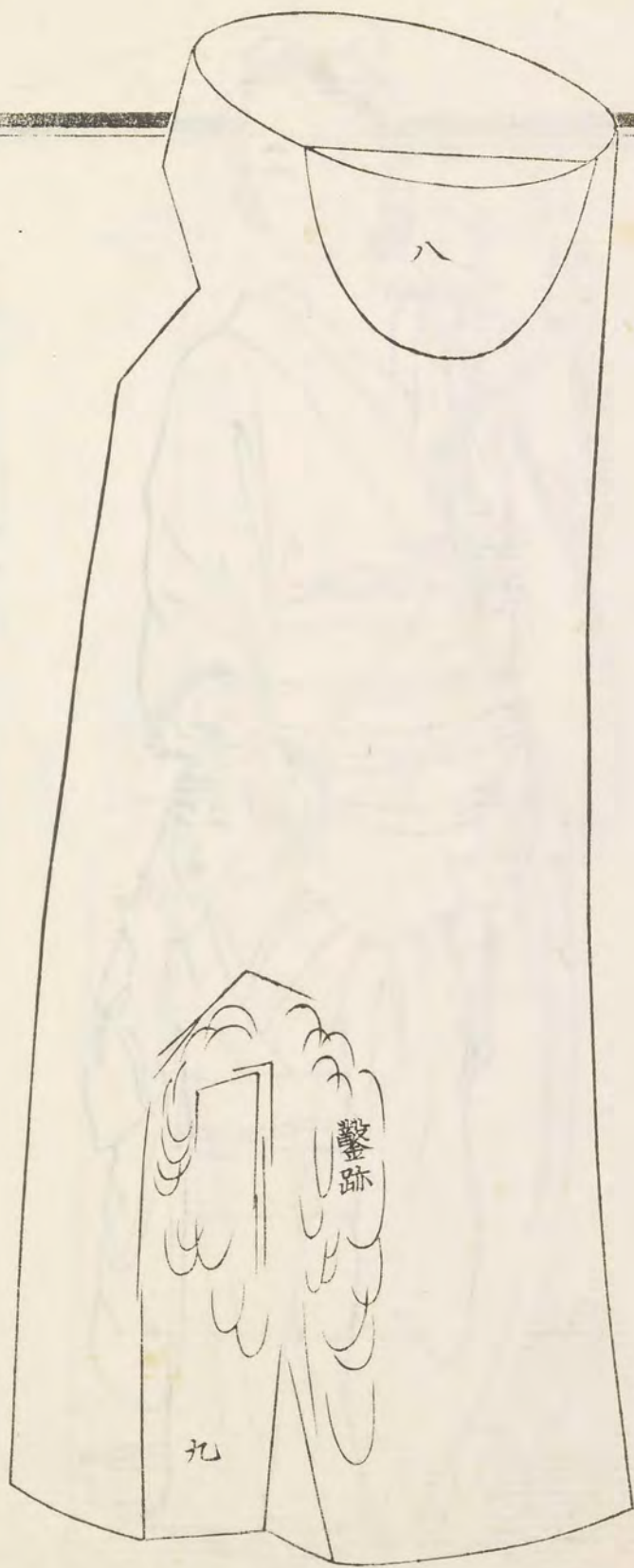
紫微



廿八  
坤







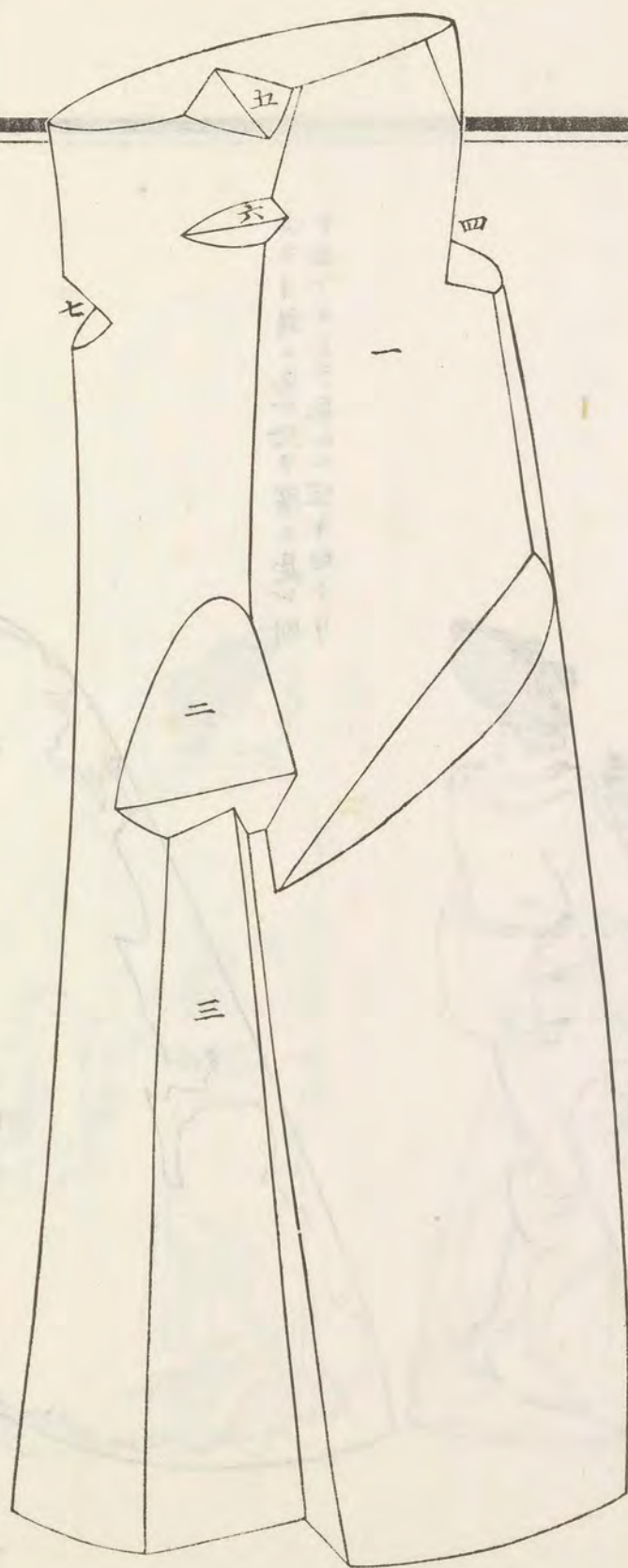


鹿焚子退朝  
日傷人乎不  
問馬

十三 左右愛憐

玉截 重量三百九十三文目、右方高七寸二分、左方高六分五厘、上市二寸  
上市二寸與巾一寸六分 下巾二寸九分與巾二寸五分弱

明治六年十二月七日作



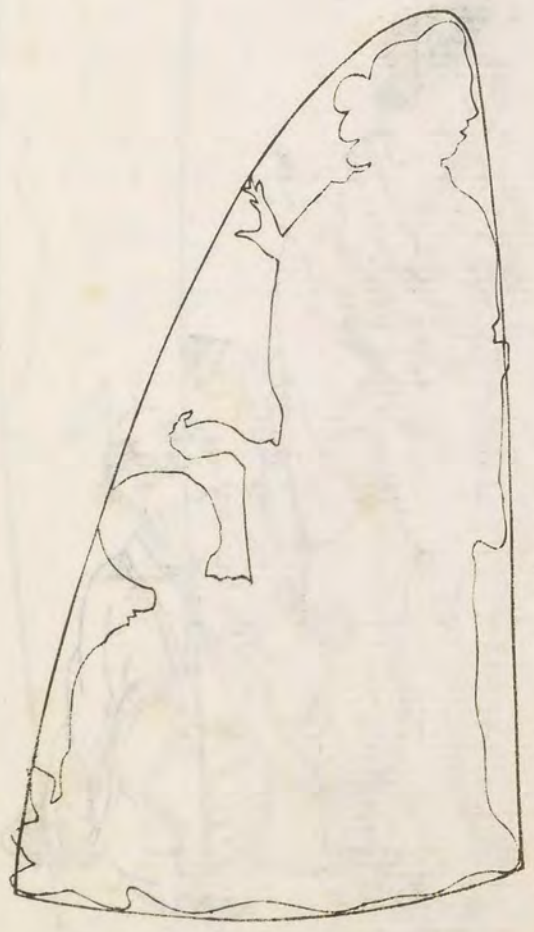
上ヨリ斜ニ見ル処ヲ寫ス是レ則  
チ画トナシテ見ルニ宜キ処ナリ



花鳥  
八  
三

二  
三  
四  
五

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十



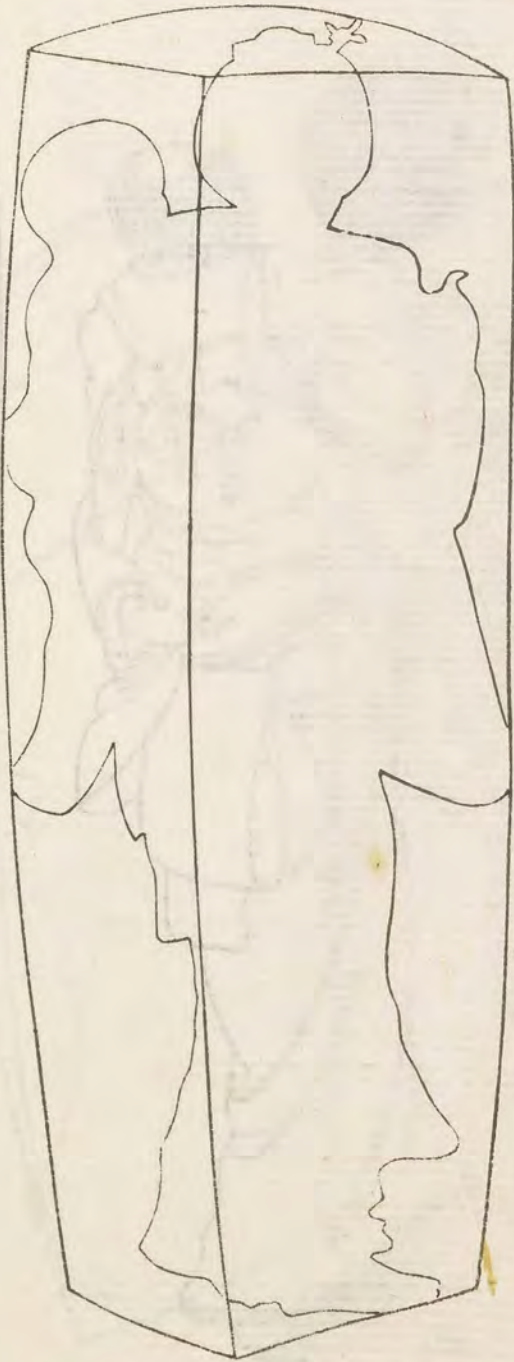


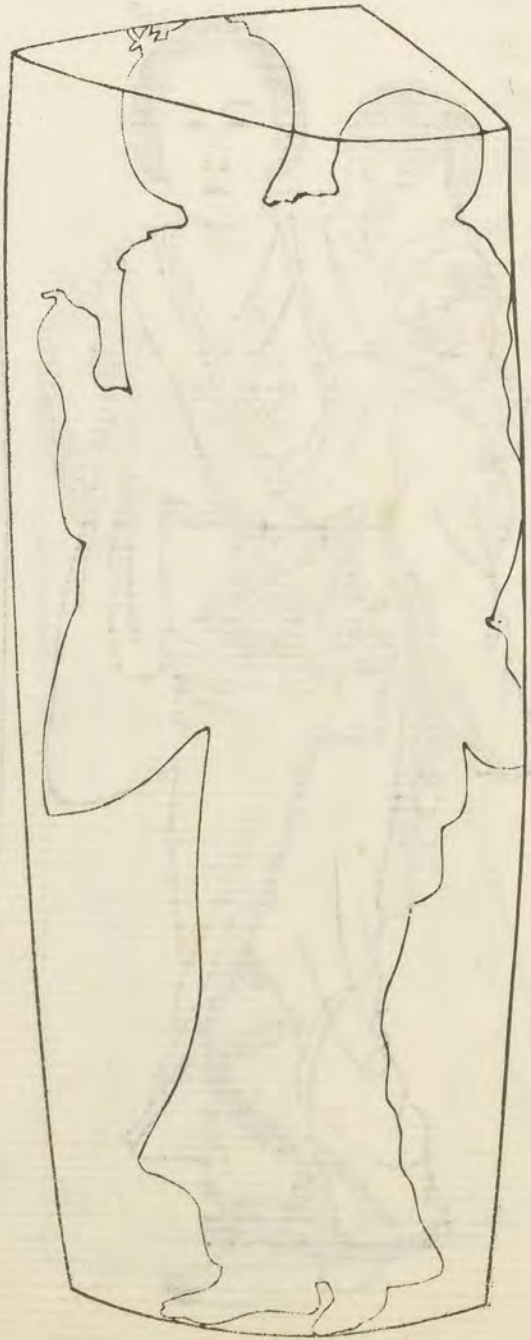
子曰唯女子  
與小人為難  
養也近之則  
怨不遠之則

十二心忙兩避

丸先 高四寸一分底濶二寸三分  
明治廿年九月十日作







子曰、子之三年、然微免於父母之懷、夫三年之喪、天下之通喪也、予也、有三年之愛於其父母、子故又曰、事死如事生、事亡如事存、孝之致也。

土稚兒慕乳

撥落逆水地 高五寸六分 上巾二寸一分五厘 下巾一寸八分  
 明治九年七月十五日作

上ヨリ斜ニ見ル処ヲ寫ス



乙

八分

五分

七分



丙

八分

四分



(甲)

八分

六分

此ノ甲乙丙ノ三図

ハ勢妹待宴ノ彫

刻物ヲ方向ヲ異ニ

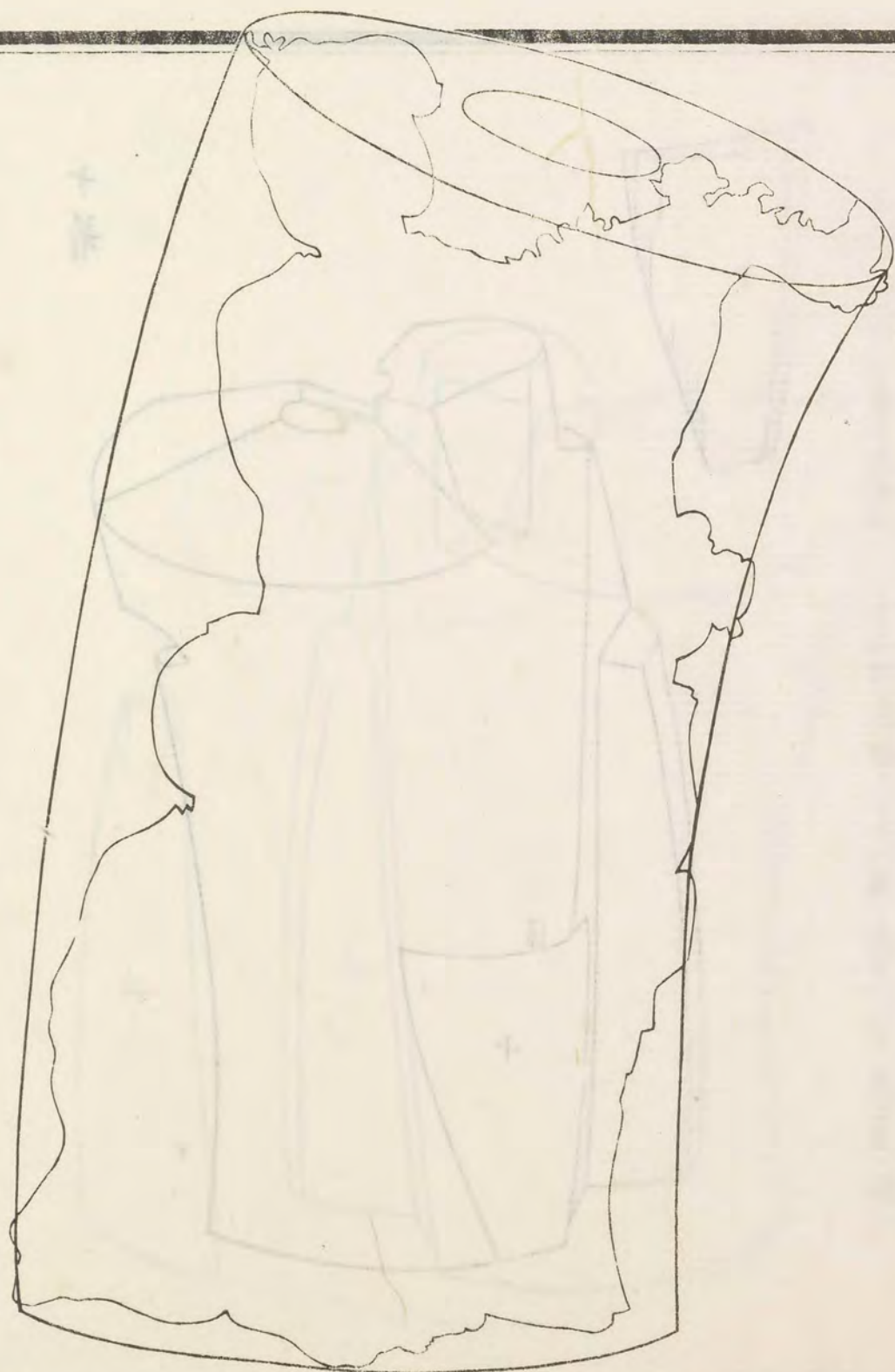
シテ寫セルモノナ

リ





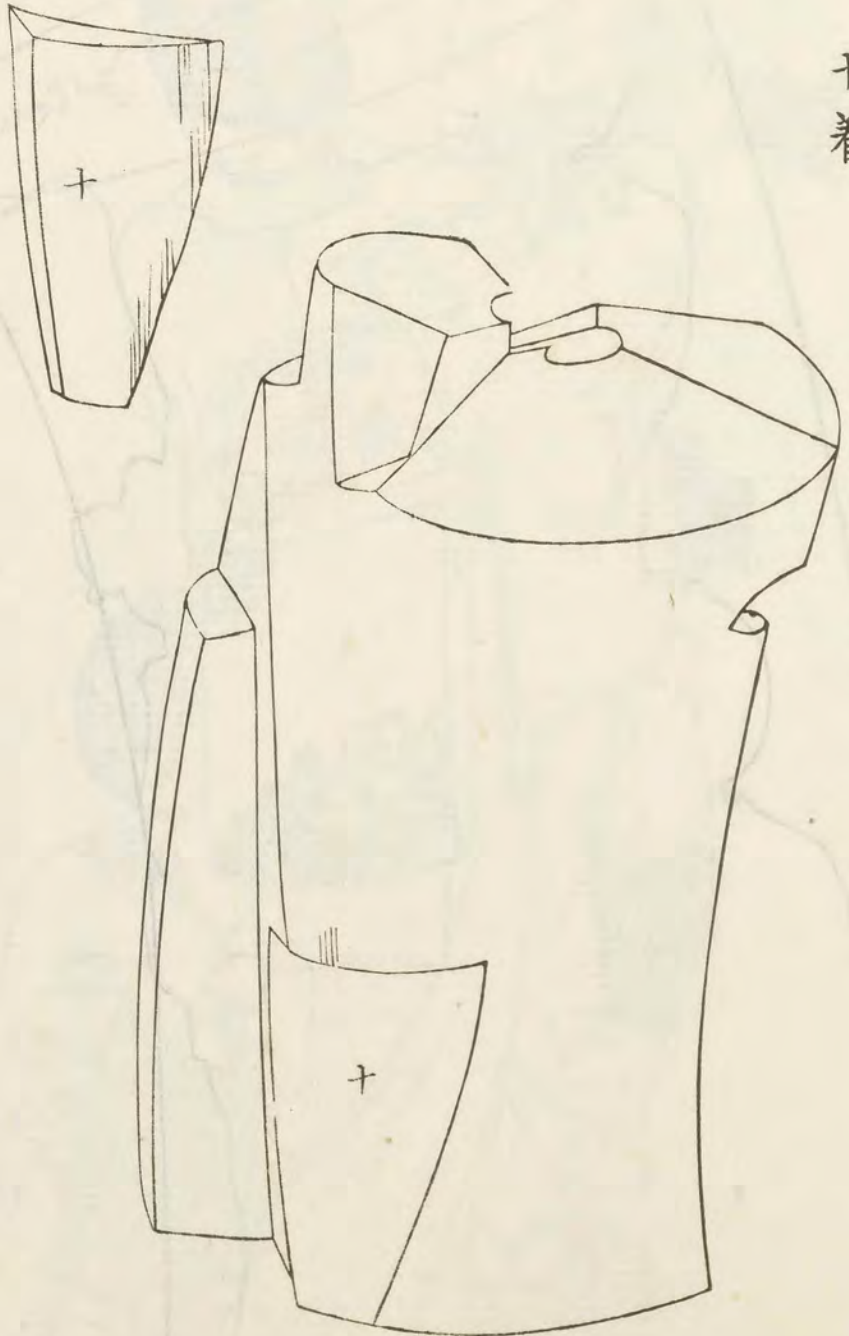
十



十

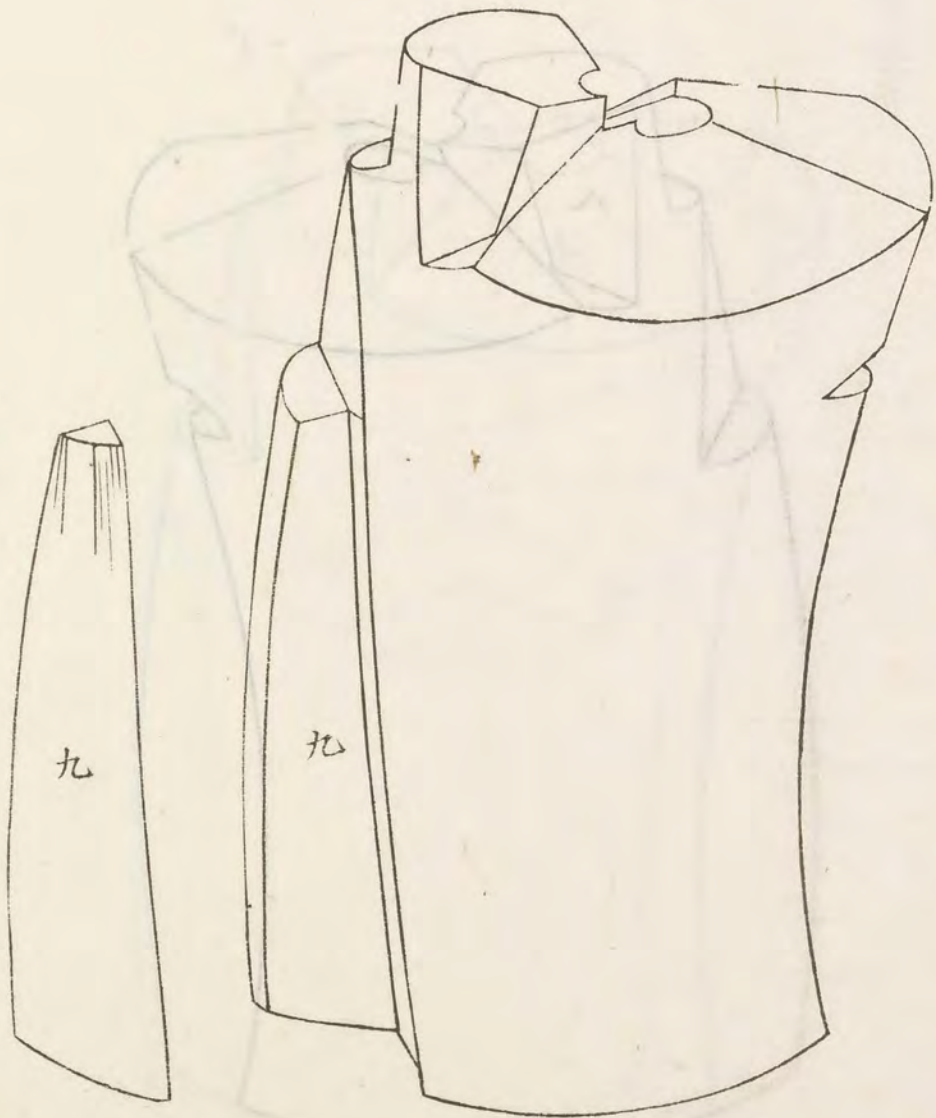


十着



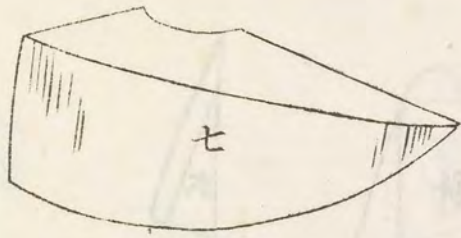
右ノ諸図ハ鋸截ノ十着ヲ示セルナリ又材料ヲ大切ニシテ冗瑣ノ出テシヲ慮ルハ斜ニ  
 前面ニ截リ下ルカ然ラサレハ全体ノ材料ノ時ニ  
 斯ノ如ク切斷スルヲ好シトス

九着



八着

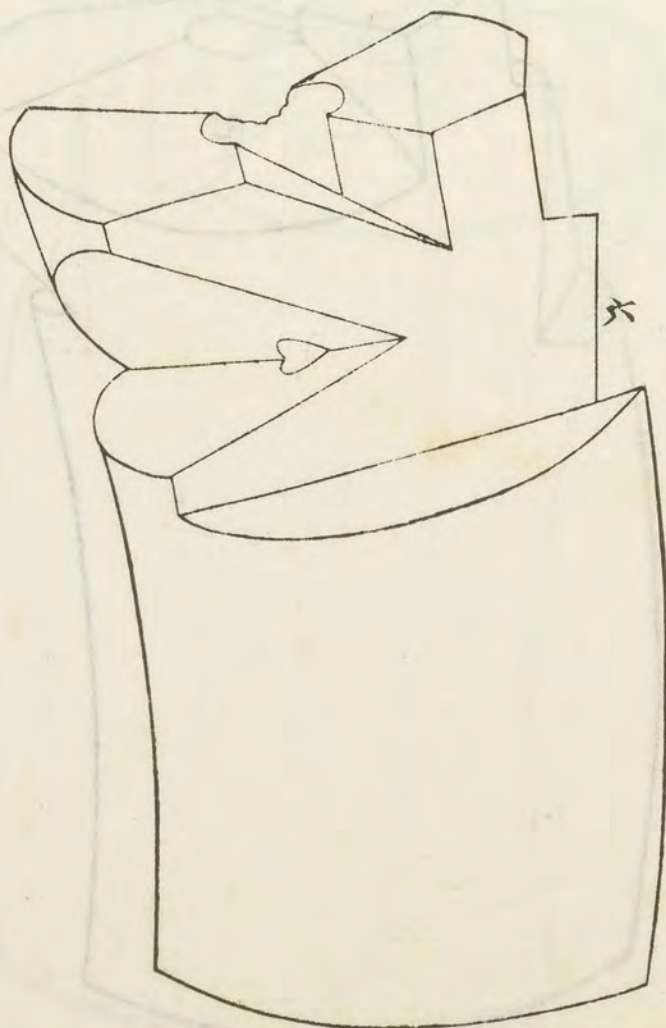
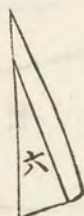




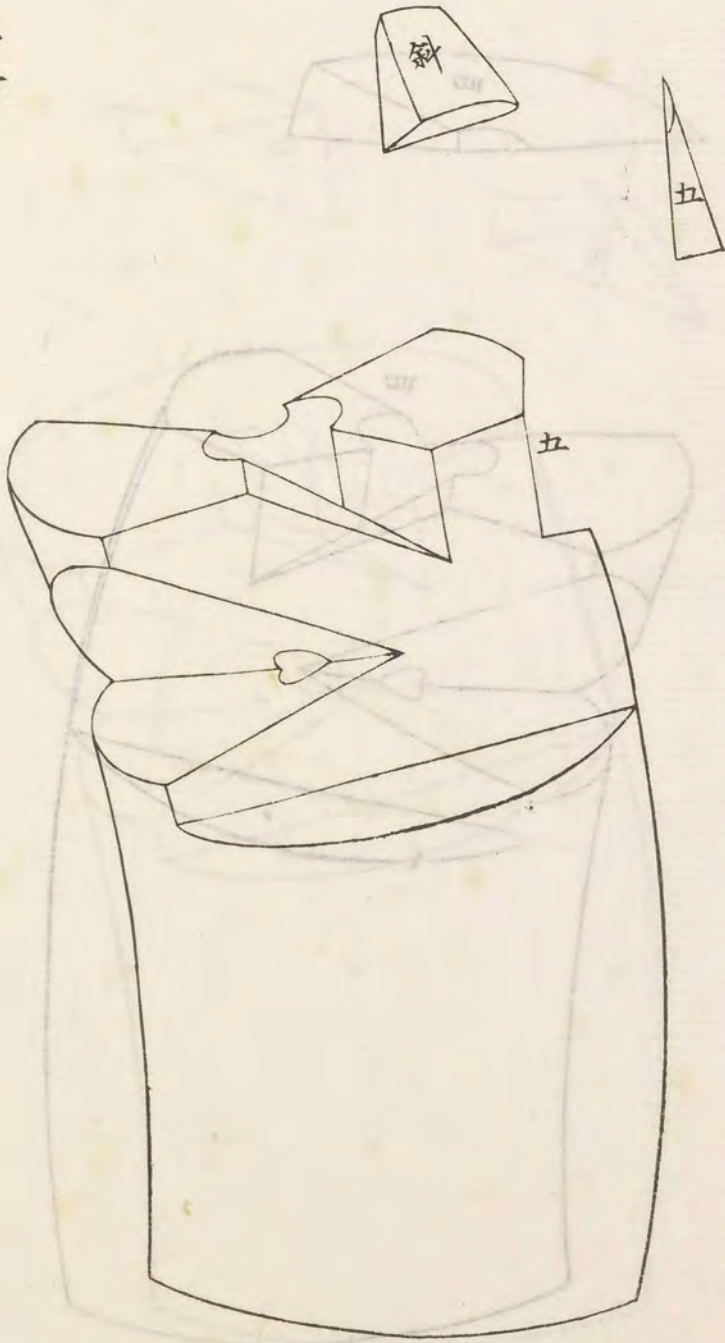
七着 即四着後面



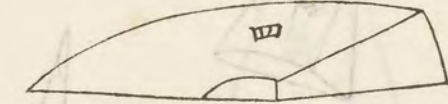
六着



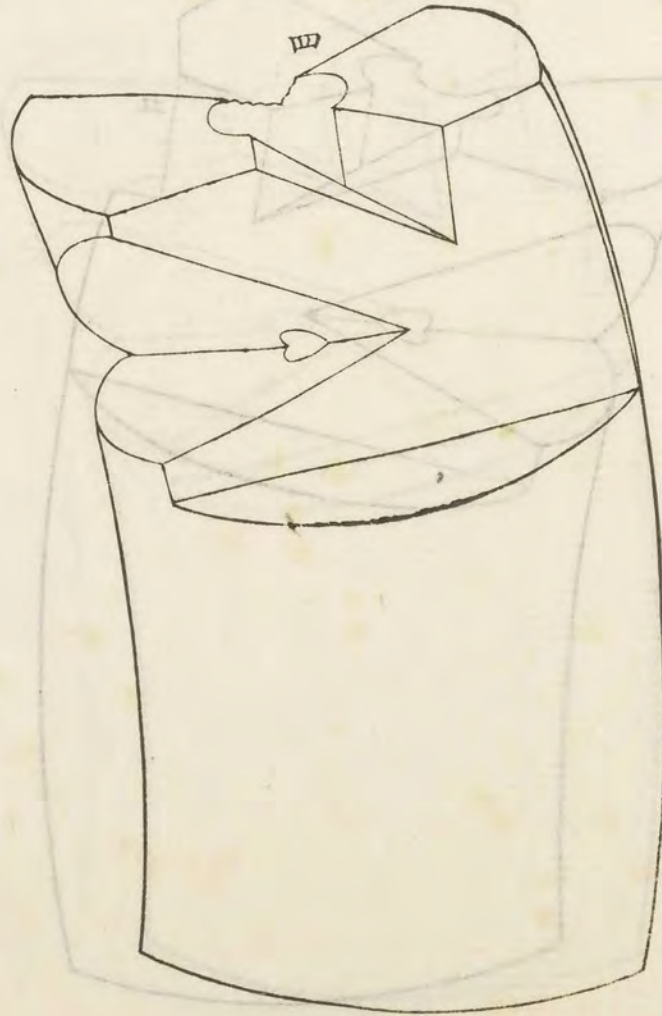
五着



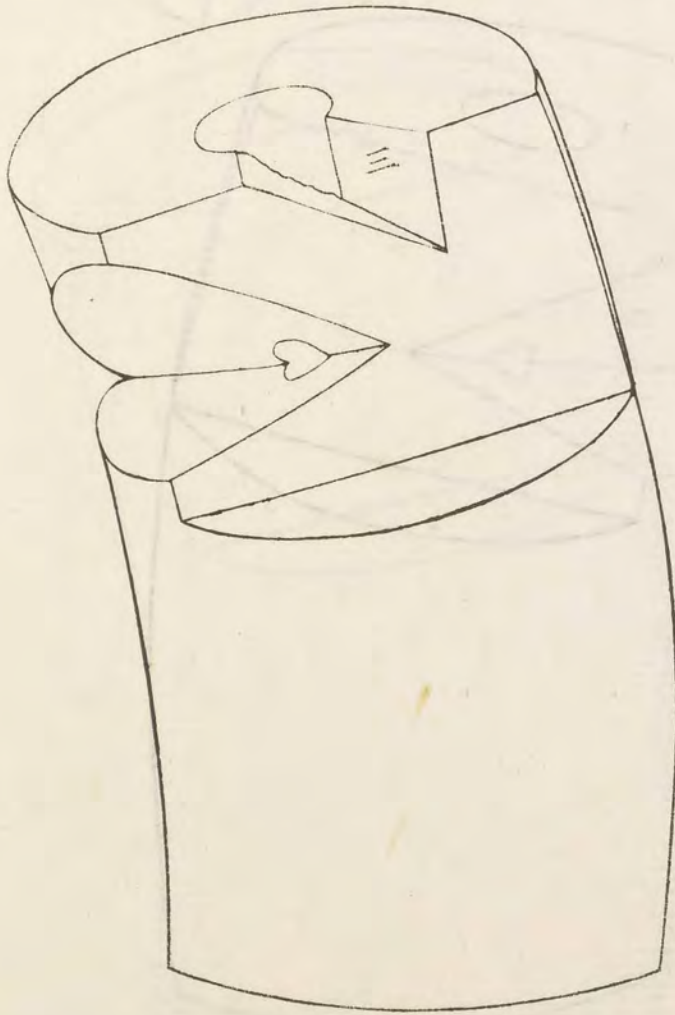
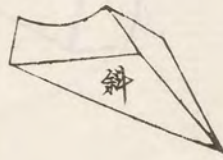
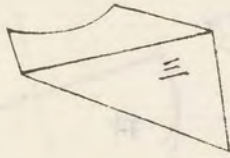
四着



吐魯

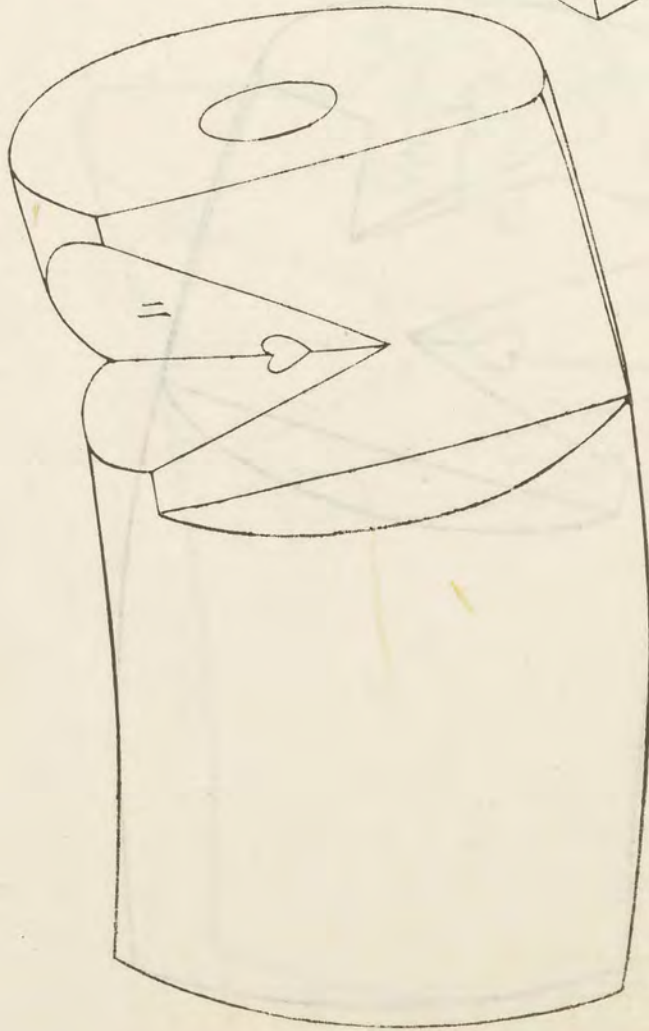
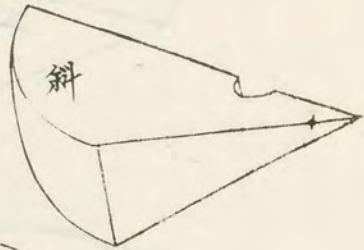
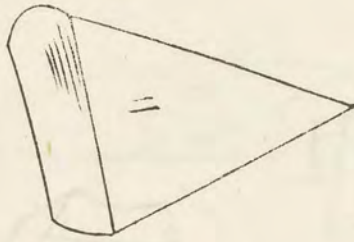


三着

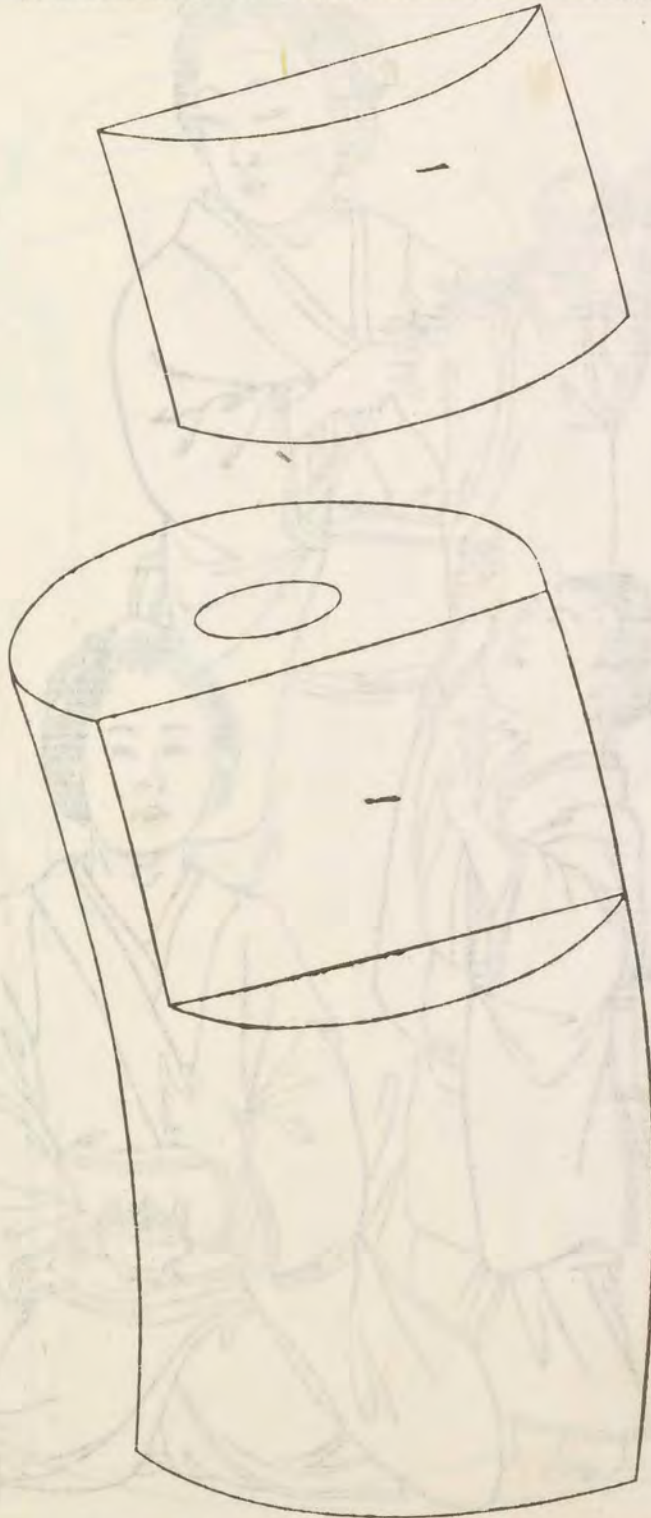




二着



一着



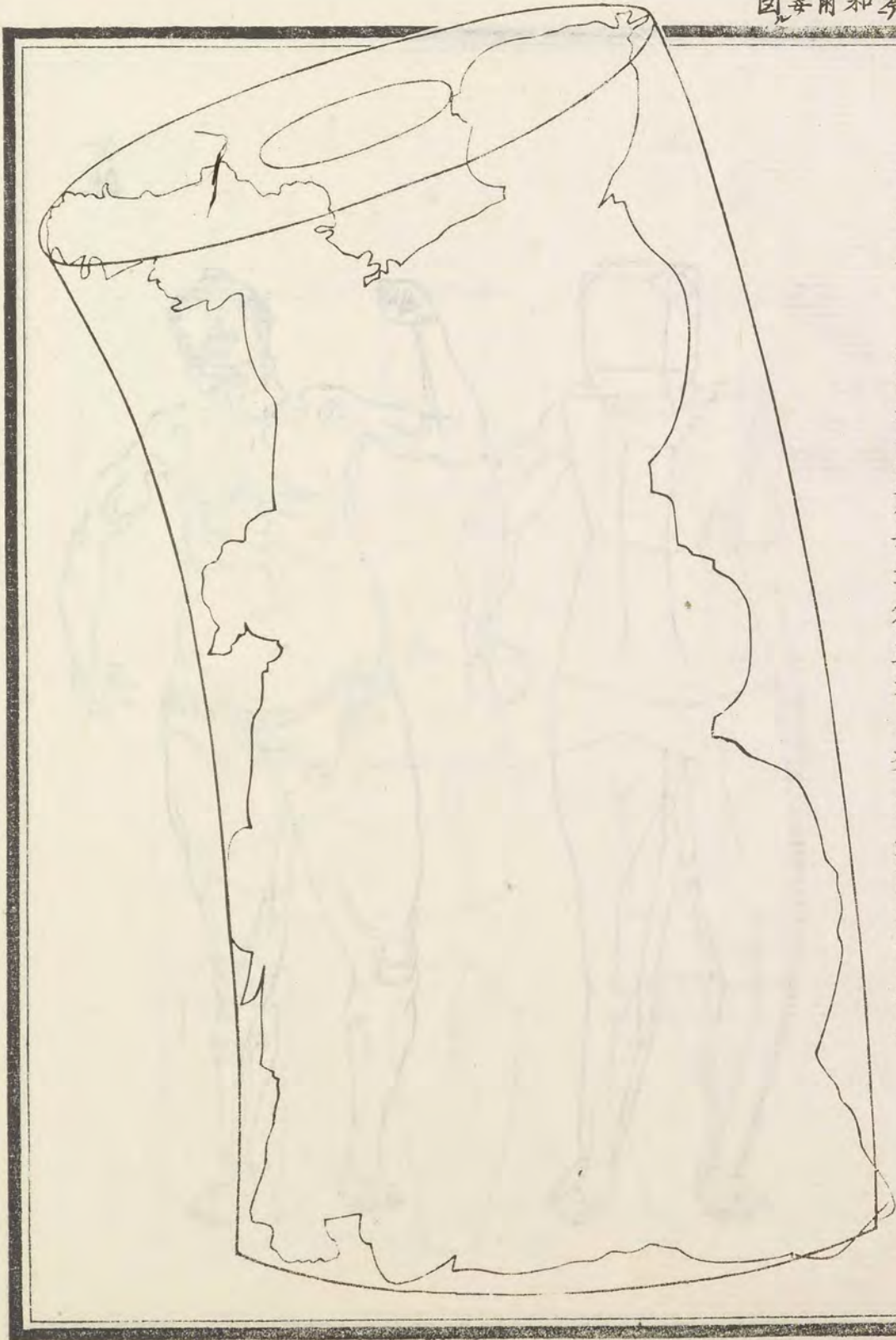
以下十着宛ノ諸圖ハ縮寫シテ便覽ノ都合ヲ謀レルモノナリ  
 借テ材料ヲ碎クノ始メニ當田リ  
 先ツ克ク位置ヲ定メ○第一鋸ヲ用ヒテ以テ此ノ圖ノ十着宛  
 截リ碎キ○第二鑿ヲ用ヒテ畧  
 形ノ頭ル、宛碎クヘシ○第三ア木ヲ用ヒテ全体ヲ滑カニシ  
 且ツ衣紋ヲ併作ルヘシ○第  
 四ニ小刀ヲ用ヒテ形ヲ全フセシメ○第五ニ磨キト摸樣ハ五  
 七ニ先後シテ仕上クヘシ鑿ヲ  
 使ヒア木ヲ用ヒテ碎キタル圖ハ繁雜ナルヲ以テ之レヲ省クヘシ



詩云、妻子好  
合、如鼓瑟琴  
兄弟既翕、和  
樂且湛、宜爾  
室家、樂爾妻  
帑、是究是圖  
亶其然乎

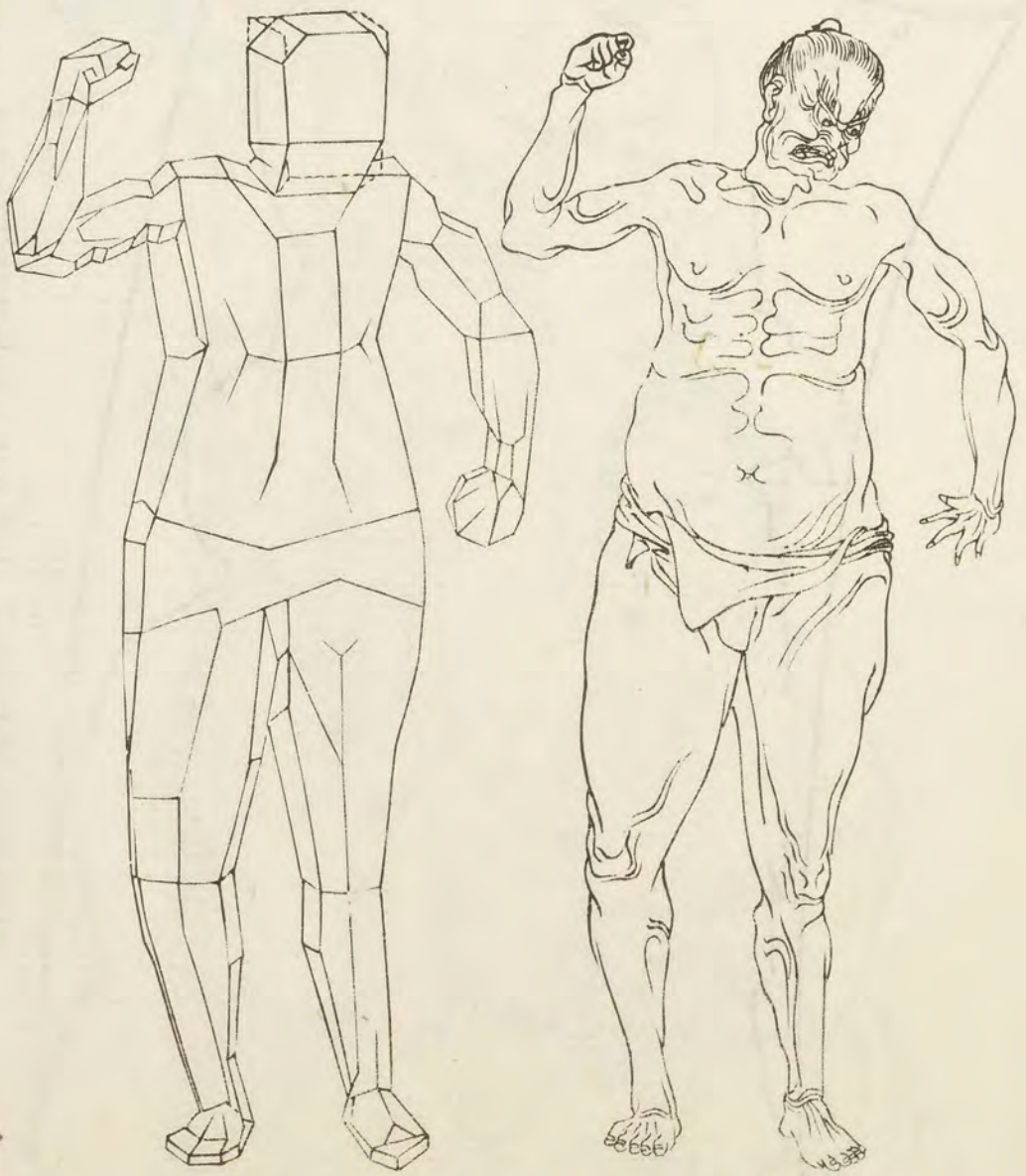
十姊妹待賓

虚木地即十孔ノ通リタルヲガ下林へ重量六百目右高六寸九分  
左高寸九分五厘横三寸八分奥三寸五分逆ニ用ヒ明治廿年六月十六日作

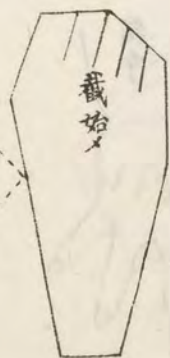
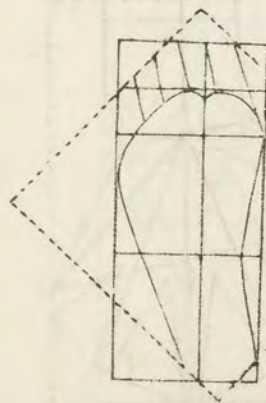
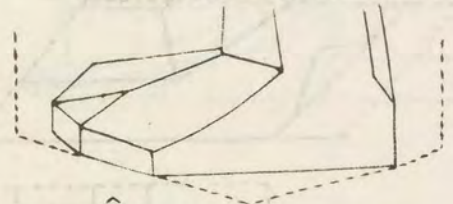
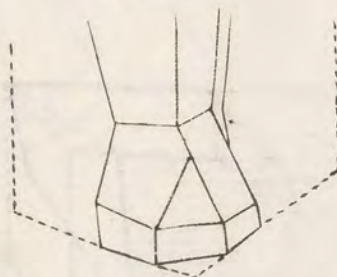
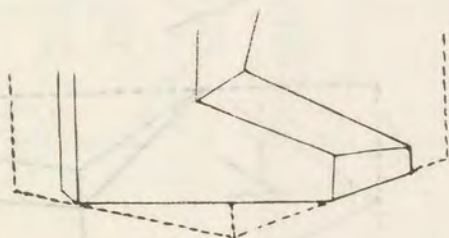
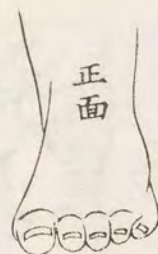


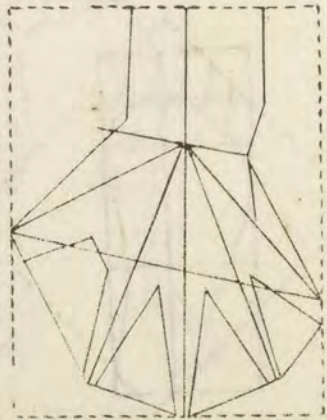
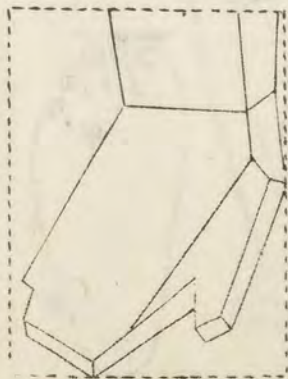
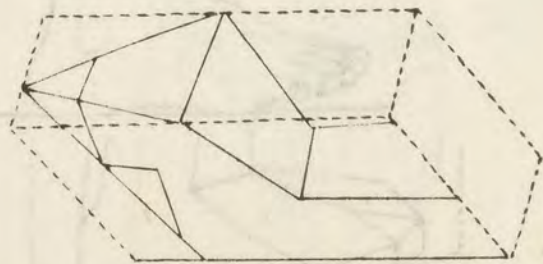
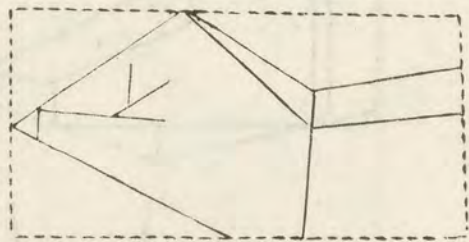
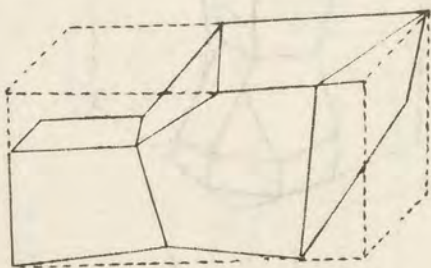
全躰

以上佛像ヨリ是ニ至ル迄ノ間即チ推慮ヲ促カサシムルノ方法ナレ  
ハ克ク其意ヲ心得ヘシ漸次ニ又彫ミ方半ニ就テ少ク精細ヲ述ン



足ノ諸形





顔面諸貌

起

相男



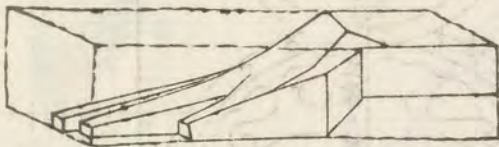
承

相女

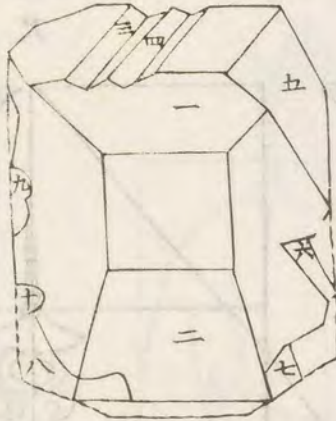
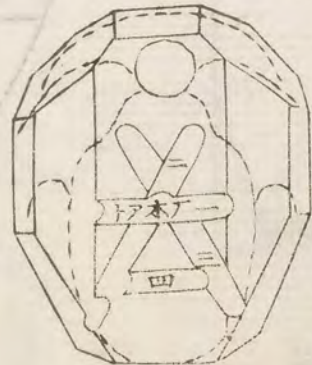


手ノ諸形

横



拳裏



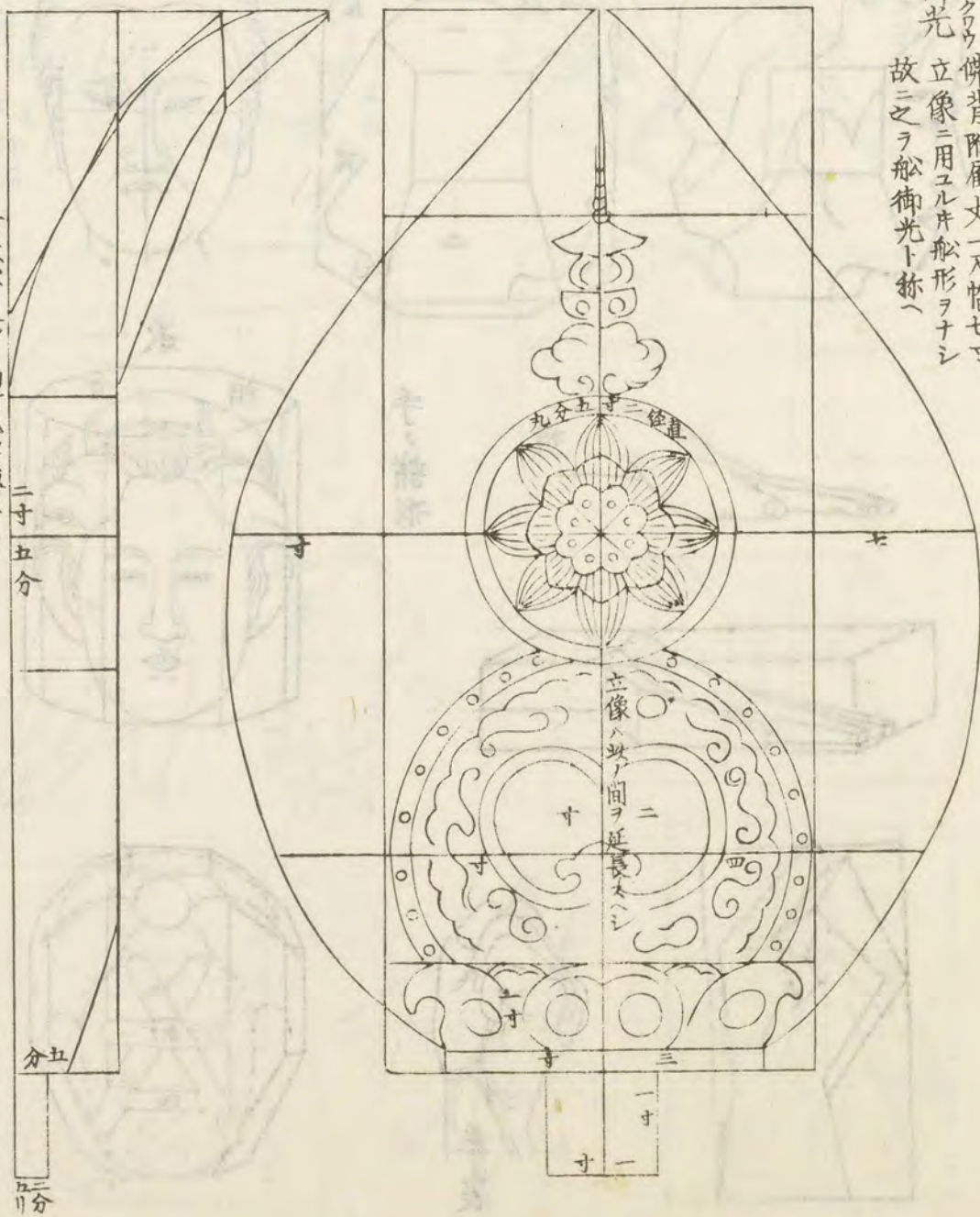
十四日



御光  
 佛背附属丈一尺幅七寸  
 立像ニ用ユル片船形ヲナシ  
 故ニ之ヲ船御光ト称ス

一尺

横



右木寄法ハ高村光雲傳ヘタリ

二寸五分

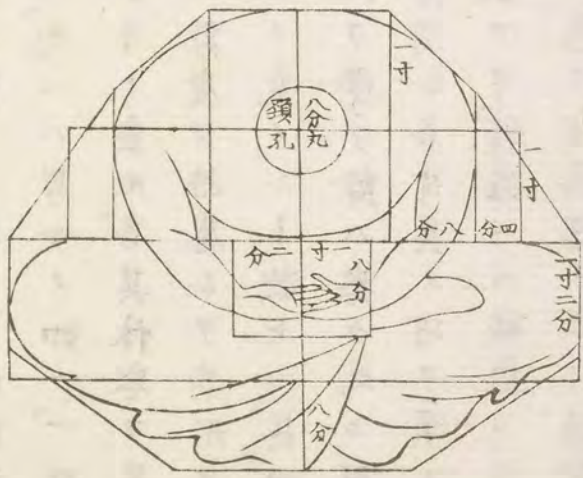
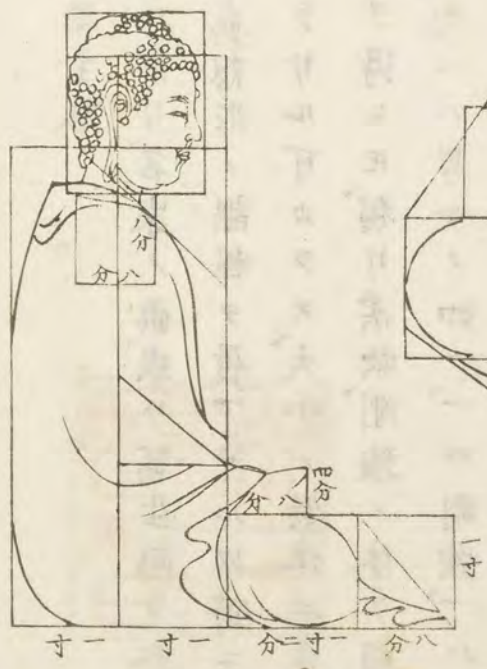
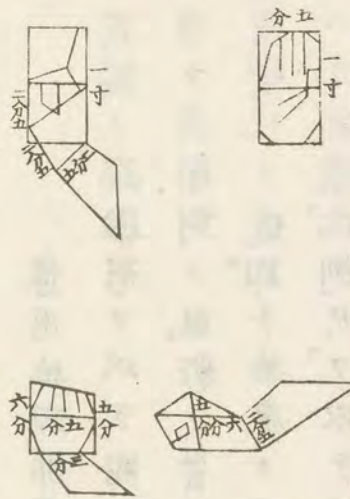
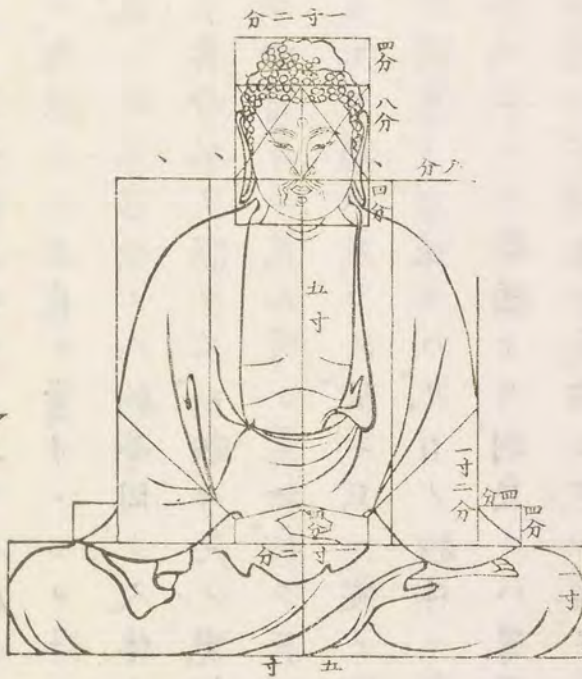
五分

五分

一寸  
 一寸

佛像

本寄法 八規則ト称ヘ一寸ヲツツ半又寸ヲツツ小半ト去  
坐像八五寸立像八二尺共三額ヨリ起算セリ



象牙彫刻法坤

應用推理佛像顔面手足全躰

先ツ前編ノ総離形ヲ以テ彫刻ノ大意ヲ悟リ、名家ノ画、或ハ写生画ヲ参考シテ自ラ其彫刻ノ風彩ヲ省ミ、尚未タ真想形ノ課程ヲ履マサル以前ニ於テ應用變化ノ道、即チ推慮ノ方法ヲ知ラサル可カラス、大小ノ物体ニ應用スルハ、比例線、比例尺ヲ以テ伸縮スルヲ得レド、獨リ柔軟、剛強ノ体ヲ顯ハスニ、無形上ノ推慮ヲ費サ、ルヲ得ス、例ヘハ男女ノ如ク、一ハ剛強、一ハ柔軟、或ハ佛像、當世ノ人物等同ク人体ナリト、虫、凡各其体容ヲ異ニセリ、故ニ餘ク其骨格ヲ誤ラス、面貌手足ノ現相態度ヲ推慮シテ其形ヲ造ルヘシ、凡ソ宇宙間目ニ見ル所ノ萬物、悉ク其理ヲ究メント欲セハ、其研究ニ一世ヲ費スモ日猶ホ足ラス、故ニ只一定ノ理ヲ學テ餘ハ悉ク之ニ因テ見識類推シテ其意ヲ想像セハ、凡百ノ物体ニ應用シ各奇異ノ巧ヲ顯ス、トヲ得ヘシ、其外毛獸ニハ麒麟アリ、羽鳥ニハ鳳凰アリ、鱗蟲ニハ蛟龍アリ、此等皆古人カ想像ヨリ其形ヲ造出シタル者タリ、苟モ此思想ヲ以テ通常在ル所ノ動物ヲ觀テ之ヲ彫刻セハ、写生、寫意、共ニ其宜キヲ得ルニ度幾ランカ、



Vol. 2

象牙鹿刻法

坤

## DAWSON'S BOOK SHOP

550 South Figueroa Street, Los Angeles, California 90017 : MADison 6-6729



ZOGE CHOKOKU HO (Technique of Ivory Carving and Sculpture). By Kuninosuke Soma. 2 vols, in cloth case. First edition was 1890 and this example is probably 1900. No date but a change of ownership in the copyright is mentioned as March 18, 1900. Published by Kinbei Yoshida, Tokyo.

Woodblock printing, with illustrations showing tools of ivory carving, perspective, and suggested designs for various sizes of ivory.